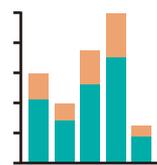


保土ヶ谷ほっとなまちづくり



地区別
データ集



2025年3月発行
保土ヶ谷区役所

目次

区域編

ア 人口(年齢区分別)の推移と将来推計	2
イ 人口ピラミッド	2
ウ 外国人人口・外国人人口比率	3
エ 外国人の国籍割合	3
オ 家族類型別世帯数の推移と推計	4
カ 合計特殊出生率、出生数の推移及び初婚年齢の平均の推移	5
キ 平均寿命と健康寿命の推移(横浜市)	6
ク 老年人口	6
ケ 高齢夫婦世帯と高齢単独世帯の推移	7
コ 認知症高齢者数推計(横浜市)	7
サ 子育てしやすい町になるために充実が求められるもの	8
シ あったらいいなと思う場所【子ども本人向けの質問】(横浜市)	8
ス 児童虐待対応件数の推移(横浜市)	9
セ 障害者手帳所持者数と人口割合	10
ソ 現在暮らしているところ(横浜市)	10

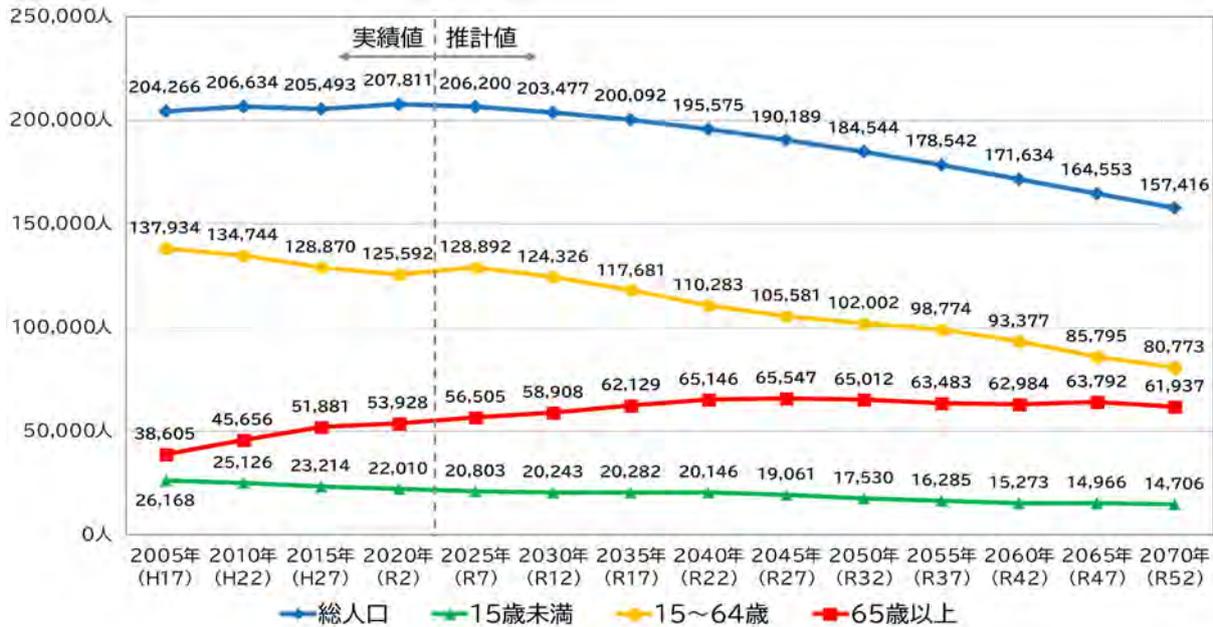
22 地区別編

保土ヶ谷地区	12	和田・釜台地区	34
保土ヶ谷南部地区	14	上星川地区	36
保土ヶ谷中地区	16	常盤台地区	38
岩井町原地区	18	西谷地区	40
保土ヶ谷西部地区	20	川島東部地区	42
新桜ヶ丘地区	22	仏向地区	44
権太坂境木地区	24	川島原地区	46
保土ヶ谷東部地区	26	上新地区	48
岩間地区	28	上菅田地区	50
中央地区	30	笹山地区	52
中央東部地区	32	千丸台地区	54

区域編

ア. 人口(年齢区分別)の推移と将来推計

保土ヶ谷区の総人口は2005年から2020年にかけて増加傾向にありましたが、その後は減少傾向に転じています。年齢別で見ると、2020年まで減少傾向にあった15歳未満と15～64歳の人口は、2025年以降も引き続き減少が予測されています。一方、65歳以上の人口は2020年までの増加傾向が2045年まで続き、その後は横ばいになると予測されています。

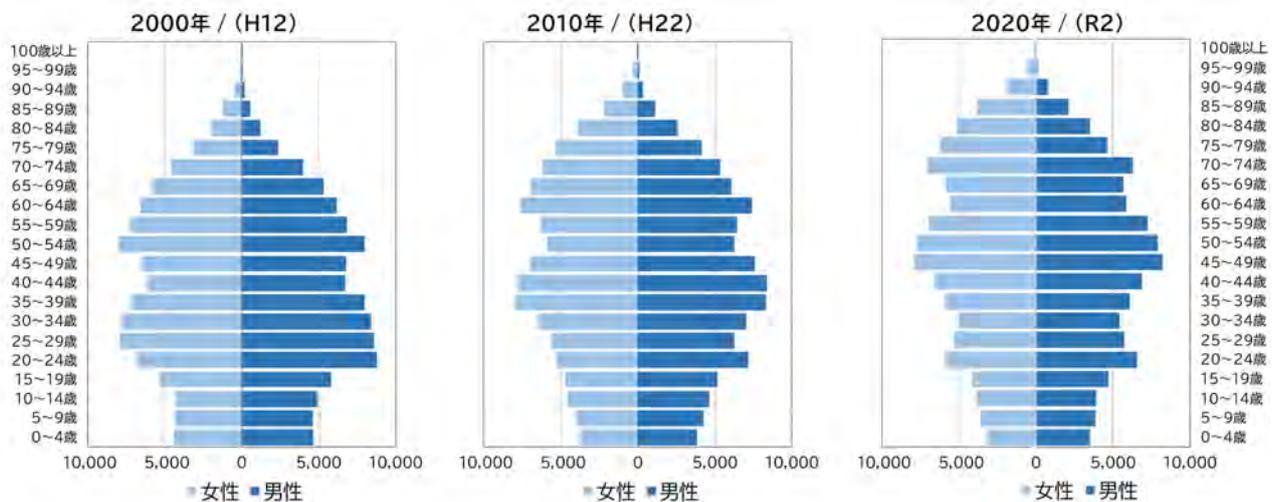


注)実績の総数は年齢不詳を含む

出典)2020年までは国勢調査、2025年以降は横浜市政策局「横浜市将来人口推計」

イ. 人口ピラミッド

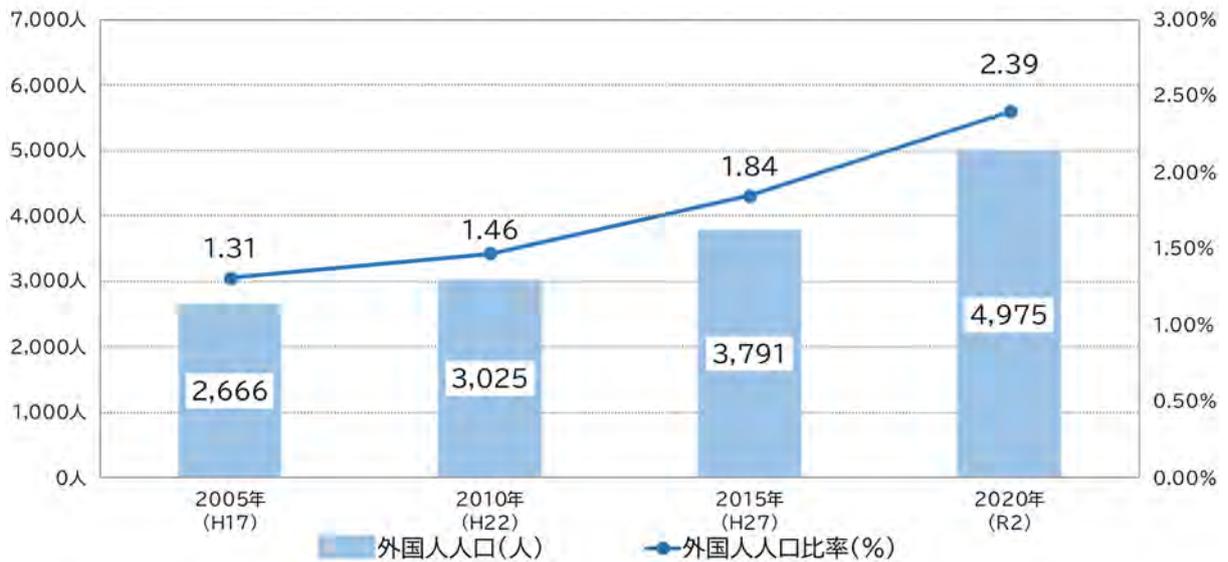
2000年から2020年にかけて、人口ピラミッドは底辺が狭く、上部が広がる「つぼ型」の特徴がより強くなっています。これは少子高齢化が進んでいることを示しています。また、2020年には、1947年から1949年にかけて生まれた「団塊の世代」が70歳代となり、高齢化が進んでいます。



出典)国勢調査

ウ. 外国人人口・外国人人口比率

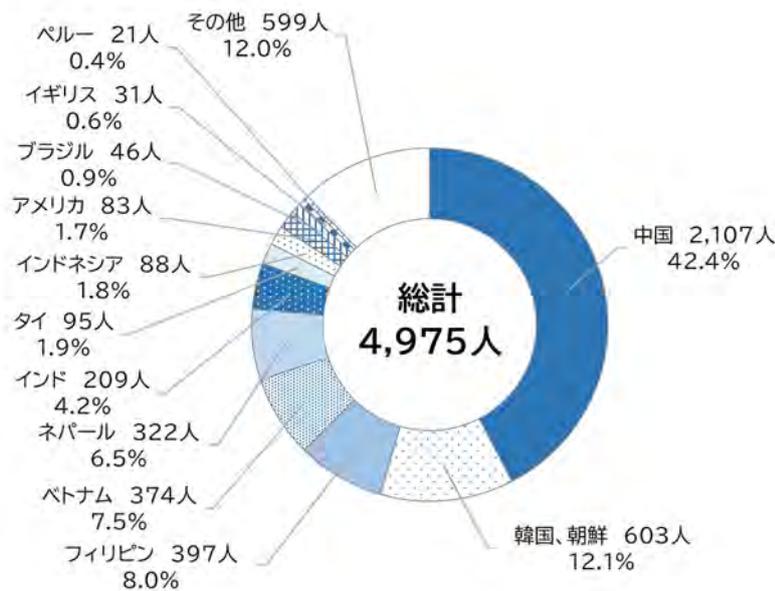
外国人人口は増加傾向にあり、2020年には約5,000人となっています。これに伴い、外国人人口比率も上昇しており、2020年には2.39%となっています。



出典)国勢調査

エ. 外国人の国籍割合

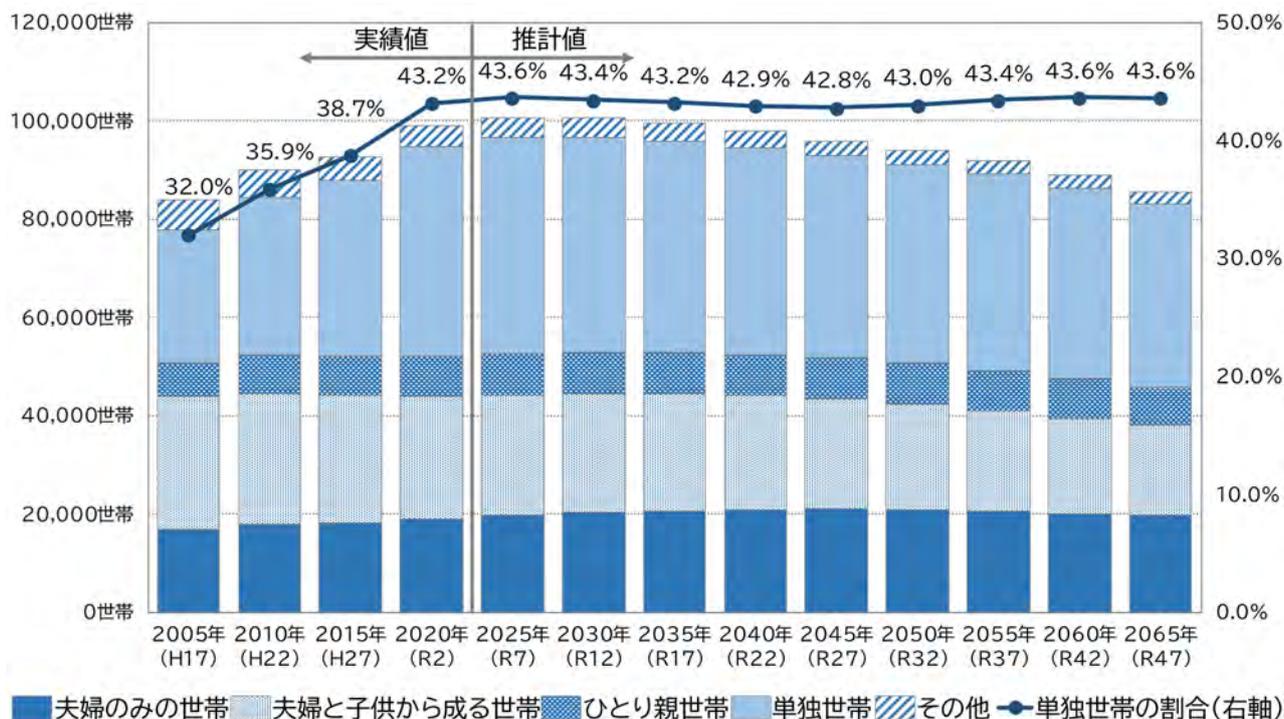
外国人の国籍を見ると、「中国」が42.4%を占め、突出しています。次いで、「韓国・朝鮮」、「フィリピン」、「ベトナム」が10%前後を占め、上位となっています。



出典)令和2年国勢調査

オ. 家族類型別世帯数の推移と推計

家族類型別世帯数の推移を見ると、「単独世帯」の割合が年々増加しており、2025年には43.6%に達しますが、その後は横ばいになると予測されています。一方、2020年まで増加傾向にあった「夫婦のみの世帯」は2030年までは緩やかな上昇が続きますが、2035年から横ばいとなり、2045年以降は減少に転ずると予測されています。また、「夫婦と子供から成る世帯」は2005年から2020年にかけて緩やかに減少しており、2025年以降も減少が続くと予測されています。



出典)2020年までは国勢調査、2025年以降は横浜市政策局「横浜市将来人口推計」

カ. 合計特殊出生率、出生数の推移及び初婚年齢の平均の推移

出生数は2010年までは上昇が見られることがありましたが、その後は横ばい、2016年以降は減少傾向が続いています。合計特殊出生率も2005年から2016年にかけて上昇傾向でしたが、その後は減少傾向が続いています。

初婚年齢の平均の推移を見ると、2005年から2009年にかけては、夫は29歳後半、妻は27歳～28歳でしたが、リーマンショック後の2010年から2019年では、夫が30歳前半、妻が28歳後半と晩婚化が進みました。2020年、2021年は夫、妻ともに2009年以前の水準になりましたが、2022年は夫が30.7歳、妻が29.3歳と晩婚化の傾向に戻っています。



出典)横浜市「横浜市統計書」(出生の福祉保健センター別状況)



出典)横浜市「横浜市統計書」(婚姻の福祉保健センター別状況)

キ. 平均寿命と健康寿命の推移(横浜市)

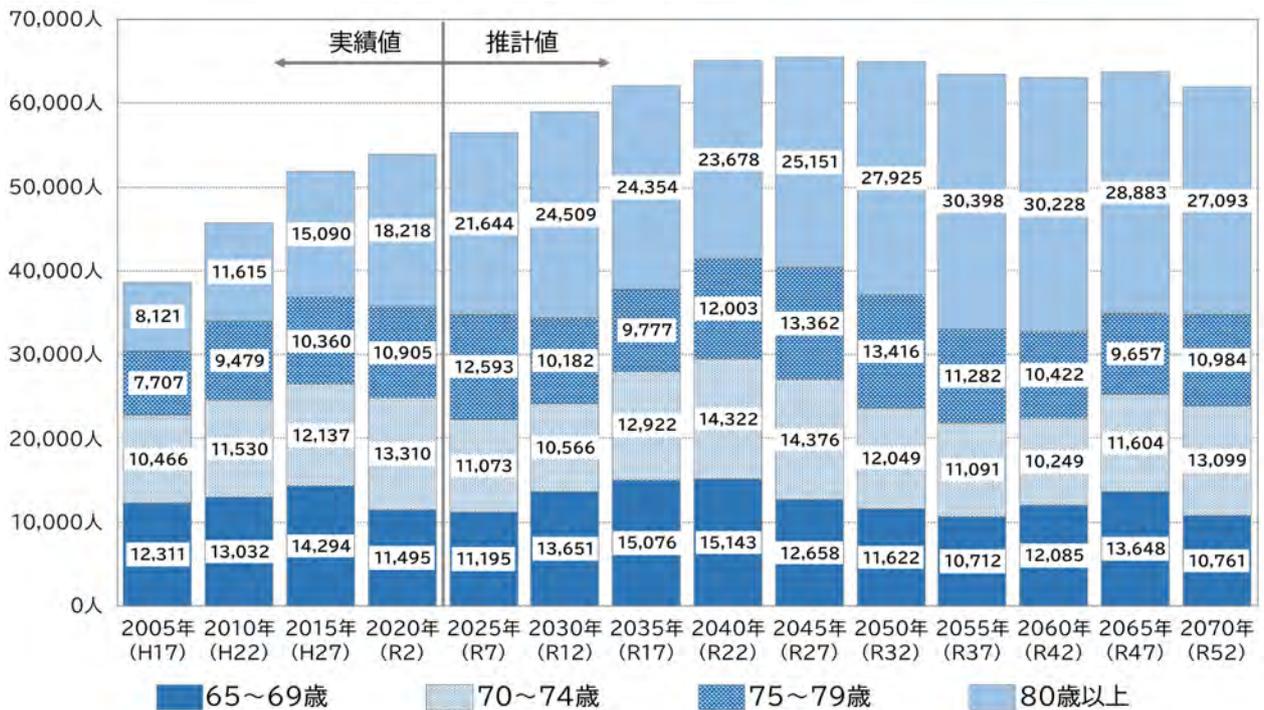
男性の平均寿命と健康寿命は、2013年以降伸び続けており、その差はおおむね10年弱となっています。女性の健康寿命は、2013年から2016年にかけて縮小しているものの、2016年から2019年にかけて平均寿命、健康寿命ともに伸びており、その差は12歳前後となっています。



出典)第3期健康横浜 21

ク. 老年人口

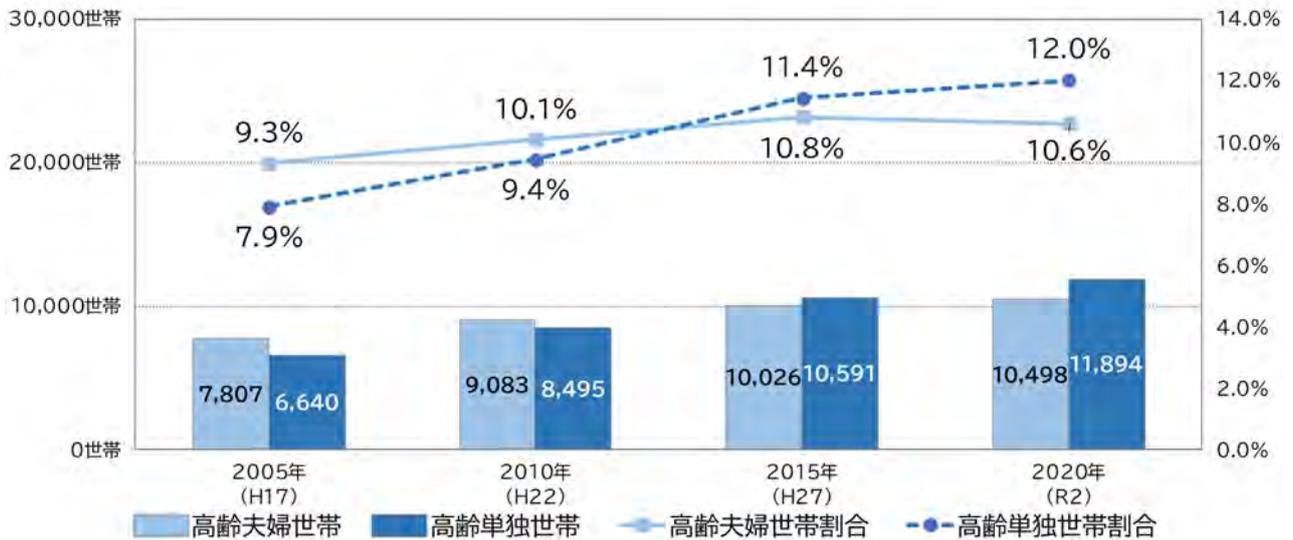
保土ヶ谷区の65歳以上の老年人口は増加傾向にあり、2045年頃までは増加が続くと見られています。特に75歳以上の後期高齢者の増加は顕著であり、2020年に約29,000人であった人口が、2050年には40,000人を超えると予測されています。



出典)2020年までは国勢調査、2025年以降は横浜市政策局「横浜市将来人口推計」

ケ. 高齢夫婦世帯と高齢単独世帯の推移

高齢者世帯数(夫 65 歳以上、妻 60 歳以上の夫婦 1 組のみの一般世帯)は増加傾向にあります
が、高齢単独世帯(65 歳以上の高齢者が単身で暮らしている世帯)の増加はより顕著となっ
ています。高齢夫婦世帯割合は 2015 年から 2020 年にかけて横ばいに転じているのに対し
て、高齢単独世帯割合は上昇を続けています。



出典)国勢調査

コ. 認知症高齢者数推計(横浜市)

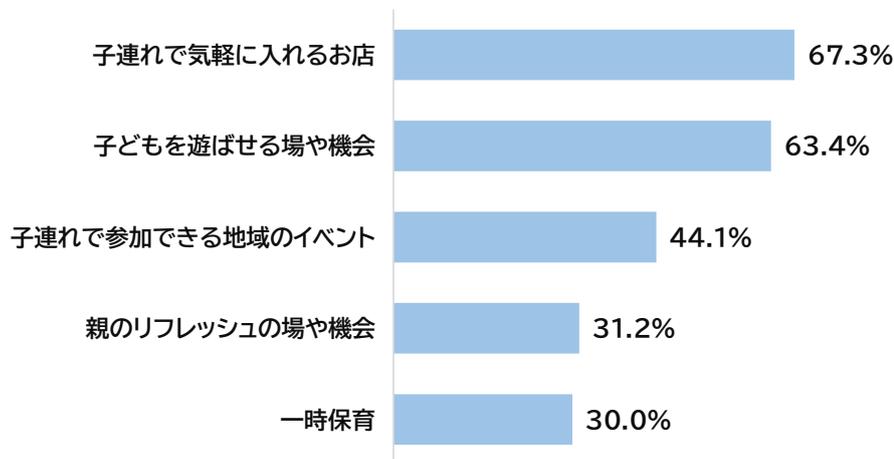
認知症高齢者数は増加の一途をたどっており、2020 年からの 20 年間で約 1.8 倍になることが
見込まれています。高齢者に占める割合も上昇し、2040 年には高齢者の約 4 人に 1 人が認知症高
齢者になると予測されています。



出典)よこはまポジティブエイジング計画

サ. 子育てしやすい町になるために充実が求められるもの

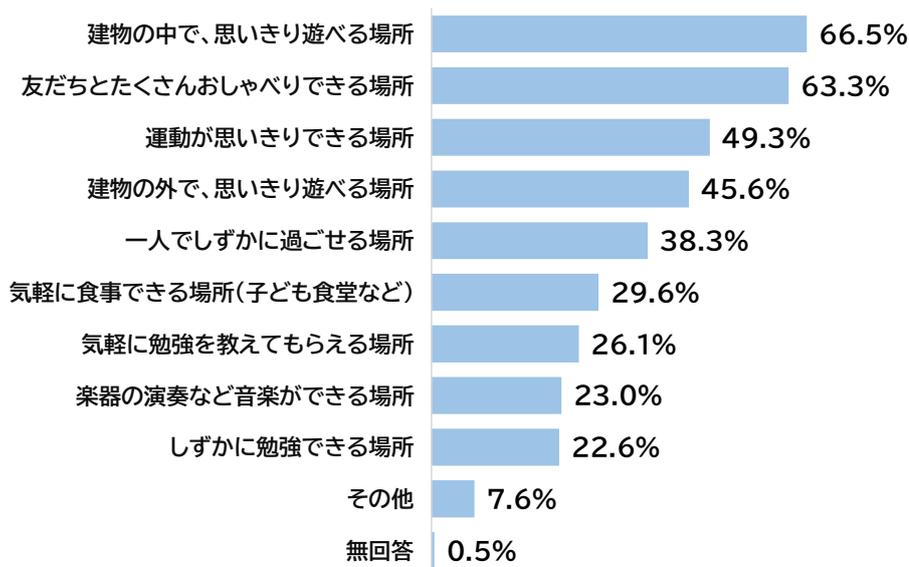
子育てしやすい町になるために充実が求められるものを見ると、「子連れで気軽に入れるお店」や「子どもを遊ばせる場や機会」が6割超で上位となっています。子どもと一緒に過ごせる場所や機会の創出が望まれています。



出典)令和4年度保土ヶ区子育てアンケート

シ. あったらしいなと思う場所【子ども本人向けの質問】(横浜市)

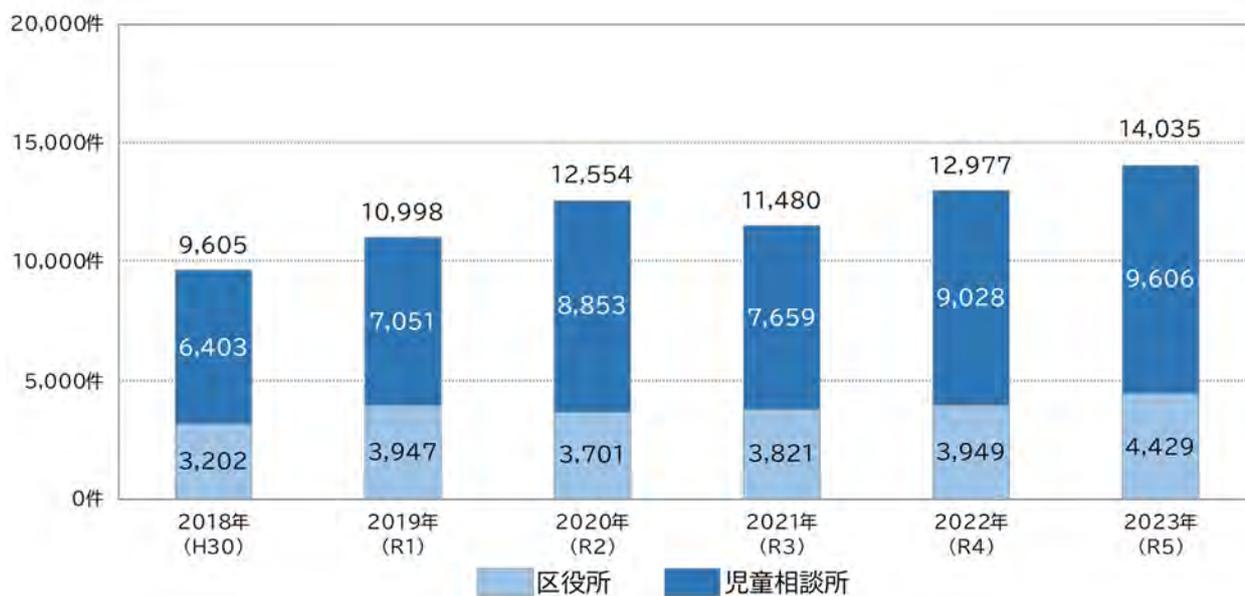
小学4年生から6年生の子どもが求める場所としては、「建物の中で、思いきり遊べる場所」や「友だちとたくさんおしゃべりできる場所」が上位を占めています。天候に関わらず遊ぶことのできる屋内施設や友だちとの交流がしやすい場所へのニーズが表れています。



出典)第3期横浜市子ども・子育て支援事業計画策定に向けた利用ニーズ把握のための調査(令和5年)

ス. 児童虐待対応件数の推移(横浜市)

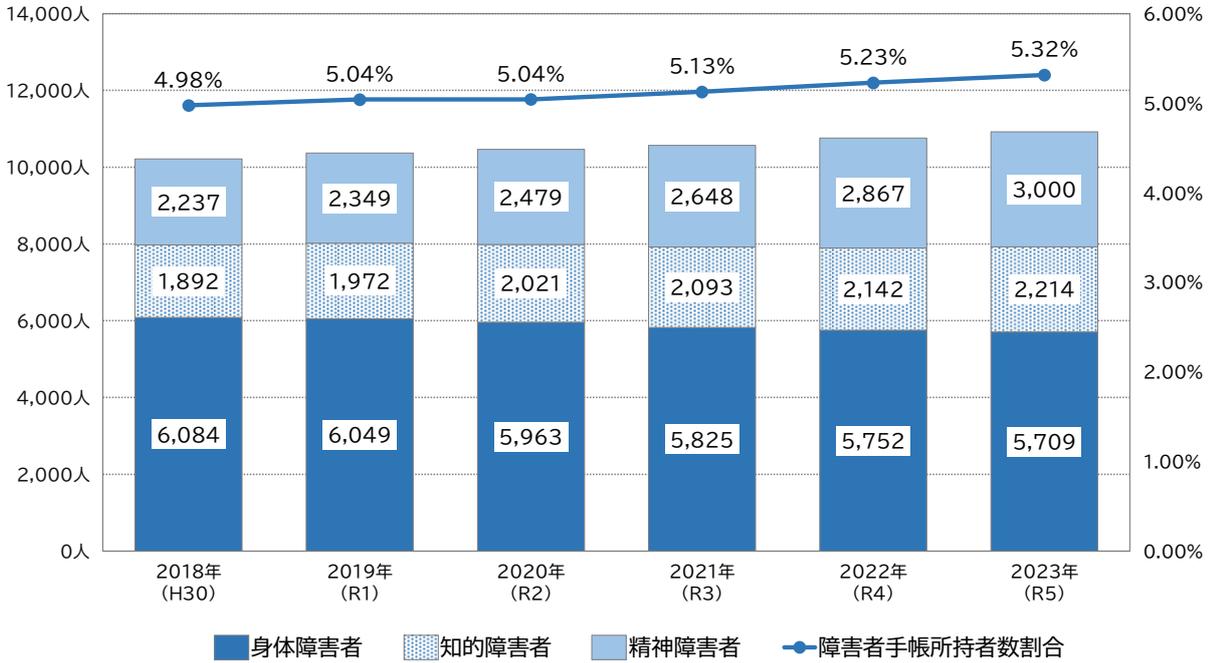
区役所や児童相談所が対応する児童虐待の件数は年々増加傾向にあります。横浜市全体では、2021年度を除いて毎年1,000件を超えるペースで増加しています。



出典)こども青少年局記者発表資料(令和5年5月26日、令和6年6月19日)

セ. 障害者手帳所持者数と人口割合

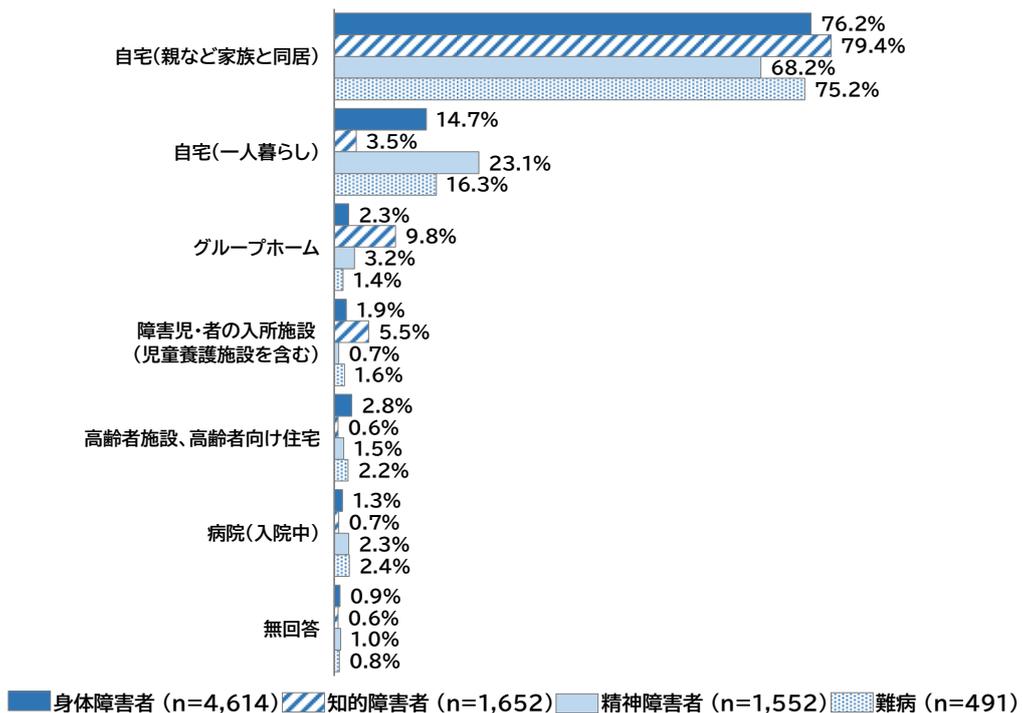
障害者手帳所持者数、人口に占める割合ともに緩やかに増加しています。身体障害者手帳の所持者数はほぼ横ばいとなっていますが、精神障害者手帳の所持者数が増加しています。



出典)横浜市統計書、健康福祉局障害施策推進課

ソ. 現在暮らしているところ(横浜市)

障害者の居住形態は、身体障害・知的障害・精神障害・難病のいずれでも、「自宅(親など家族と同居)」が最も多くなっています。また、身体障害・精神障害・難病では、「自宅(一人暮らし)」が2番目に多くなっているのに対し、知的障害では、「グループホーム」が2番目に多くなっています。



出典:「第4期横浜市障害者プラン策定に向けたニーズ把握調査」(2020年3月)

22 地区別編

地区別の将来人口の推計の方法

小地域の推計の場合、人口移動の要因を把握することが困難であることから、過去の人口変動の傾向を基にした簡便なコーホート変化率法を用いた。

注)コーホートとは同年(または同期間)に出生した集団を意味する人口学上の概念。

例えば 0～4 歳人口など。



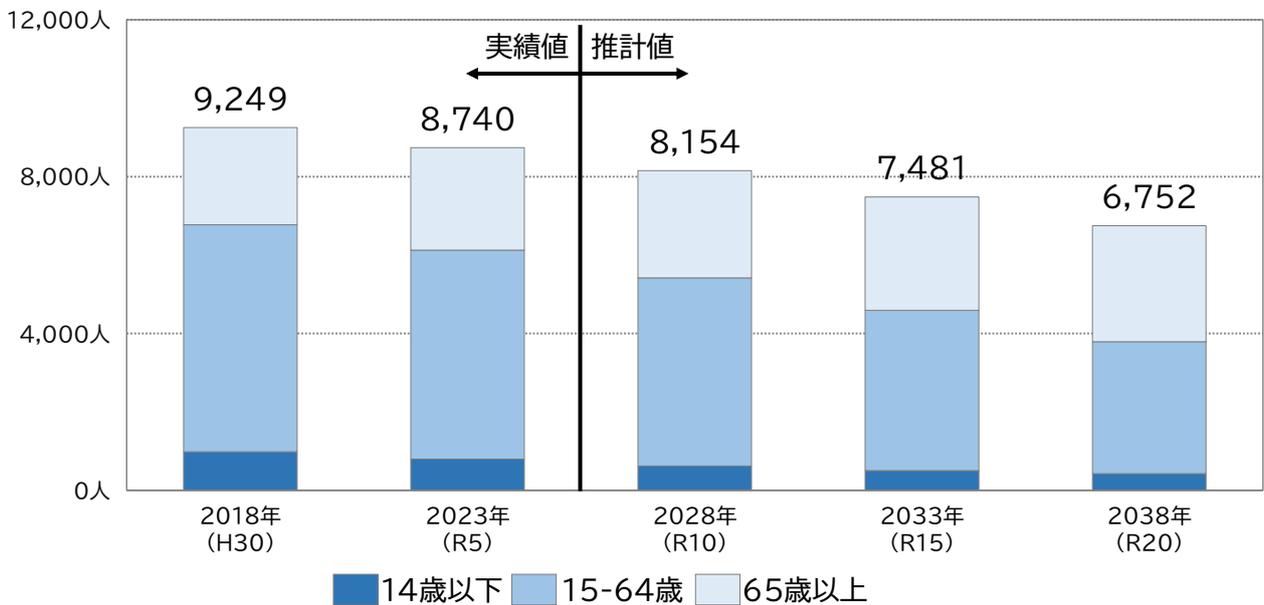
保土ヶ谷地区

2023年(令和5年)時点

	世帯数	総人口	0~14歳	15~64歳	65歳~
保土ヶ谷地区	4,202 世帯	8,740 人	797 人	5,331 人	2,612 人
保土ヶ谷区	104,538 世帯	203,241 人	21,408 人	127,678 人	54,155 人

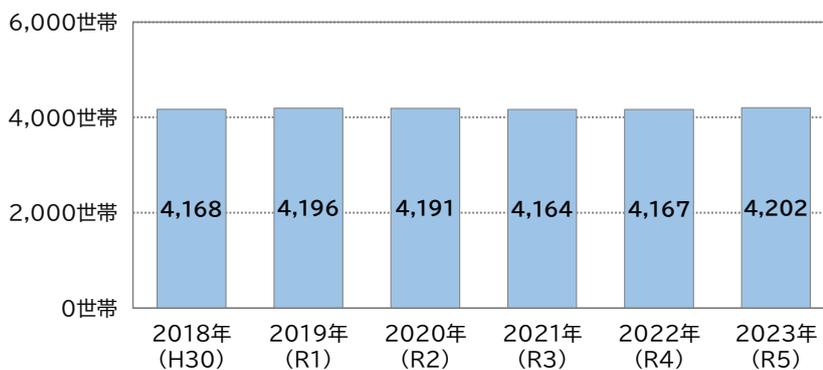
人口推移と将来推計

保土ヶ谷地区では、2023年に約8,700人だった総人口が、15年後の2038年には約23%減少し、約6,800人になると予測されています。これは、14歳以下と15-64歳の人口減少によるものであり、人口減少とともに、高齢化が進行すると考えられます。



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

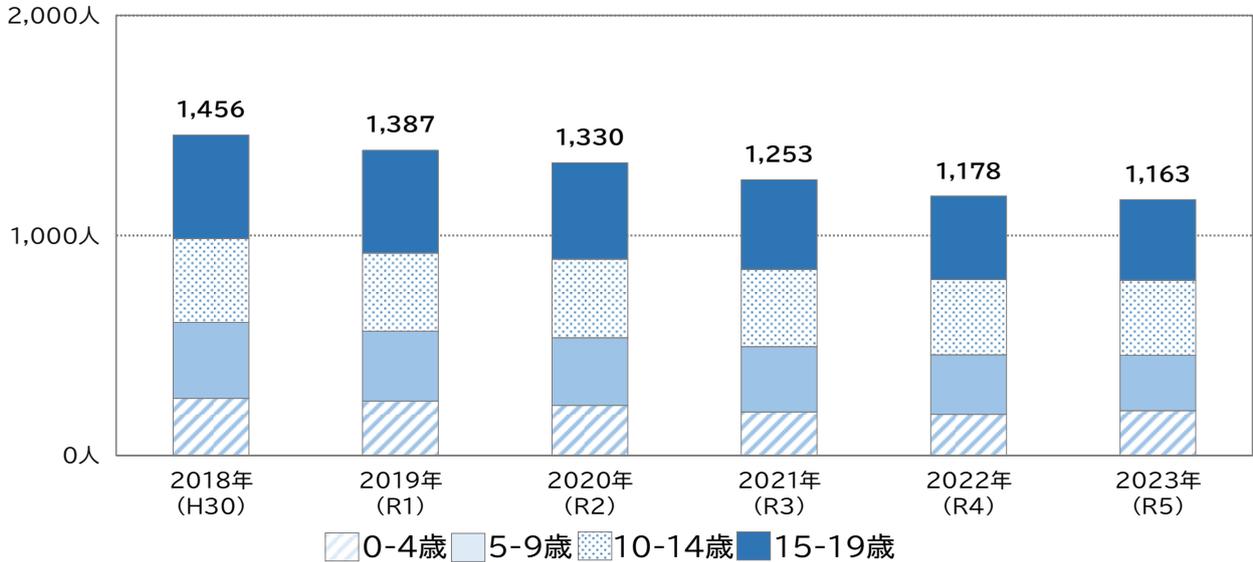
世帯数の推移



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

0～19歳の人口

保土ヶ谷地区の若年人口は、2018年から2023年にかけて減少しています。2018年に1,456人だった19歳以下の人口は、2023年にかけて約20%減少し、1,163人となっています。特に、0-4歳、5-9歳、15-19歳の減少が目立つほか、10-14歳も2018年から2019年にかけて大幅に減少しています。

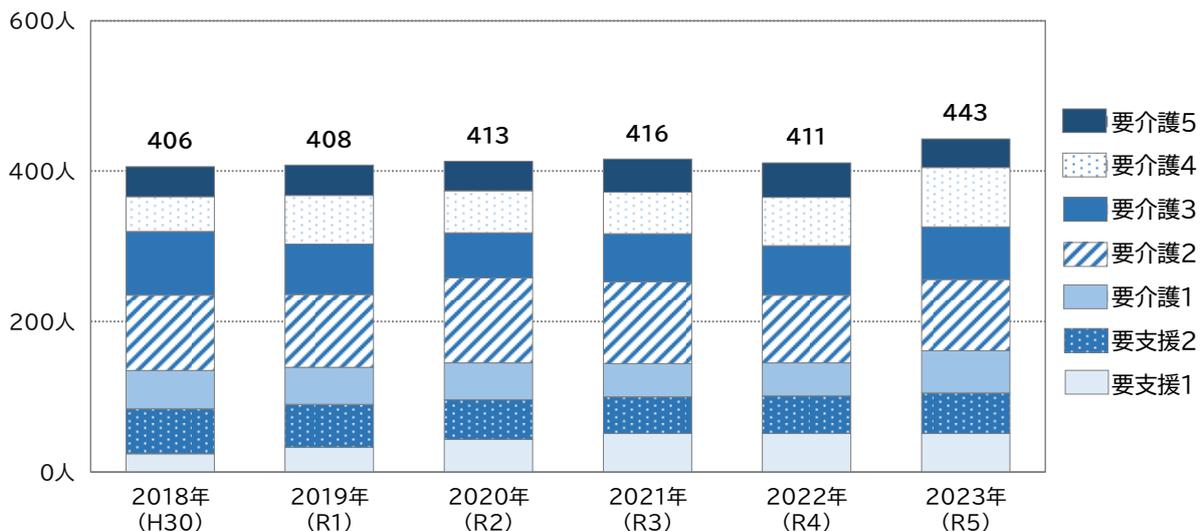


出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

高齢化率、介護保険認定者数

2023年の高齢化率は保土ヶ谷区全体の26.6%を上回る29.9%となっており、高齢化が進んでいます。介護保険認定者数は2018年には406人でしたが、2023年にかけて約9%増加し、443人となっています。特に要支援1と要介護4の増加が目立っています。

高齢化率 地区:29.9% 保土ヶ谷区全体:26.6%



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)



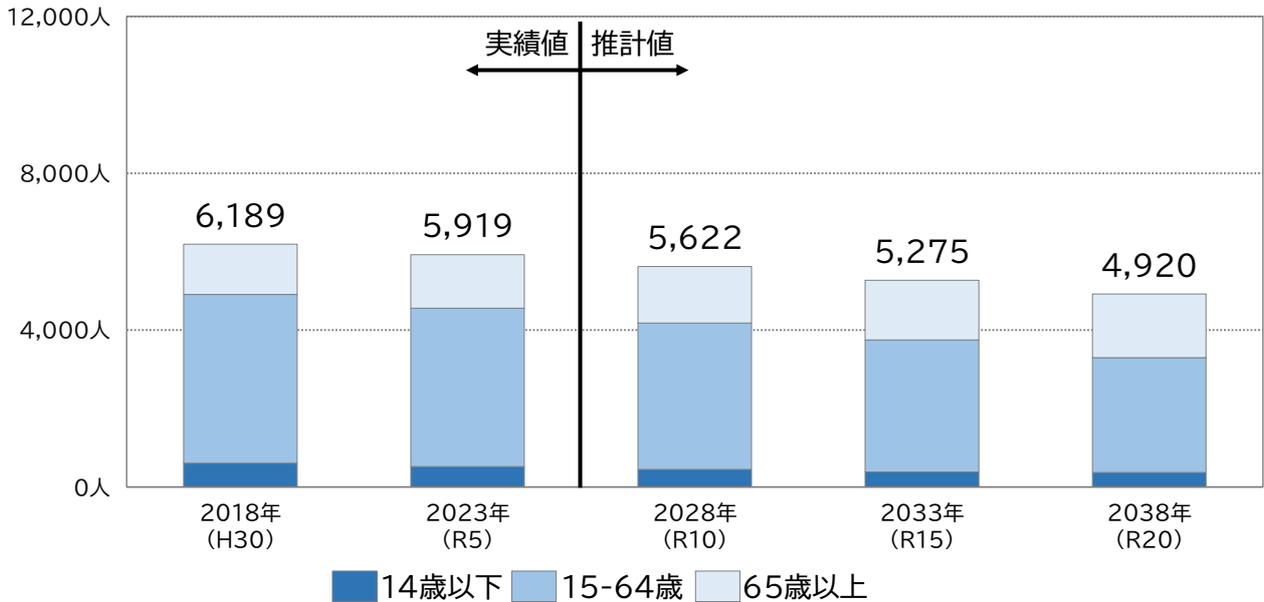
保土ヶ谷南部地区

2023年(令和5年)時点

	世帯数	総人口	0~14歳	15~64歳	65歳~
保土ヶ谷南部地区	3,267世帯	5,919人	521人	4,041人	1,357人
保土ヶ谷区	104,538世帯	203,241人	21,408人	127,678人	54,155人

人口推移と将来推計

保土ヶ谷南部地区では、2023年に約5,900人だった総人口が、15年後の2038年には約17%減少し、約4,900人になると予測されています。65歳以上の人口は、2038年まで増加傾向にあるのに対して、14歳以下と15-64歳の人口はともに減少傾向にあるため、人口減少とともに、高齢化が進行すると考えられます。



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

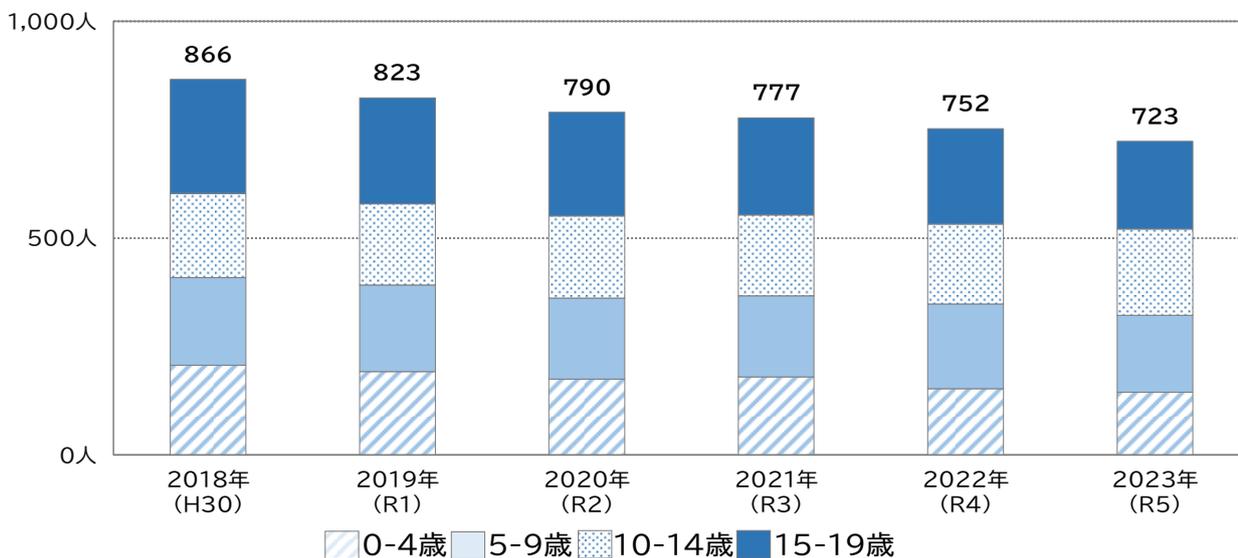
世帯数の推移



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

0～19歳の人口

保土ヶ谷南部地区の若年人口は、2018年から2023年にかけて減少しています。2018年に866人だった19歳以下の人口は、2023年にかけて約17%減少し、723人となっています。10-14歳は2022年まで緩やかに減少した後、2022年から2023年にかけて増加していますが、0-4歳と15-19歳は減少が目立っています。

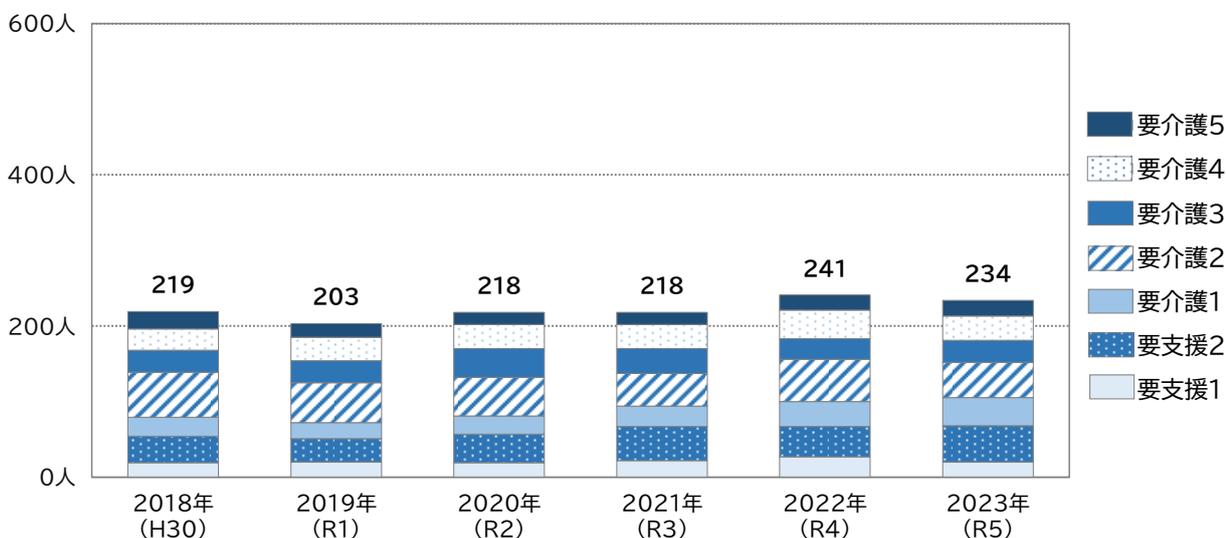


出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

高齢化率、介護保険認定者数

2023年の高齢化率は、保土ヶ谷区全体の26.6%を下回る22.9%となっており、比較的高齢化は進んでいません。介護保険認定者数は2018年から2021年にかけて横ばいで推移していましたが、2021年から2022年にかけて約11%増加し、241人となっています。2021年から2022年にかけて、特に、要介護2の増加が目立っています。

高齢化率 地区:22.9% 保土ヶ谷区全体:26.6%



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)



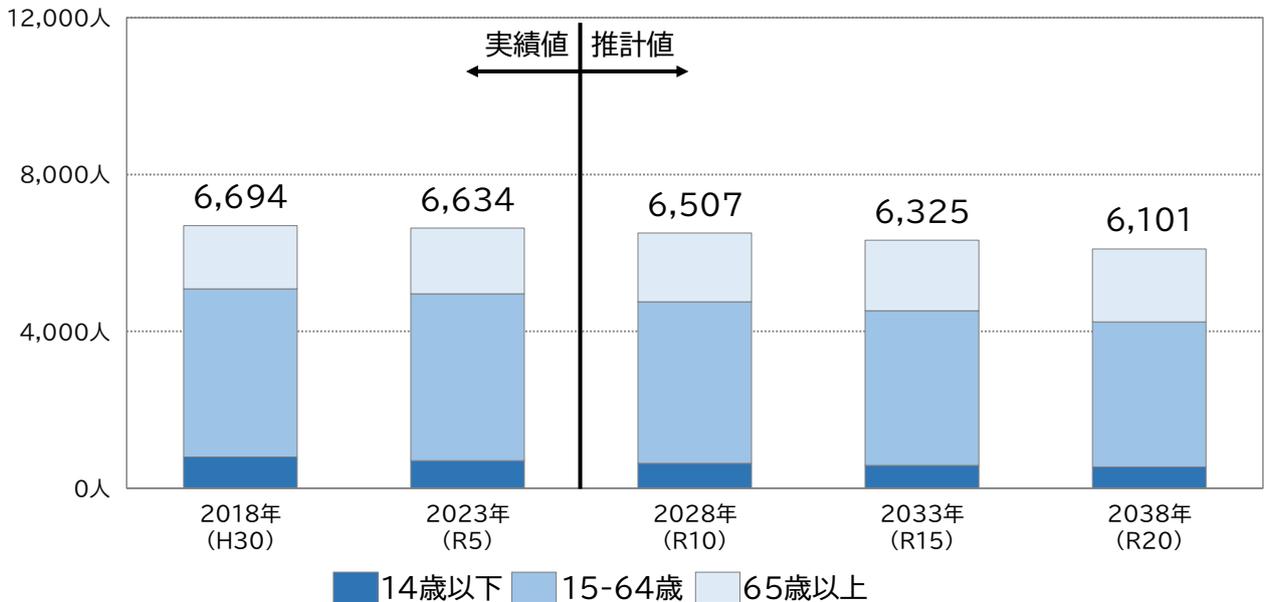
保土ヶ谷中地区

2023年(令和5年)時点

	世帯数	総人口	0~14歳	15~64歳	65歳~
保土ヶ谷中地区	3,538 世帯	6,634 人	700 人	4,258 人	1,676 人
保土ヶ谷区	104,538 世帯	203,241 人	21,408 人	127,678 人	54,155 人

人口推移と将来推計

保土ヶ谷中地区では、2023年に約6,600人だった総人口が、15年後の2038年には約8%減少し、約6,100人になると予測されています。65歳以上の人口は、2038年まで増加傾向にあるのに対して、14歳以下と15-64歳の人口はともに減少傾向にあるため、高齢化は進行すると考えられます。



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

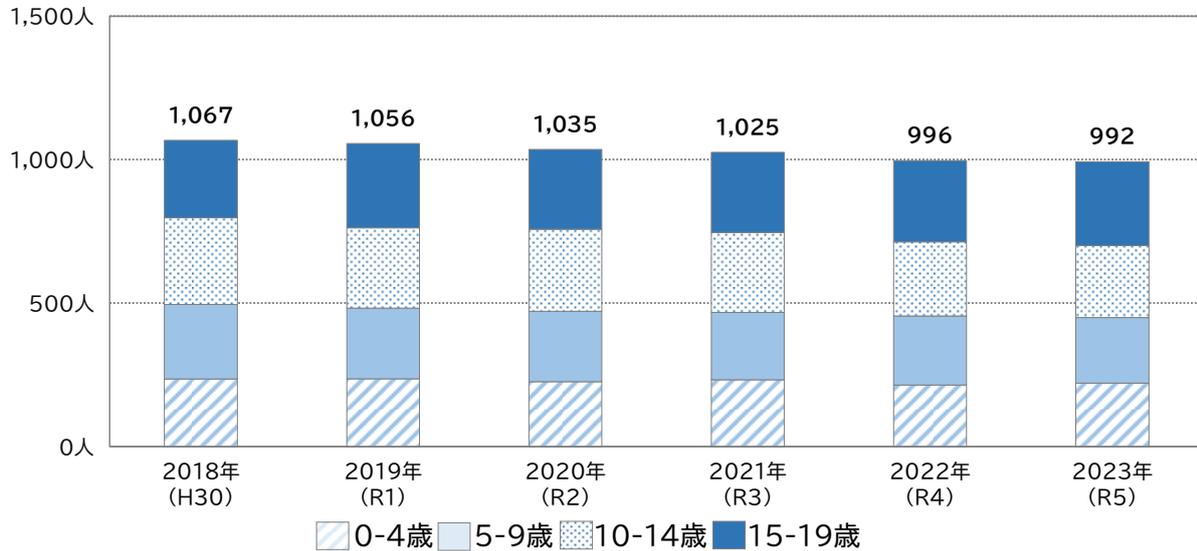
世帯数の推移



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

0～19歳の人口

保土ヶ谷中地区の若年人口は、2018年から2023年にかけて緩やかに減少しています。2018年に1,067人だった19歳以下の人口は、2023年にかけて7%減少し、992人となっています。5-9歳と10-14歳は、2018年から2023年にかけて、減少傾向にあります。15-19歳には増加傾向が見られています。

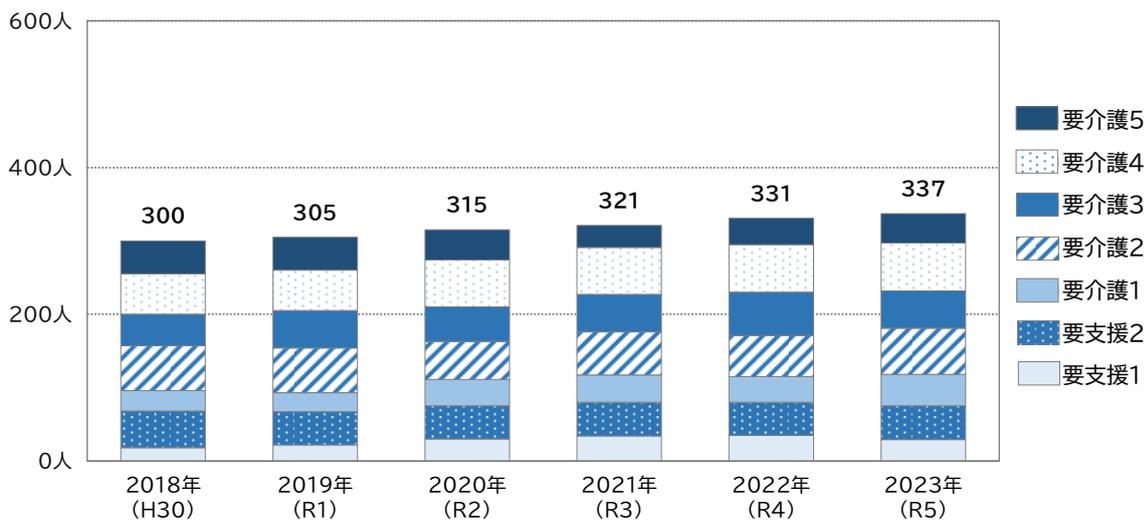


出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

高齢化率、介護保険認定者数

2023年の高齢化率は25.3%で、保土ヶ谷区全体の26.6%と大きく変わりません。一方、介護保険認定者数は2018年には300人でしたが、2023年にかけて約12%増加し、337人となっています。特に、要介護1の増加が目立っています。

高齢化率 地区:25.3% 保土ヶ谷区全体:26.6%



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)



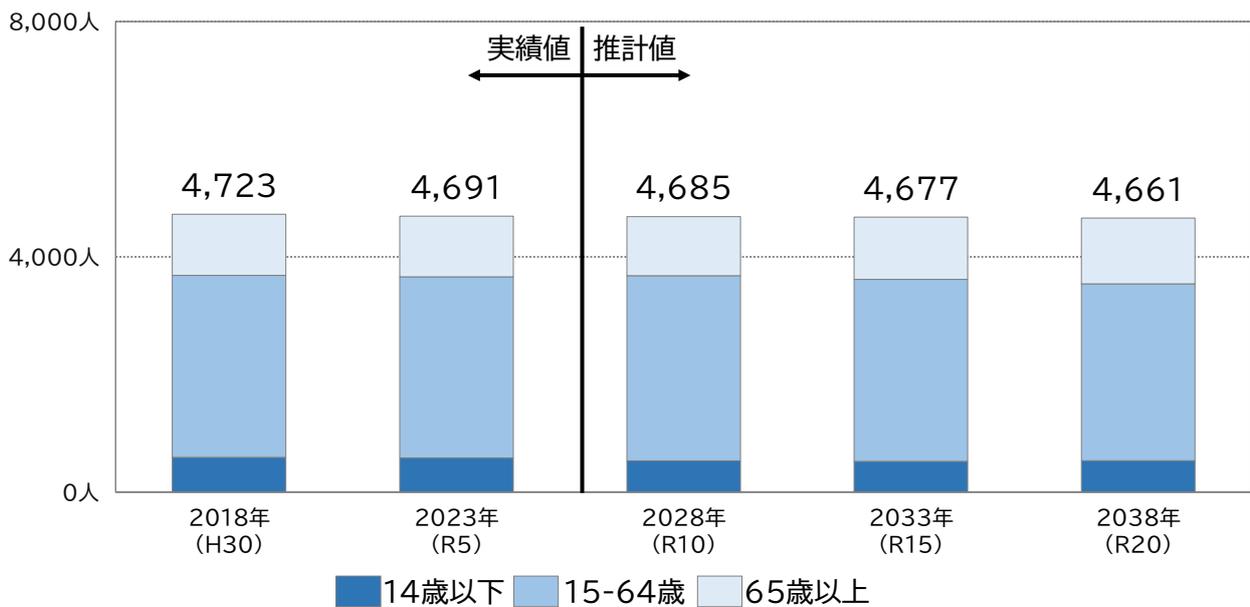
岩井町原地区

2023年(令和5年)時点

	世帯数	総人口	0～14歳	15～64歳	65歳～
岩井町原地区	2,408世帯	4,691人	581人	3,079人	1,031人
保土ヶ谷区	104,538世帯	203,241人	21,408人	127,678人	54,155人

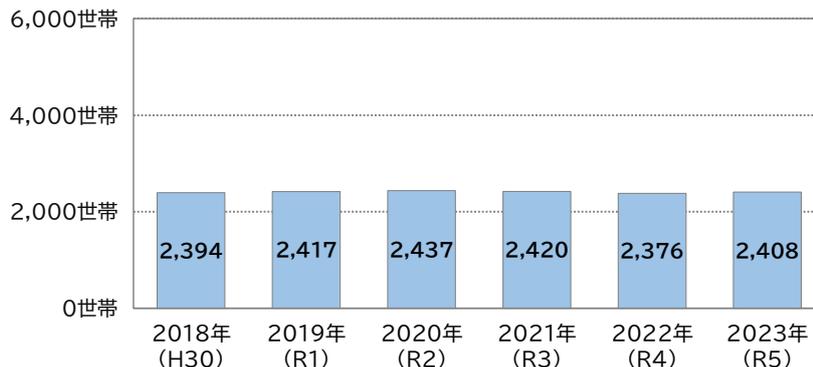
人口推移と将来推計

岩井町原地区では、2023年に約4,700人だった総人口は、15年後の2038年までほぼ横ばいと予測されています。15-64歳の人口は2018年から2038年にかけて緩やかな減少傾向にあります。14歳以下は2033年以降、増加に転ずると予測されています。また、65歳以上は2028年以降、増加に転じますが、緩やかな増加にとどまり、高齢化の進行もゆっくりしたものになると考えられます。



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

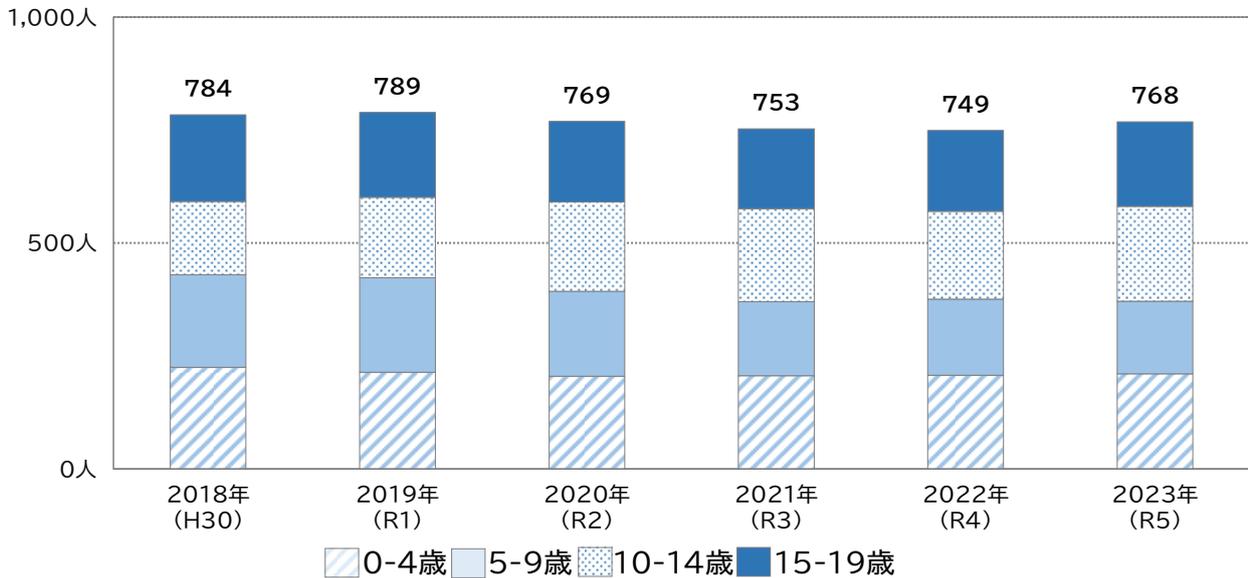
世帯数の推移



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

0～19歳の人口

岩井町原地区の若年人口は、2018年から2023年にかけて横ばいで推移しています。5-9歳の人口は減少していますが、10-14歳は増加しています。

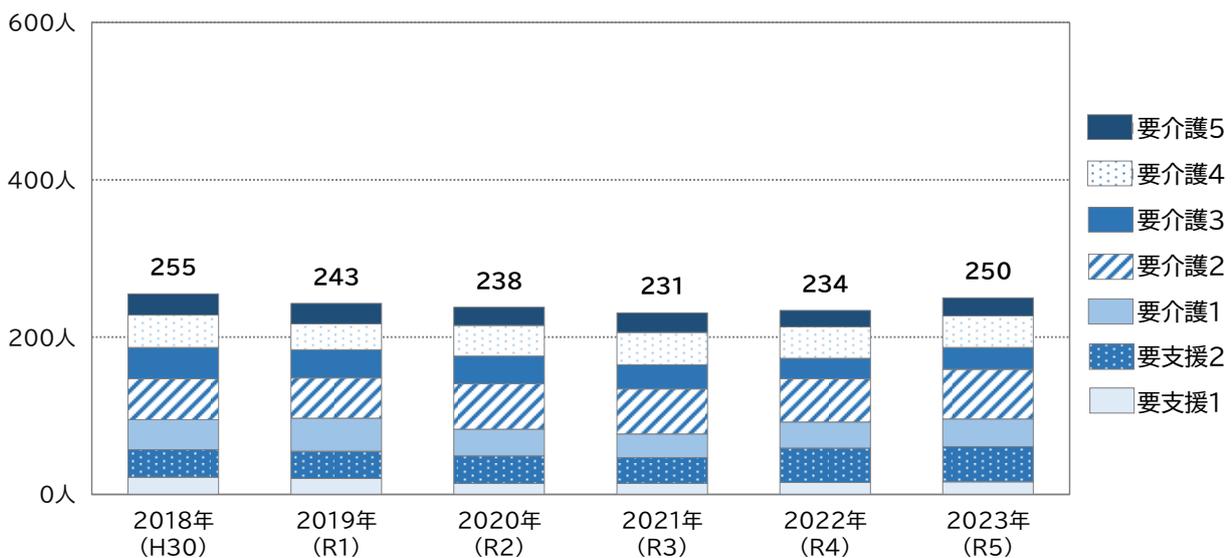


出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

高齢化率、介護保険認定者数

2023年の高齢化率は保土ヶ谷区全体の26.6%を下回る22.0%となっており、比較的高齢化は進んでいません。また、介護保険認定者数は横ばいとなっており、要支援2と要介護2に増加が見られますが、要介護3は減少しています。

高齢化率 地区:22.0% 保土ヶ谷区全体:26.6%



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)



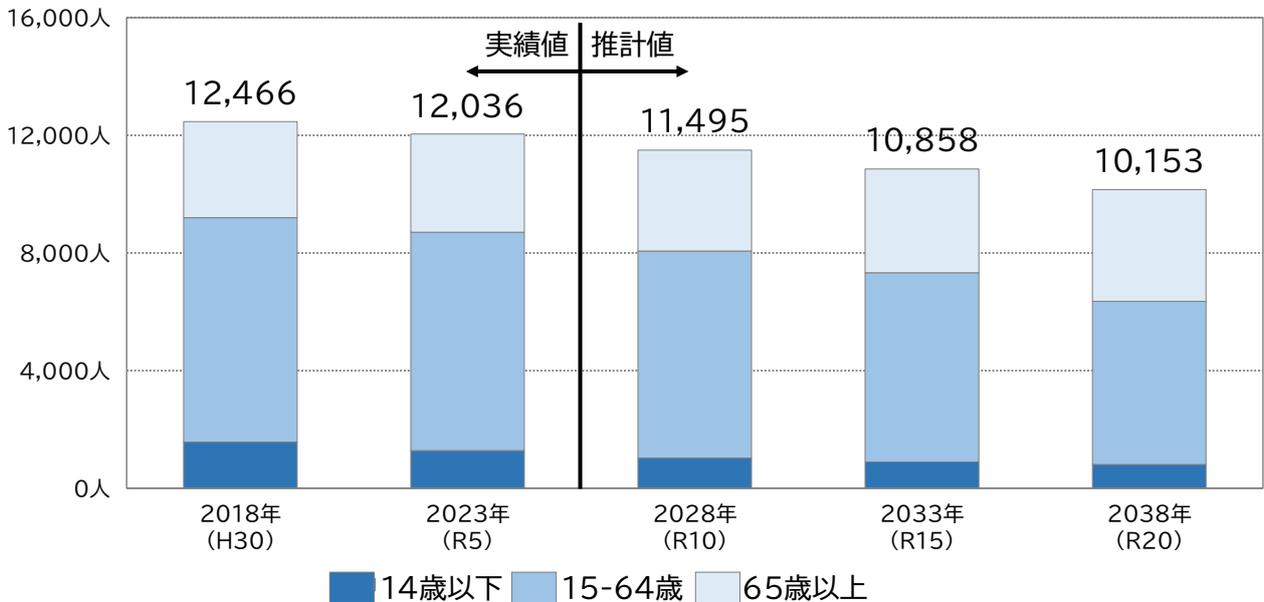
保土ヶ谷西部地区

2023年(令和5年)時点

	世帯数	総人口	0~14歳	15~64歳	65歳~
保土ヶ谷西部地区	5,669世帯	12,036人	1,282人	7,419人	3,335人
保土ヶ谷区	104,538世帯	203,241人	21,408人	127,678人	54,155人

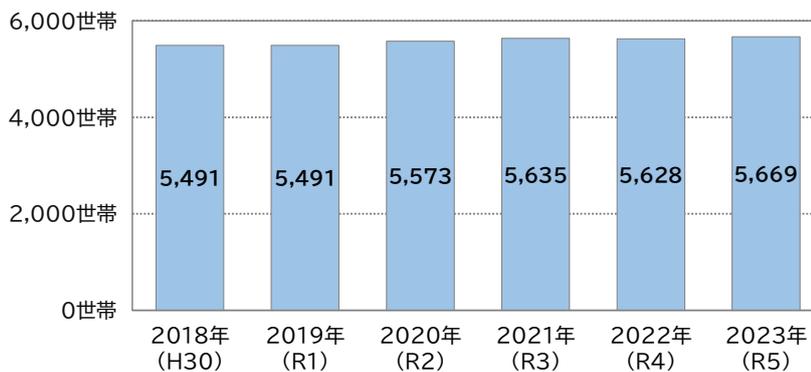
人口推移と将来推計

保土ヶ谷西部地区では、2023年に約12,000人だった総人口が、15年後の2038年には約16%減少し、約10,200人になると予測されています。65歳以上の人口は増加傾向にありますが、14歳以下と15-64歳の人口減少が顕著となっており、人口減少とともに、高齢化が進行すると考えられます。



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

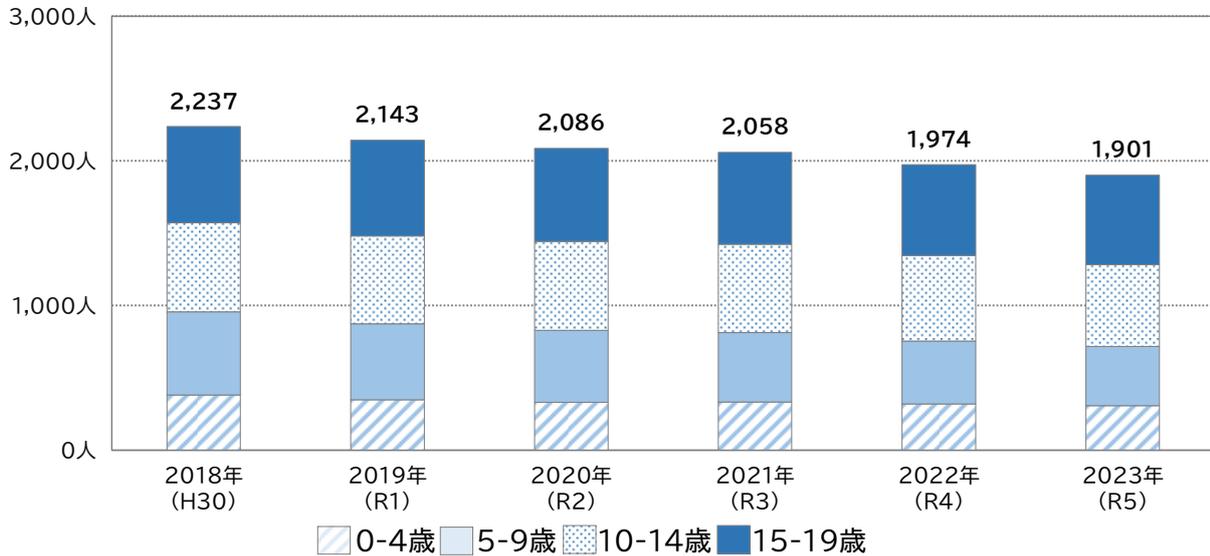
世帯数の推移



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

0～19歳の人口

保土ヶ谷西部地区の若年人口は、2018年から2023年にかけて減少しています。2018年に2,237人だった19歳以下の人口は、2023年にかけて15%減少し、1,901人となっています。中でも、0-4歳と5-9歳の減少が目立っています。

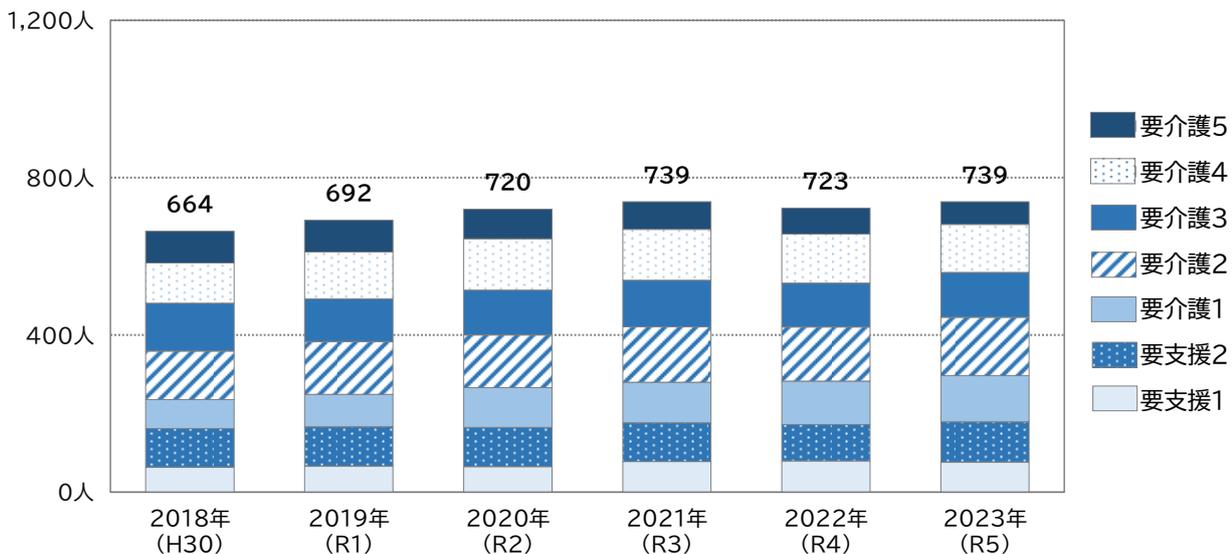


出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

高齢化率、介護保険認定者数

2023年の高齢化率は27.7%で、保土ヶ谷区全体の26.6%と大きく変わりません。介護保険認定者数は2018年から2021年にかけて増加傾向にありましたが、2021年以降、横ばいとなっています。2018年と比べると、要支援1、要介護1、要介護2、要介護4に増加が見られますが、要介護5は減少しています。

高齢化率 地区:27.7% 保土ヶ谷区全体:26.6%



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)



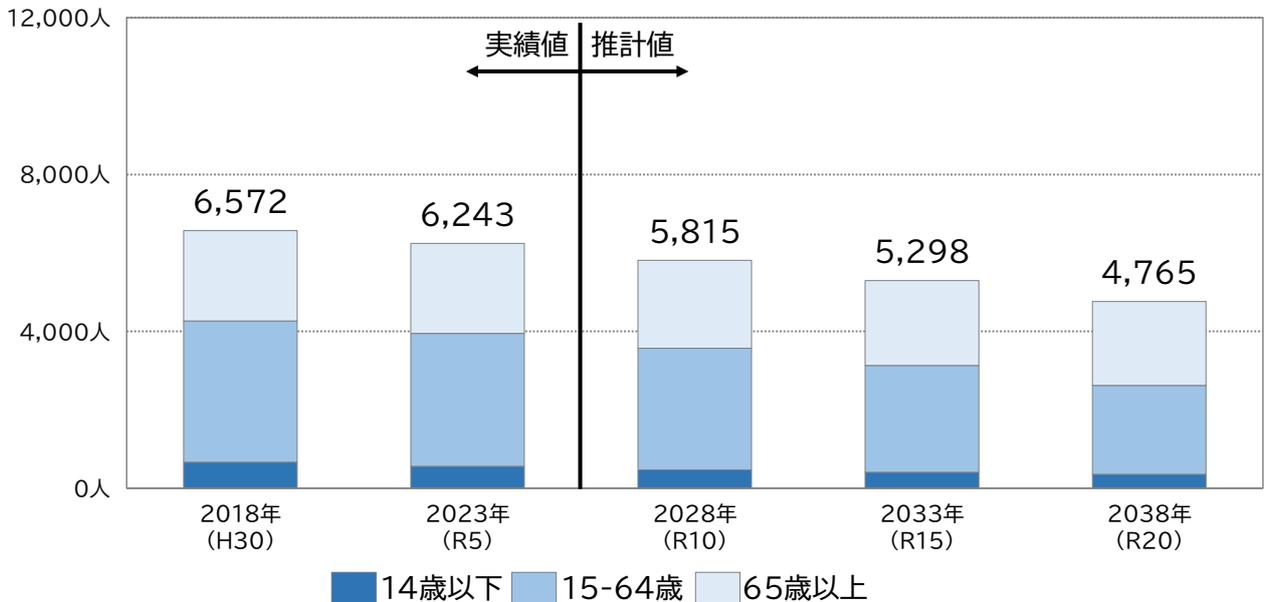
新桜ヶ丘地区

2023年(令和5年)時点

	世帯数	総人口	0~14歳	15~64歳	65歳~
新桜ヶ丘地区	2,906世帯	6,243人	557人	3,389人	2,297人
保土ヶ谷区	104,538世帯	203,241人	21,408人	127,678人	54,155人

人口推移と将来推計

新桜ヶ丘地区では、2023年に約6,200人だった総人口が、15年後の2038年には約24%減少し、約4,800人になると予測されています。65歳以上の人口は2018年以降、緩やかに減少しているのに対して、14歳以下と15-64歳の人口減少は大きく、人口減少とともに、高齢化が進行すると考えられます。



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

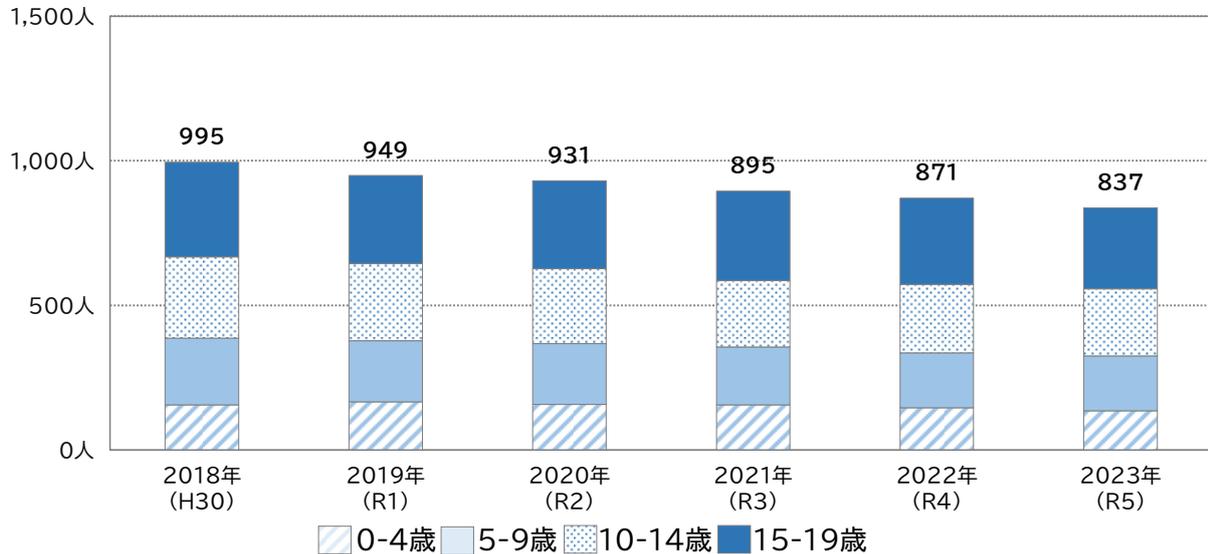
世帯数の推移



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

0～19歳の人口

新桜ヶ丘地区の若年人口は、2018年から2023年にかけて減少しています。2018年に995人だった19歳以下の人口は、2023年にかけて約16%減少し、837人となっています。どの年齢層も減少傾向にあります。5-9歳と10-14歳の減少が比較的大きくなっています。

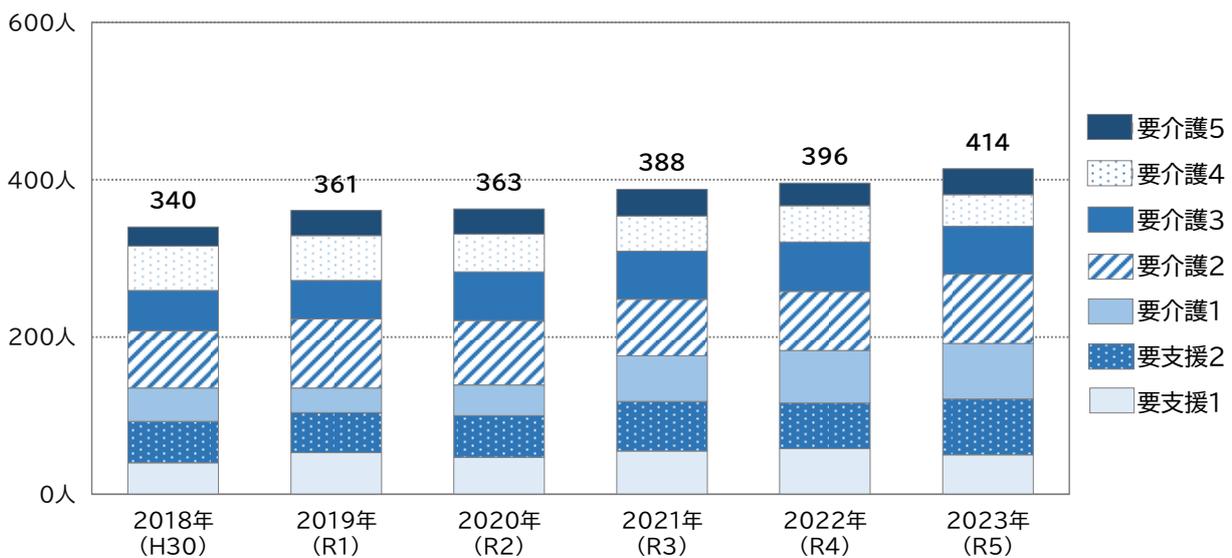


出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

高齢化率、介護保険認定者数

2023年の高齢化率は36.8%で、保土ヶ谷区全体を約10ポイント上回り、高齢化が進んでいます。介護保険認定者数は2018年から2023年にかけて増加傾向にあり、要支援2、要介護1、要介護5の増加が目立っています。

高齢化率 地区:36.8% 保土ヶ谷区全体:26.6%



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)



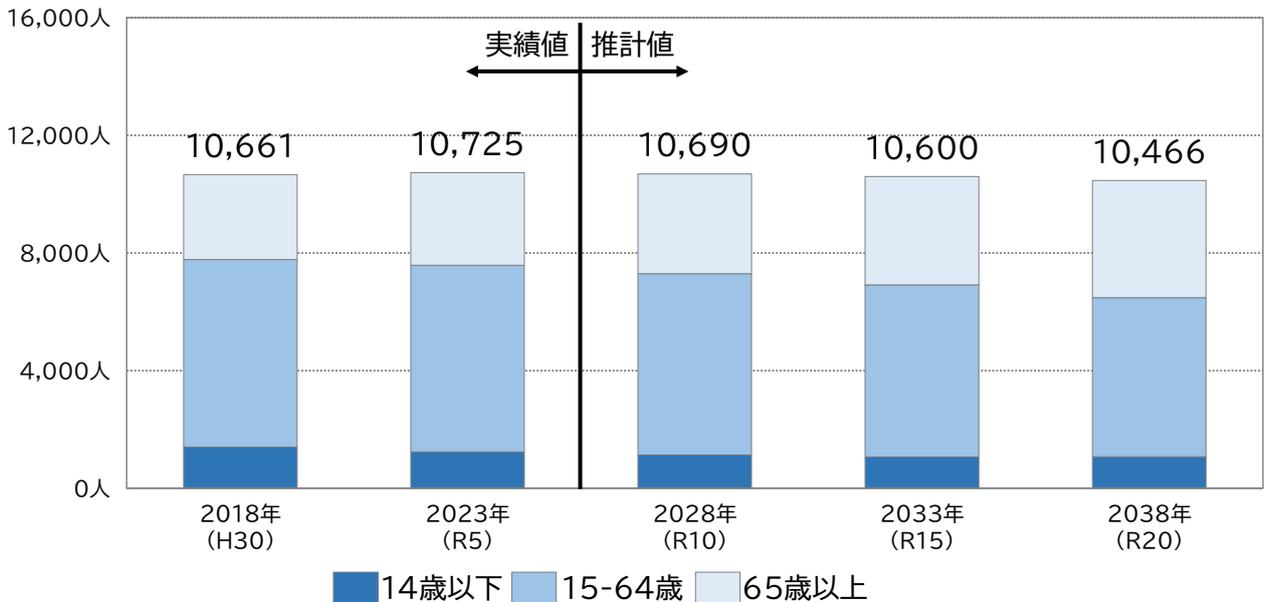
権太坂境木地区

2023年(令和5年)時点

	世帯数	総人口	0~14歳	15~64歳	65歳~
権太坂境木地区	4,664世帯	10,725人	1,238人	6,343人	3,144人
保土ヶ谷区	104,538世帯	203,241人	21,408人	127,678人	54,155人

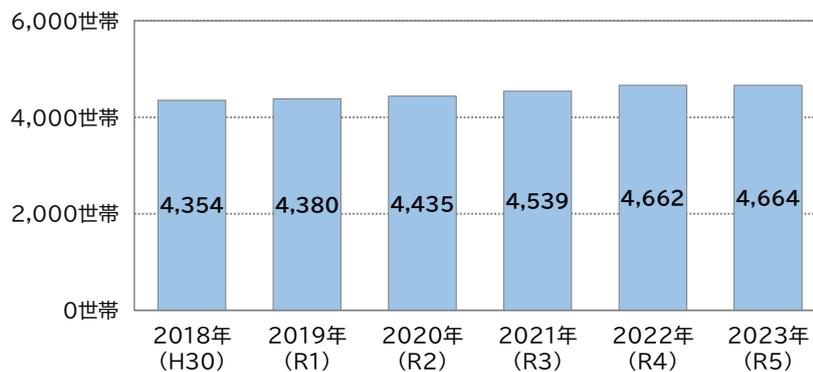
人口推移と将来推計

権太坂境木地区では、2023年に約10,700人だった総人口が、15年後の2038年には約2%減少し、約10,500人になると予測されています。65歳以上の人口は2038年まで増加傾向にあるのに対して、14歳以下と15-64歳の人口は2018年以降ともに減少傾向にあることから、高齢化は進行すると考えられます。



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

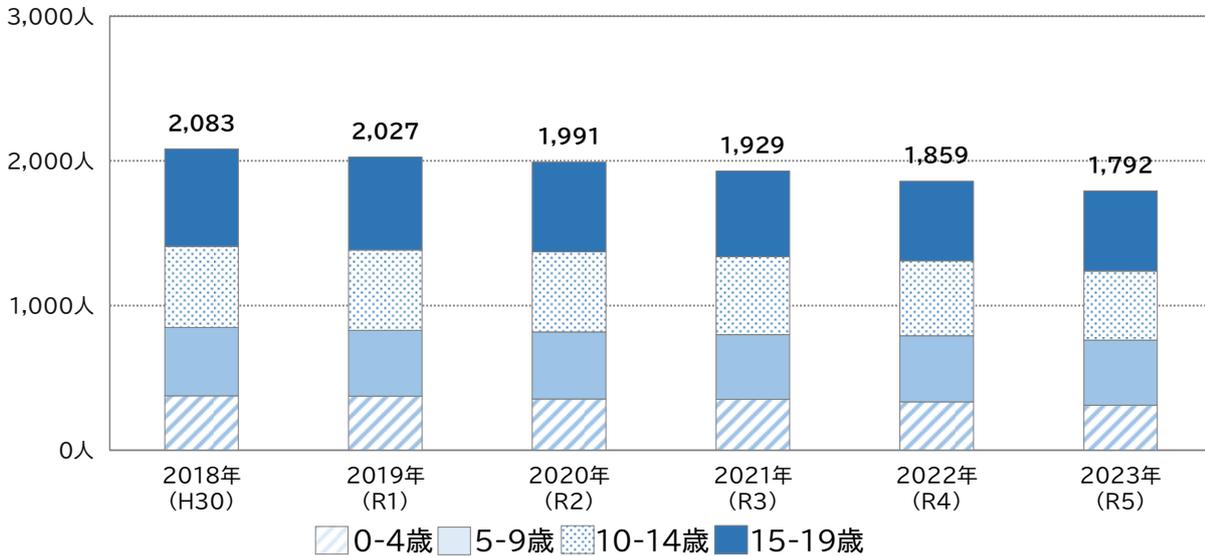
世帯数の推移



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

0～19歳の人口

権太坂境木地区の若年人口は、2018年から2023年にかけて減少しています。2018年に2,083人だった19歳以下の人口は、2023年にかけて14%減少し、1,792人となっています。5-9歳はほぼ横ばいで推移していますが、0-4歳、10-14歳、15-19歳は減少傾向にあります。

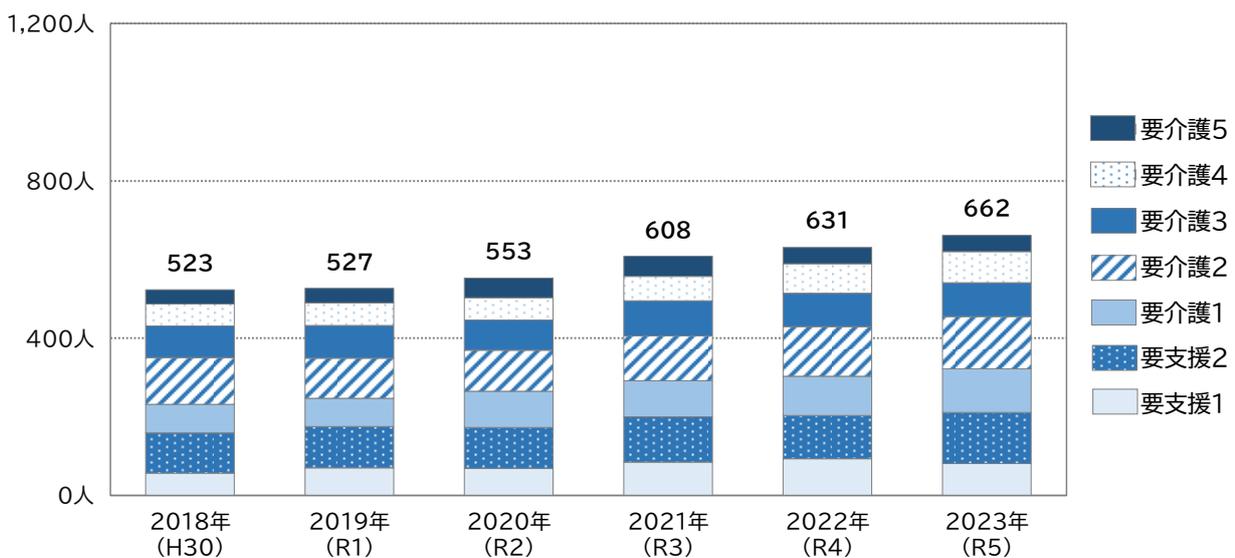


出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

高齢化率、介護保険認定者数

2023年の高齢化率は保土ヶ谷区全体の26.6%を上回る29.3%となっており、高齢化が進んでいます。介護保険認定者数は2018年から2023年にかけて増加傾向にあり、特に、要支援1、要介護1、要介護4の増加が目立っています。

高齢化率 地区:29.3% 保土ヶ谷区全体:26.6%



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)



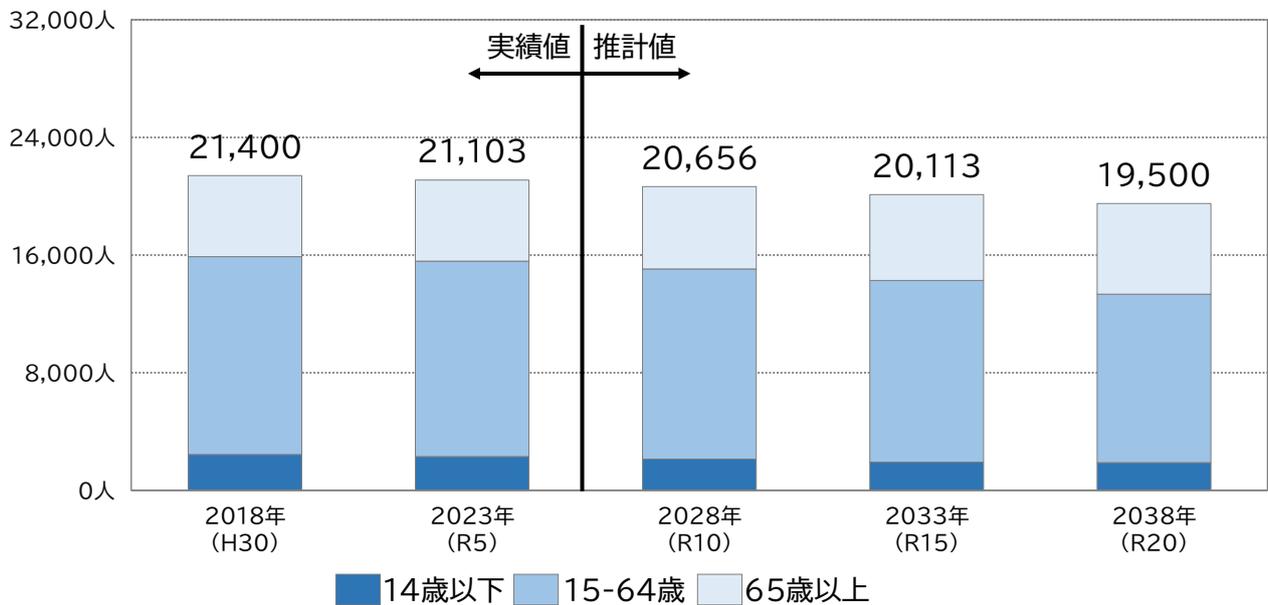
保土ヶ谷東部地区

2023年(令和5年)時点

	世帯数	総人口	0~14歳	15~64歳	65歳~
保土ヶ谷東部地区	10,571 世帯	21,103 人	2,309 人	13,281 人	5,513 人
保土ヶ谷区	104,538 世帯	203,241 人	21,408 人	127,678 人	54,155 人

人口推移と将来推計

保土ヶ谷東部地区では、2023年に約21,100人だった総人口が、15年後の2038年には約8%減少し、19,500人になると予測されています。65歳以上の人口は増加傾向にあるのに対して、14歳以下と15-64歳の人口はともに減少傾向にあるため、高齢化は進行すると考えられます。



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

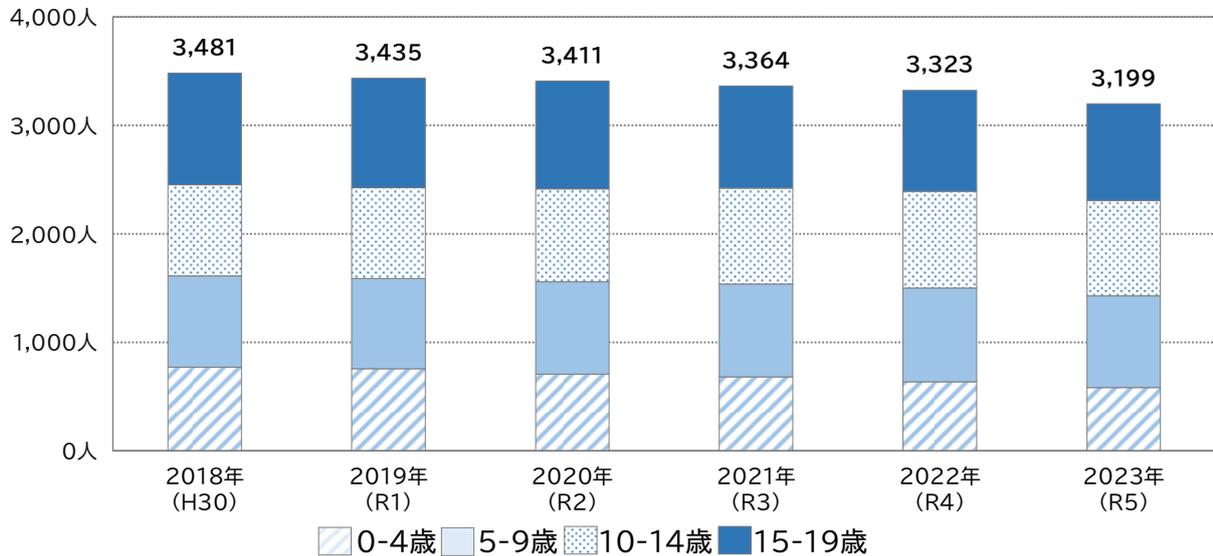
世帯数の推移



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

0～19歳の人口

保土ヶ谷東部地区の若年人口は、2018年から2023年にかけて緩やかに減少しています。2018年に3,481人だった19歳以下の人口は、2023年にかけて約8%減少し、3,199人となっています。5-9歳と10-14歳はほぼ横ばいで推移していますが、0-4歳と15-19歳は減少傾向にあります。

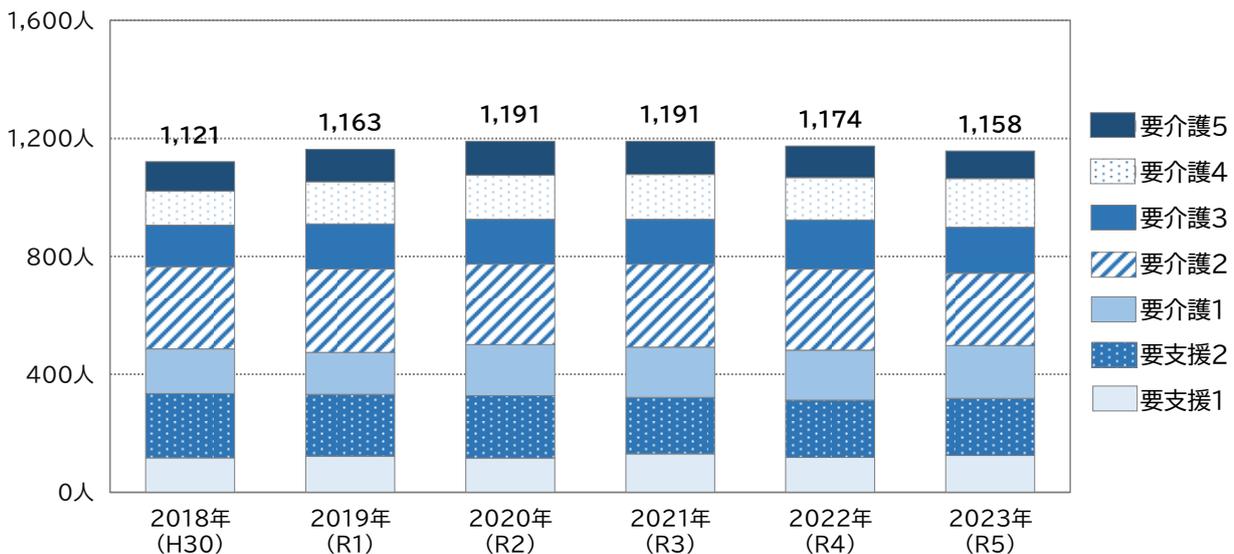


出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

高齢化率、介護保険認定者数

高齢化率は26.1%で、保土ヶ谷区全体の26.6%と大きく変わりません。介護保険認定者数は2018年から2020年にかけて増加傾向にありましたが、2022年に減少に転じています。ただし要介護1と要介護4は2018年以降、増加傾向が見られています。

高齢化率 地区:26.1% 保土ヶ谷区全体:26.6%



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)



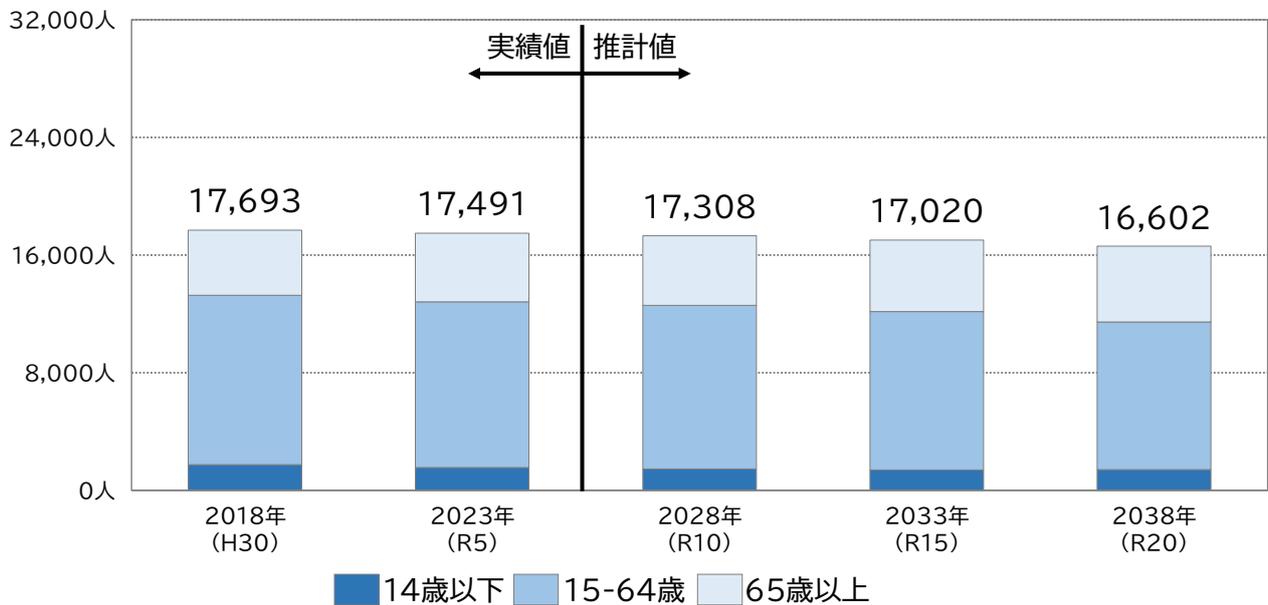
岩間地区

2023年(令和5年)時点

	世帯数	総人口	0~14歳	15~64歳	65歳~
岩間地区	9,989世帯	17,491人	1,547人	11,275人	4,669人
保土ヶ谷区	104,538世帯	203,241人	21,408人	127,678人	54,155人

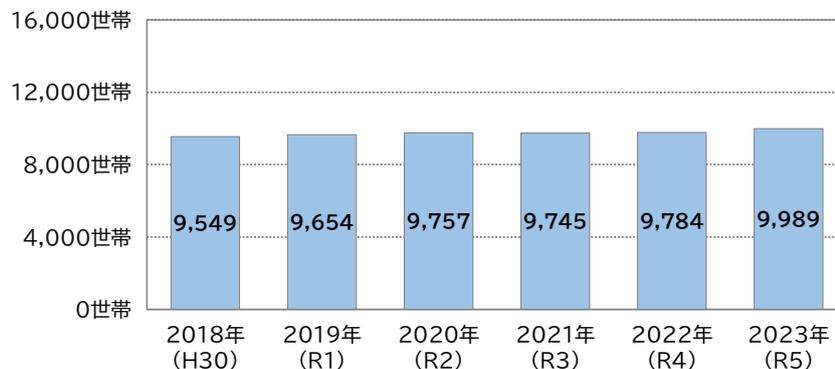
人口推移と将来推計

岩間地区では、2023年に約17,500人だった総人口が、15年後の2038年には約5%減少し、約16,600人になると予測されています。65歳以上の人口が増加傾向にあるうえ、14歳以下と15-64歳の人口減少が大きいことから、高齢化は進行すると考えられます。



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

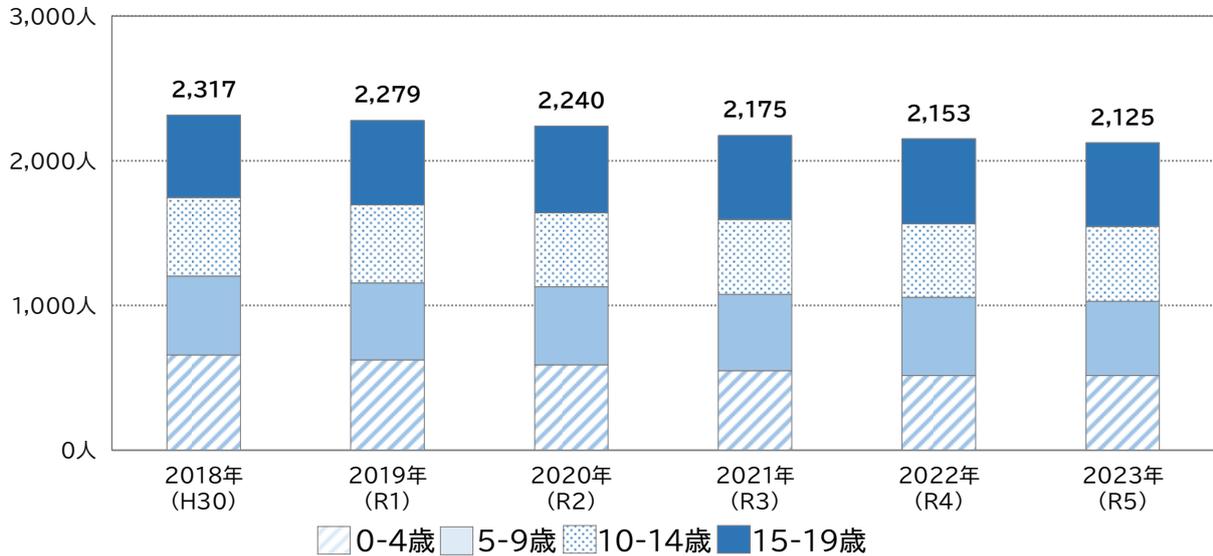
世帯数の推移



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

0～19歳の人口

岩間地区の若年人口は、2018年から2023年にかけて緩やかに減少しています。2018年に2,317人だった19歳以下の人口は、2023年にかけて約8%減少し、2,125人となっています。特に、0-4歳の減少が目立っています。

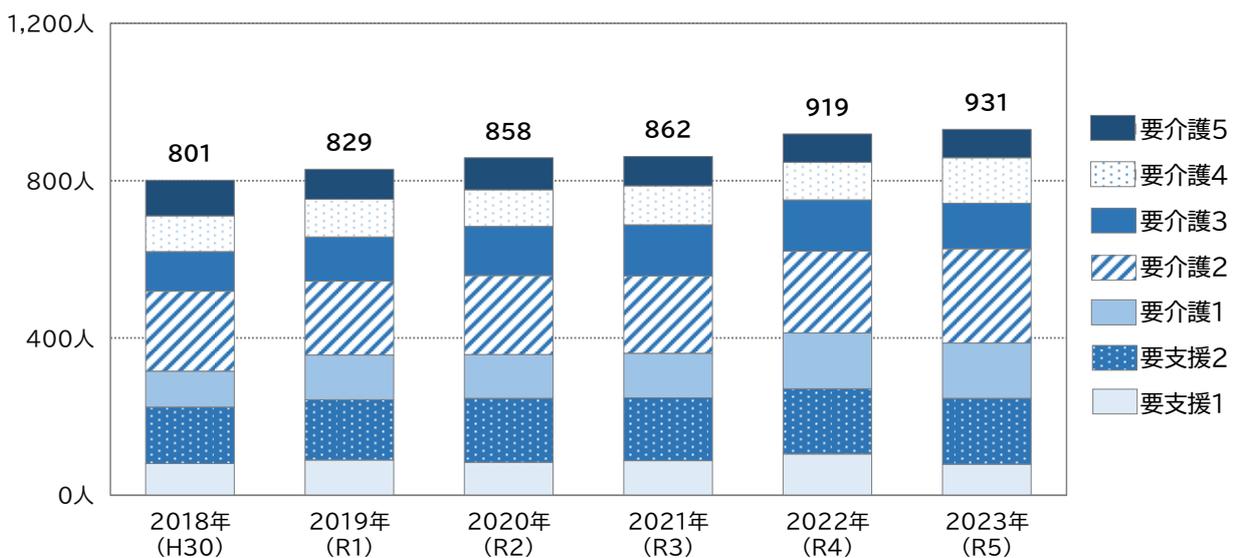


出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

高齢化率、介護保険認定者数

高齢化率は26.7%で、保土ヶ谷区全体の26.6%と大きく変わりません。介護保険認定者数は2018年から2023年にかけて増加傾向にあり、要支援2、要介護1、要介護2、要介護4の増加が目立っています。

高齢化率 地区:26.7% 保土ヶ谷区全体:26.6%



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)



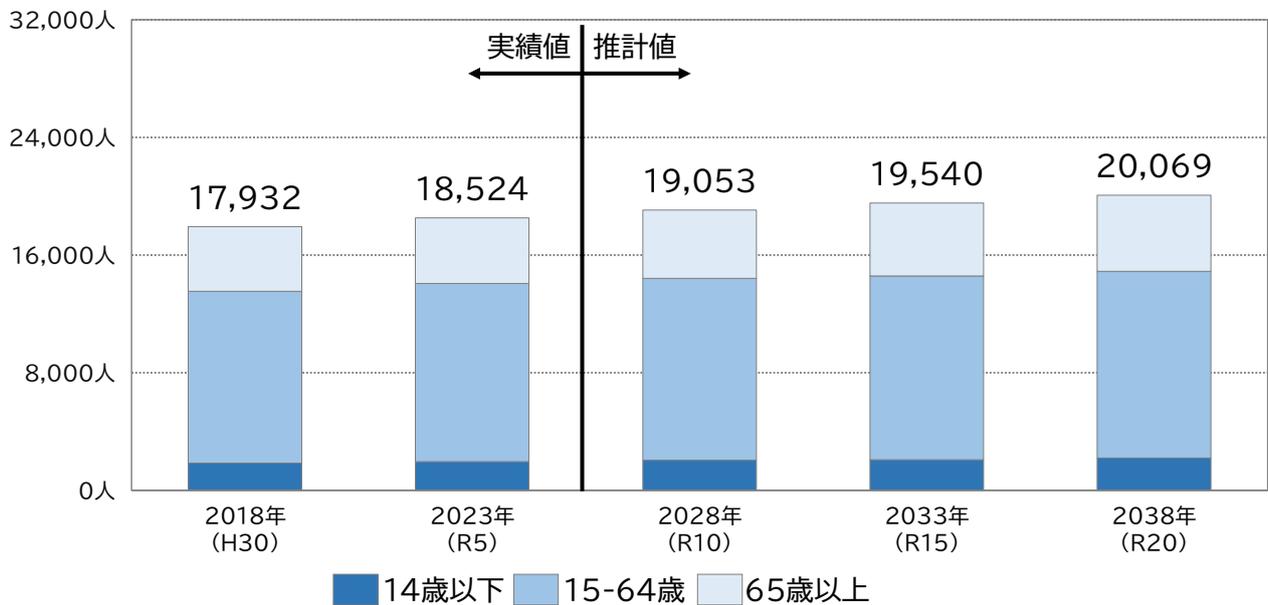
中央地区

2023年(令和5年)時点

	世帯数	総人口	0~14歳	15~64歳	65歳~
中央地区	10,266 世帯	18,524 人	1,945 人	12,114 人	4,465 人
保土ヶ谷区	104,538 世帯	203,241 人	21,408 人	127,678 人	54,155 人

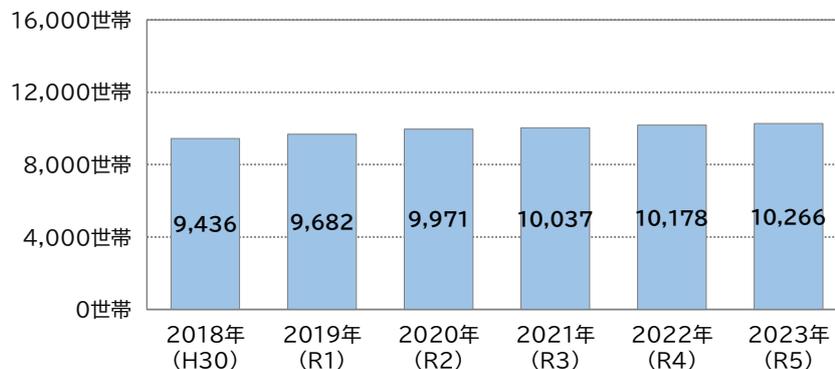
人口推移と将来推計

中央地区では、2023年に約18,500人だった総人口が、15年後の2038年には約8%増加し、約20,100人になると予測されています。また、14歳以下と15-64歳の人口増加によって、高齢化は進みにくいと考えられます。



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

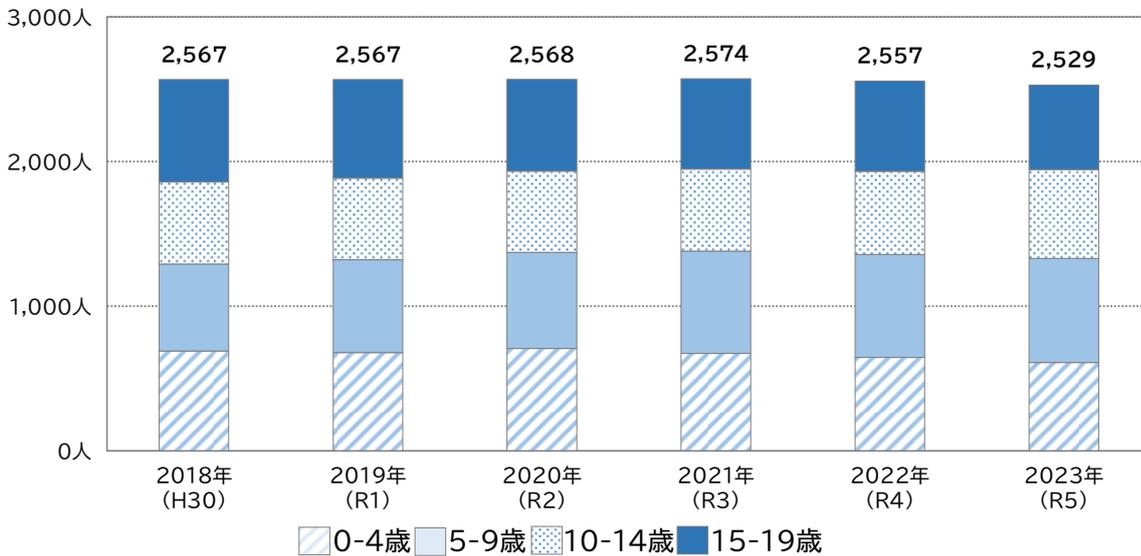
世帯数の推移



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

0～19歳の人口

中央地区の若年人口は、2018年から2023年にかけて横ばいで推移しています。2018年に2,567人だった19歳以下の人口は、2023年では2,529人と、ほぼ同様となっています。0-4歳と15-19歳の人口は2018年から2022年にかけて減少していますが、5-9歳と10-14歳に増加が見られます。

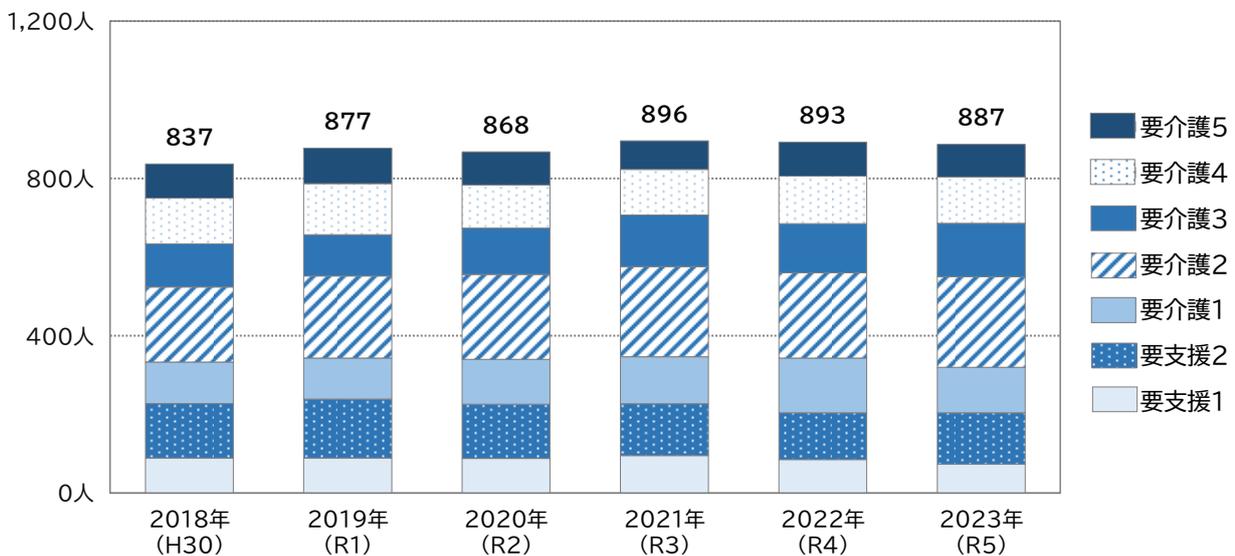


出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

高齢化率、介護保険認定者数

高齢化率は保土ヶ谷区全体の26.6%を下回る24.1%となっており、比較的高齢化は進んでいません。介護保険認定者数も2018年から2021年にかけては増加傾向にありましたが、2021年以降は横ばいとなっています。2018年と比べると、2023年では要介護2と要介護3が大幅に増加していますが、要支援1に大幅な減少が見られます。

高齢化率 地区:24.1% 保土ヶ谷区全体:26.6%



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)



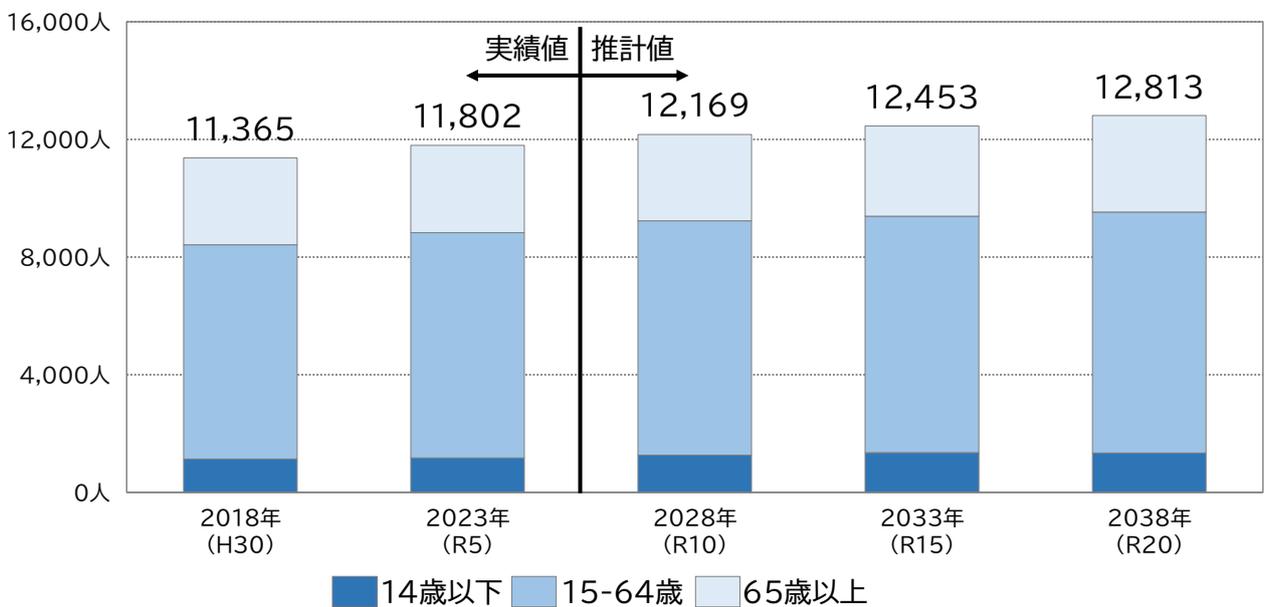
中央東部地区

2023年(令和5年)時点

	世帯数	総人口	0~14歳	15~64歳	65歳~
中央東部地区	6,327世帯	11,802人	1,174人	7,659人	2,969人
保土ヶ谷区	104,538世帯	203,241人	21,408人	127,678人	54,155人

人口推移と将来推計

中央東部地区では、2023年に約11,800人だった総人口が、2038年には約9%増加し、約12,800人になると予測されています。65歳以上の人口は増加傾向にありますが、14歳以下と15-64歳にも増加が予測されており、高齢化は進みにくいと考えられます。



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

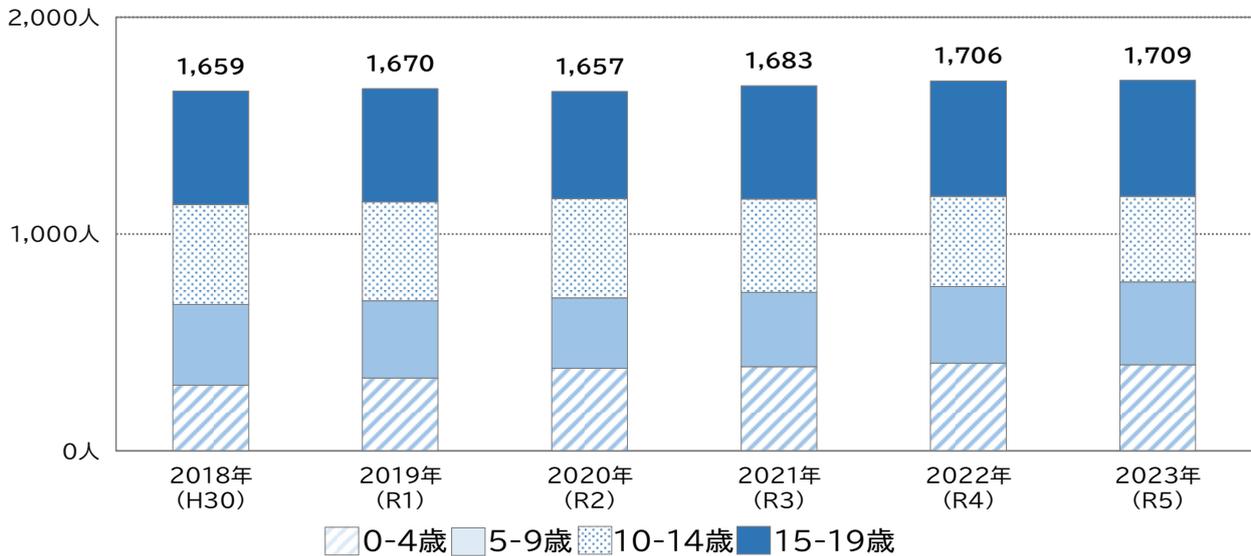
世帯数の推移



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

0～19歳の人口

中央東部地区の若年人口は、2018年から2023年にかけて緩やかに増加しています。2018年に1,659人だった19歳以下の人口は、2023年にかけて3%増加し、1,709人となっています。10-14歳の人口は減少傾向にあります。5-14歳と15-19歳が横ばいであるうえ、0-4歳に増加が見られています。

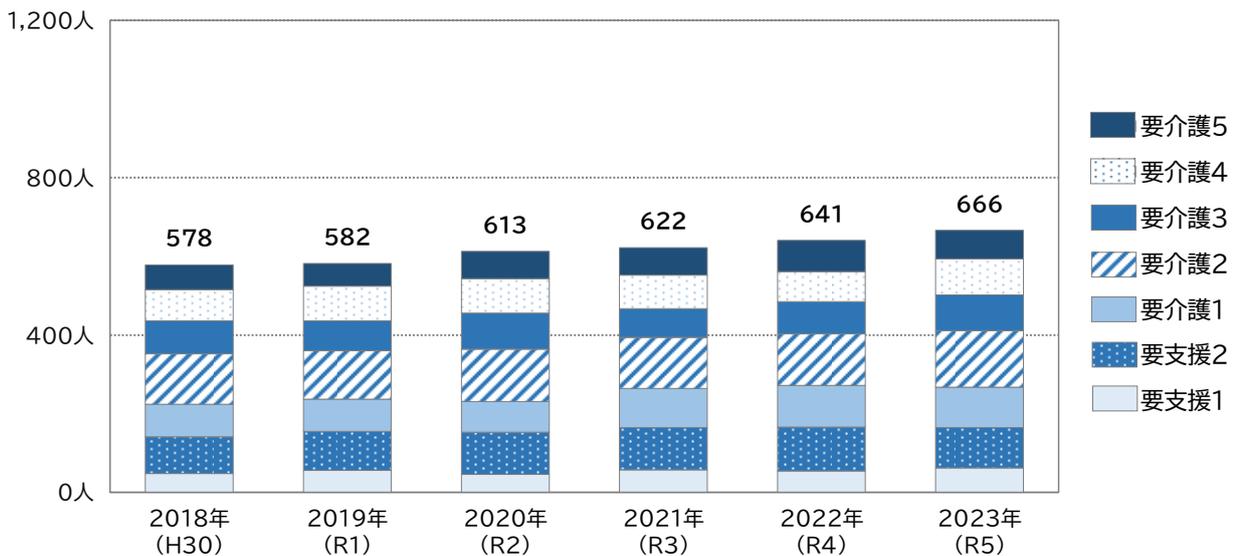


出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

高齢化率、介護保険認定者数

2023年の高齢化率は25.2%で、保土ヶ谷区全体の26.6%と大きく変わりません。介護保険認定者数は2018年から2023年にかけて増加傾向にあり、要支援1と要介護1の増加が目立っています。

高齢化率 地区:25.2% 保土ヶ谷区全体:26.6%



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)



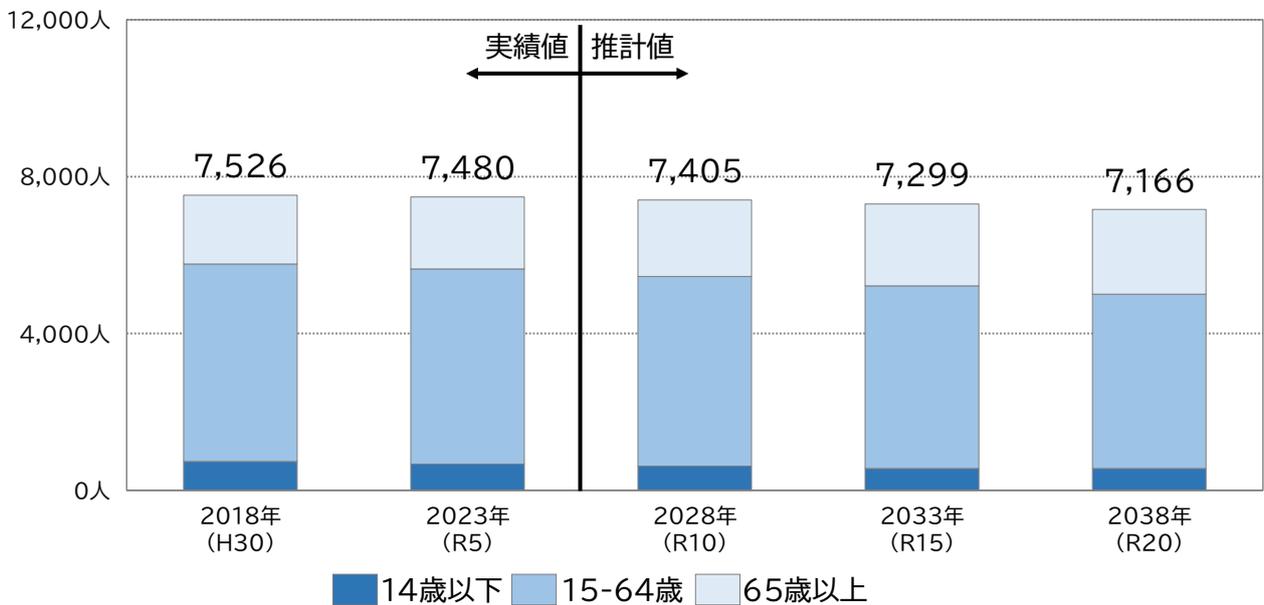
和田・釜台地区

2023年(令和5年)時点

	世帯数	総人口	0~14歳	15~64歳	65歳~
和田・釜台地区	4,244 世帯	7,480 人	670 人	4,978 人	1,832 人
保土ヶ谷区	104,538 世帯	203,241 人	21,408 人	127,678 人	54,155 人

人口推移と将来推計

和田・釜台地区では、2023年に約7,500人だった総人口が、15年後の2038年には約4%減少し、約7,100人になると予測されています。2018年以降、65歳以上の人口は増加傾向にあり、14歳以下と15-64歳の人口は減少傾向にあるため、高齢化は進行していくと考えられます。



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

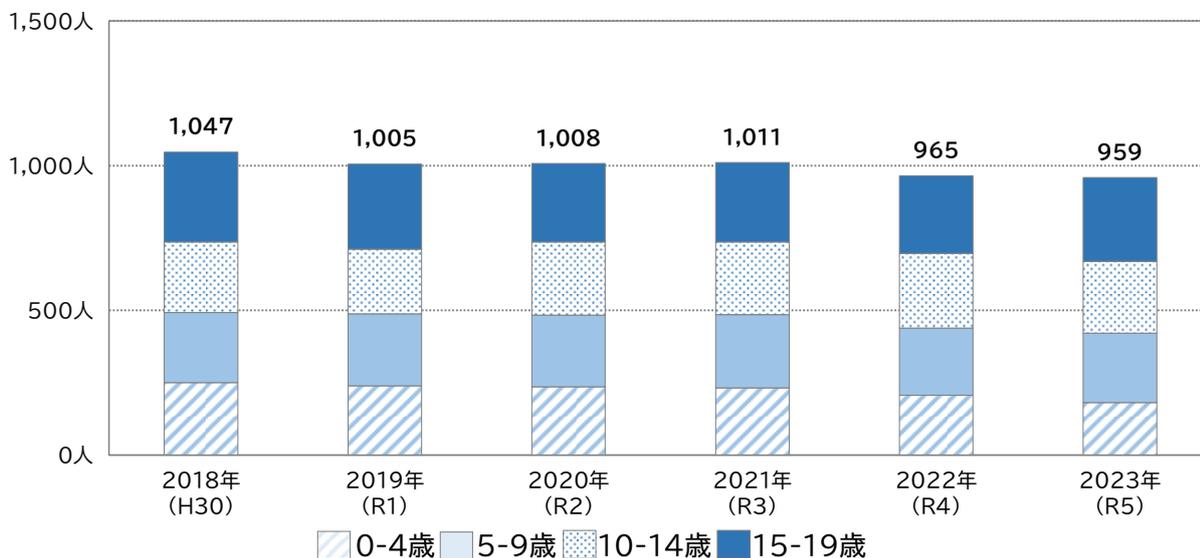
世帯数の推移



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

0～19歳の人口

和田・釜台地区の若年人口は、2018年から2023年にかけて緩やかに減少しています。2018年に1,047人だった19歳以下の人口は、2023年にかけて約8%減少し、959人となっています。5-9歳と10-14歳は2018年以降、おおむね横ばいとなっていますが、0-4歳は減少が続いています。

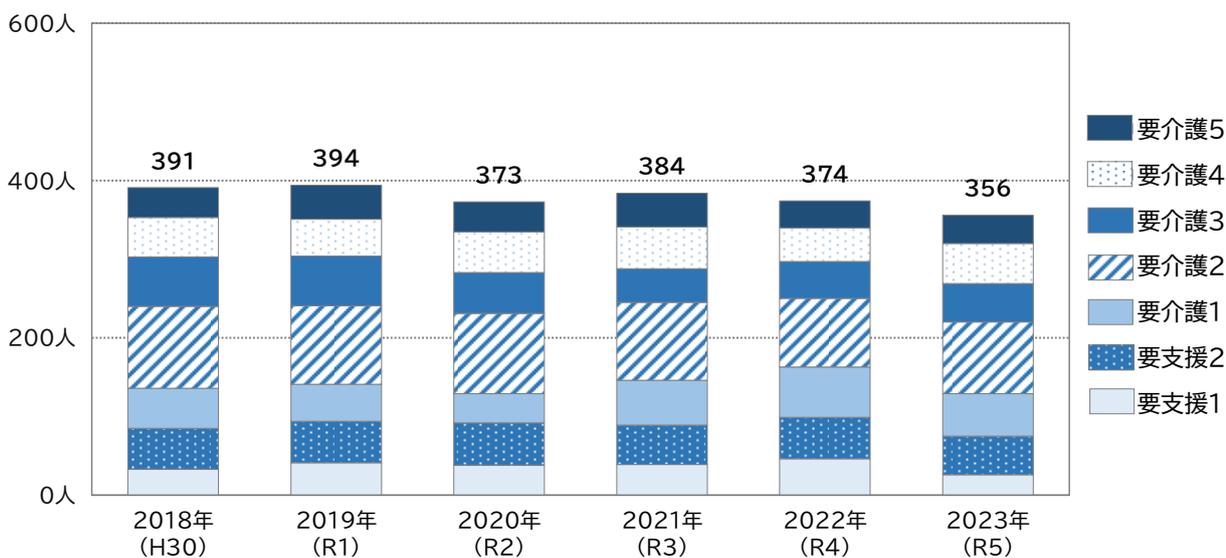


出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

高齢化率、介護保険認定者数

2023年の高齢化率は保土ヶ谷区全体の26.6%を下回る24.5%となっており、比較的高齢化は進んでいません。介護保険認定者数も2018年から2023年にかけて緩やかな減少傾向となっています。中でも要介護2と要介護3の減少が目立っています。

高齢化率 地区:24.5% 保土ヶ谷区全体:26.6%



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)



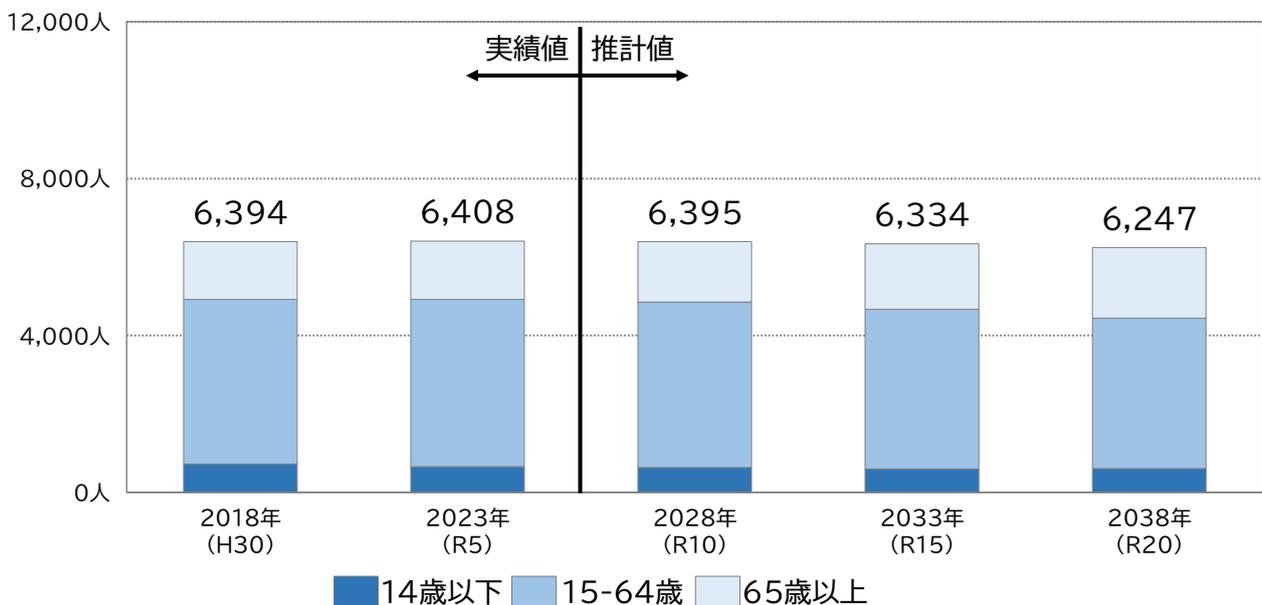
上星川地区

2023年(令和5年)時点

	世帯数	総人口	0~14歳	15~64歳	65歳~
上星川地区	3,313世帯	6,408人	655人	4,262人	1,491人
保土ヶ谷区	104,538世帯	203,241人	21,408人	127,678人	54,155人

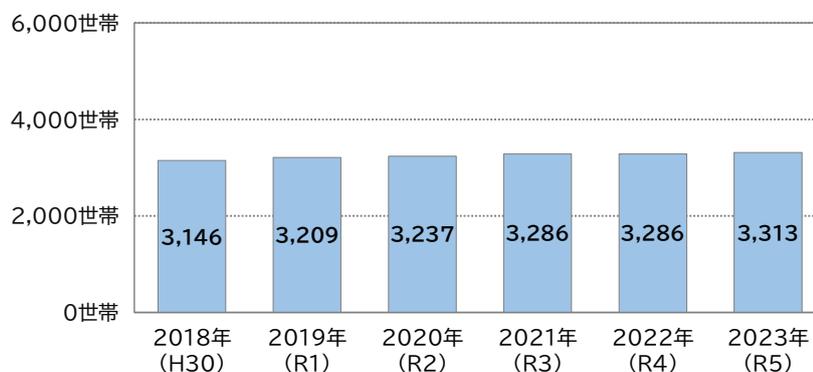
人口推移と将来推計

上星川地区では、2023年に約6,400人だった総人口が、15年後の2038年には約3%減少し、約6,200人になると予測されています。65歳以上の人口が増加傾向にあるうえ、15-64歳の人口減少が大きく、高齢化は進行していくと考えられます。



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

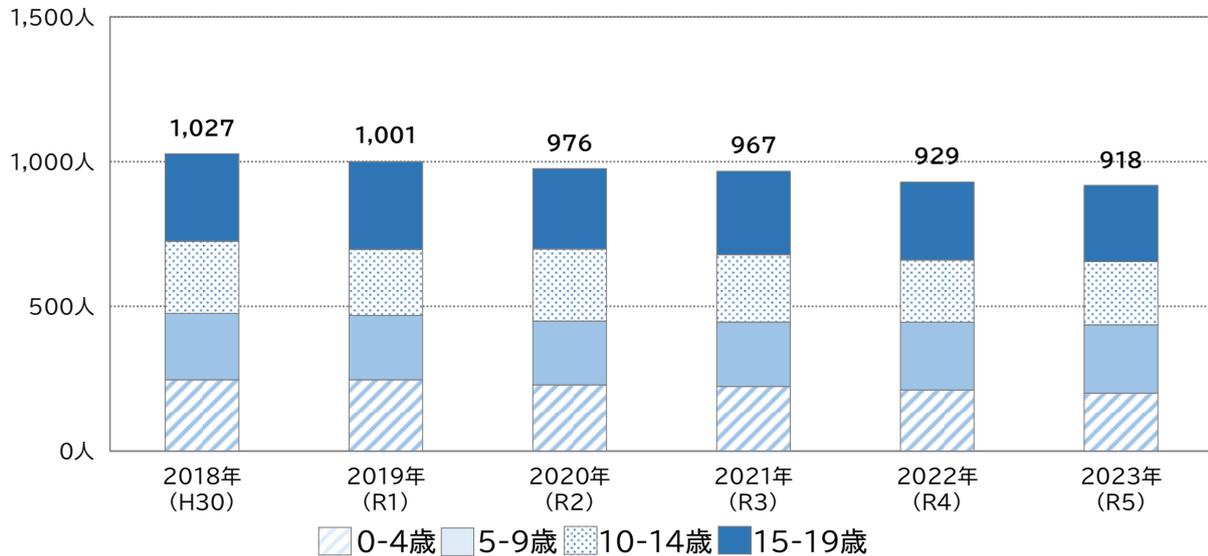
世帯数の推移



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

0～19歳の人口

上星川地区の若年人口は、2018年から2023年にかけて減少しています。2018年に1,027人だった19歳以下の人口は、2023年にかけて約11%減少し、918人となっています。5-9歳は横ばいとなっていますが、0-4歳は減少が続いているほか、10-14歳と15-19歳も減少傾向にあります。

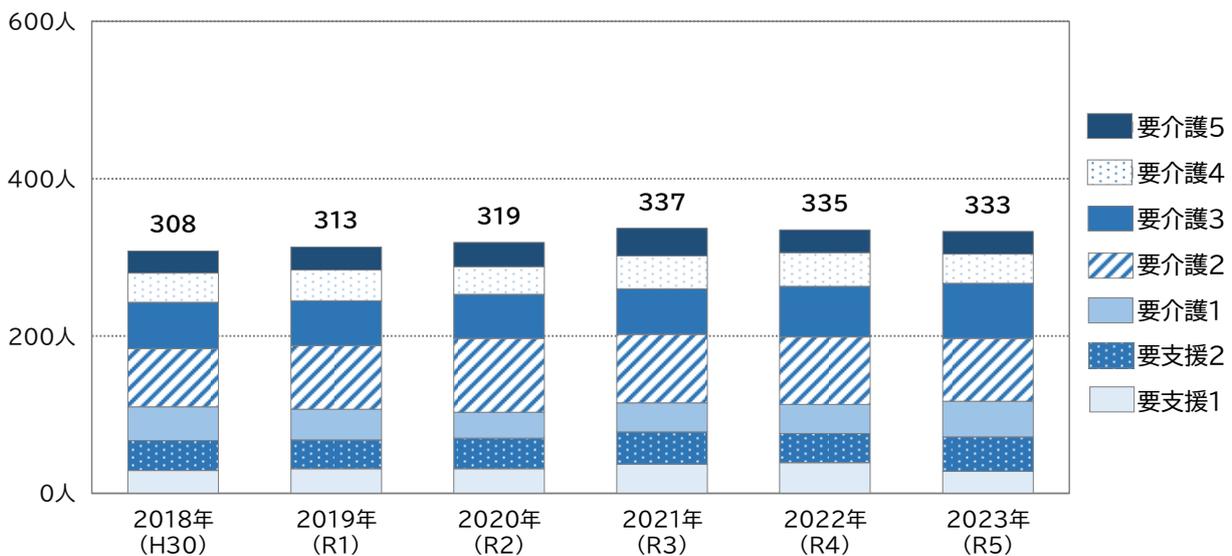


出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

高齢化率、介護保険認定者数

2023年の高齢化率は保土ヶ谷区全体の26.6%を下回る23.3%となっており、比較的高齢化は進んでいません。一方、介護保険認定者数は2018年から2021年にかけて増加し、2021年以降は横ばいとなっています。2018年と比べると、要介護3の増加が目立っています。

高齢化率 地区:23.3% 保土ヶ谷区全体:26.6%



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)



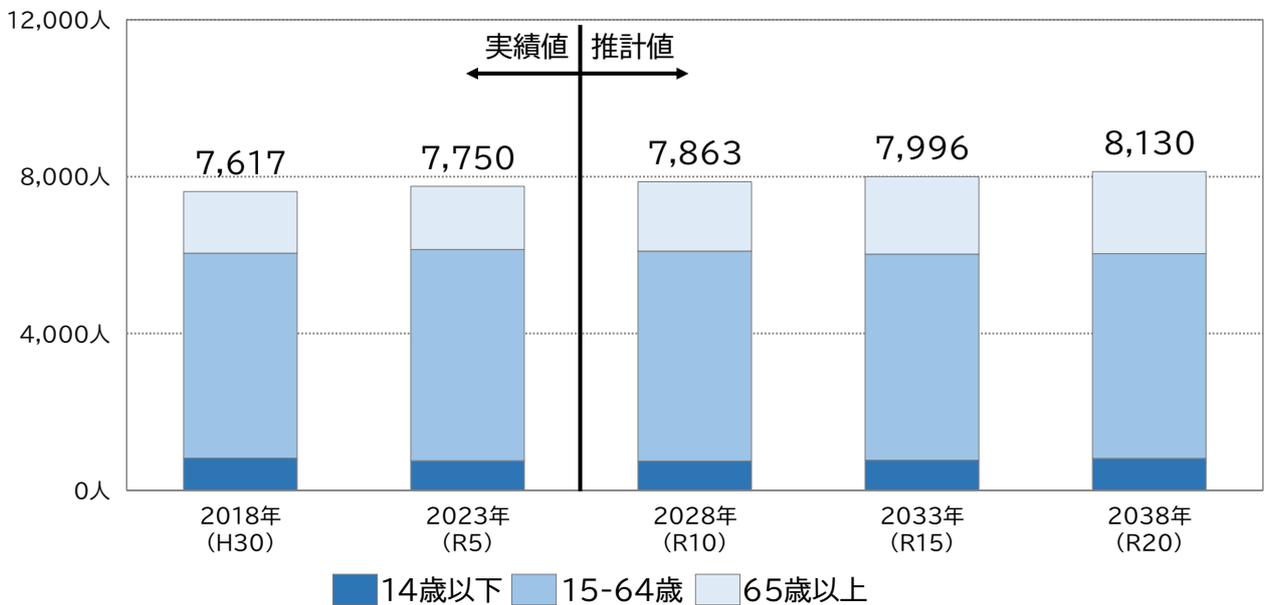
常盤台地区

2023年(令和5年)時点

	世帯数	総人口	0~14歳	15~64歳	65歳~
常盤台地区	4,078 世帯	7,750 人	757 人	5,385 人	1,608 人
保土ヶ谷区	104,538 世帯	203,241 人	21,408 人	127,678 人	54,155 人

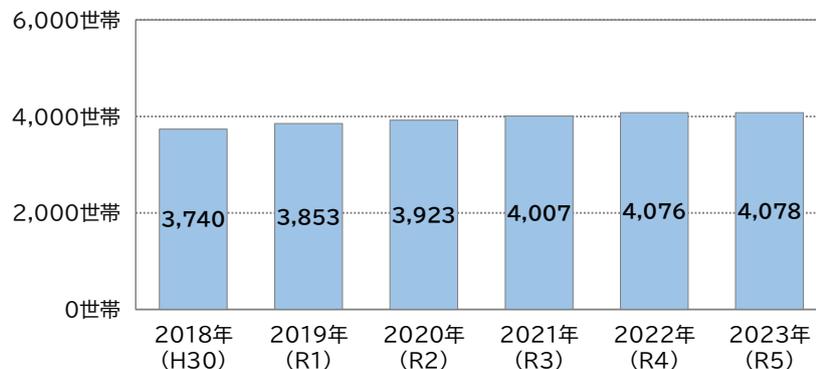
人口推移と将来推計

常盤台地区では、2023年に約7,800人だった総人口が、15年後の2038年には約5%増加し、約8,100人になると予測されています。65歳以上の人口が増加傾向にあるうえ、15-64歳は減少傾向にあるため、高齢化は進行すると考えられます。



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

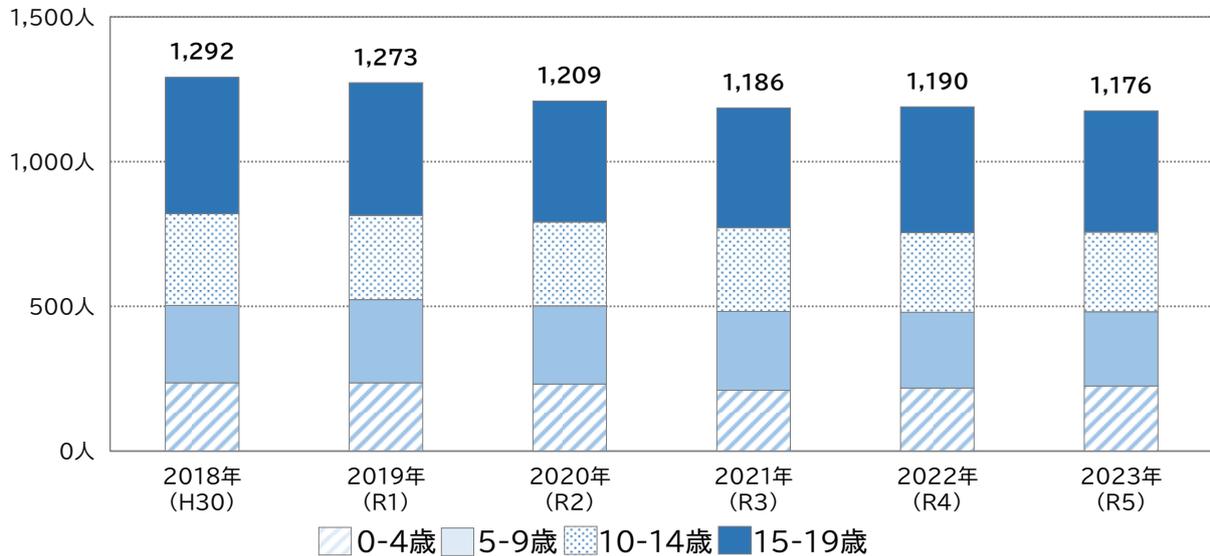
世帯数の推移



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

0～19歳の人口

常盤台地区の若年人口は、2018年から2023年にかけて緩やかに減少しています。2018年に1,292人だった19歳以下の人口は、2023年にかけて9%減少し、1,176人となっています。0-4歳と5-9歳は、ほぼ横ばいの推移となっていますが、10-14歳と15-19歳は減少傾向にあります。

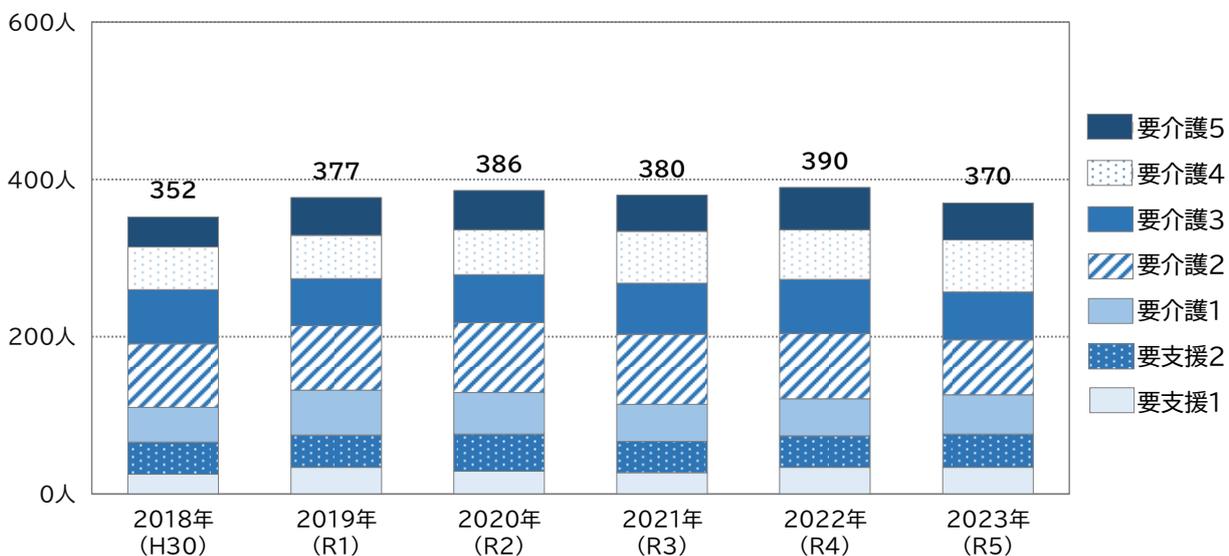


出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

高齢化率、介護保険認定者数

2023年の高齢化率は保土ヶ谷区全体の26.6%を下回る20.7%となっており、比較的高齢化は進んでいません。介護保険認定者数は2018年から2020年にかけて増加し、2020年以降は横ばいとなっています。2018年と比べると、要支援1、要介護4、要介護5の増加が見られますが、要介護2と要介護3は減少しています。

高齢化率 地区:20.7% 保土ヶ谷区全体:26.6%



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)



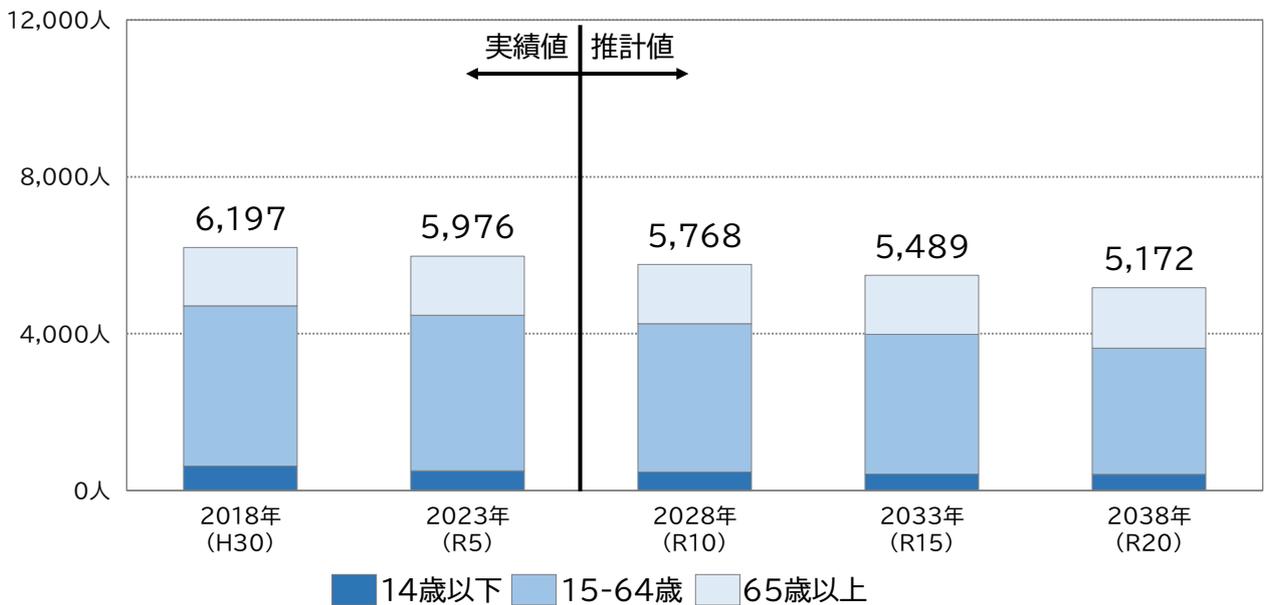
西谷地区

2023年(令和5年)時点

	世帯数	総人口	0~14歳	15~64歳	65歳~
西谷地区	3,346 世帯	5,976 人	503 人	3,969 人	1,504 人
保土ヶ谷区	104,538 世帯	203,241 人	21,408 人	127,678 人	54,155 人

人口推移と将来推計

西谷地区では、2023年に約6,000人だった総人口が、15年後の2038年には約14%減少し、約5,200人になると予測されています。65歳以上の人口は緩やかに増加していますが、14歳以下と15-64歳の人口減少が大きいいため、人口減少とともに、高齢化が進行すると考えられます。



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

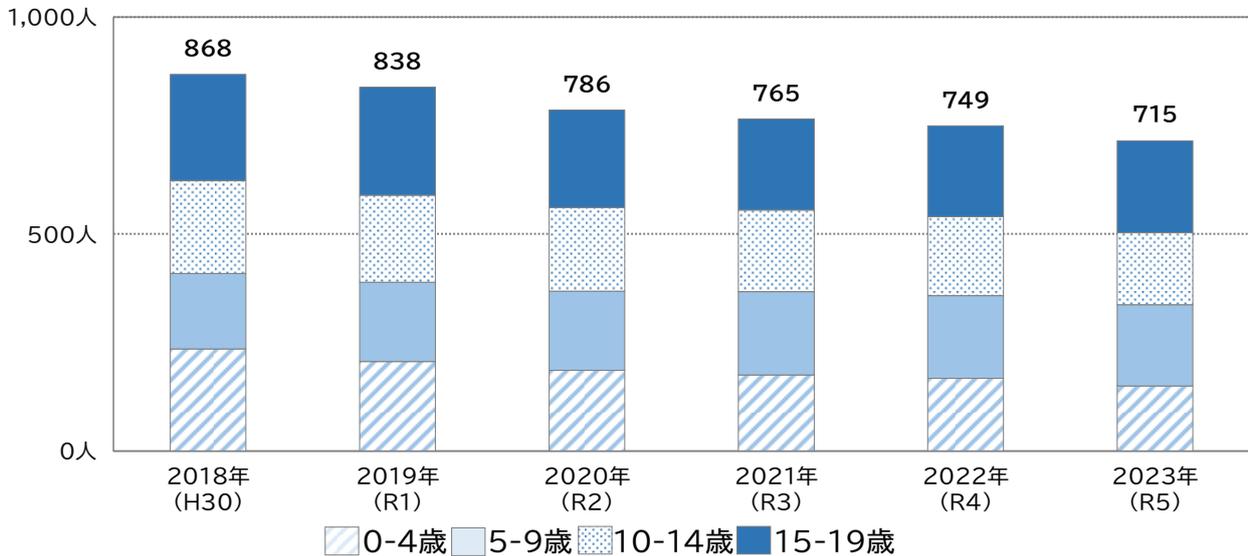
世帯数の推移



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

0～19歳の人口

西谷地区の若年人口は、2018年から2023年にかけて減少しています。2018年に868人だった19歳以下の人口は、2023年にかけて約18%減少し、715人となっています。5-9歳は2018年以降、横ばいで推移しましたが、0-4歳、10-14歳、15-19歳は減少しています。特に、0-4歳の減少が目立っています。

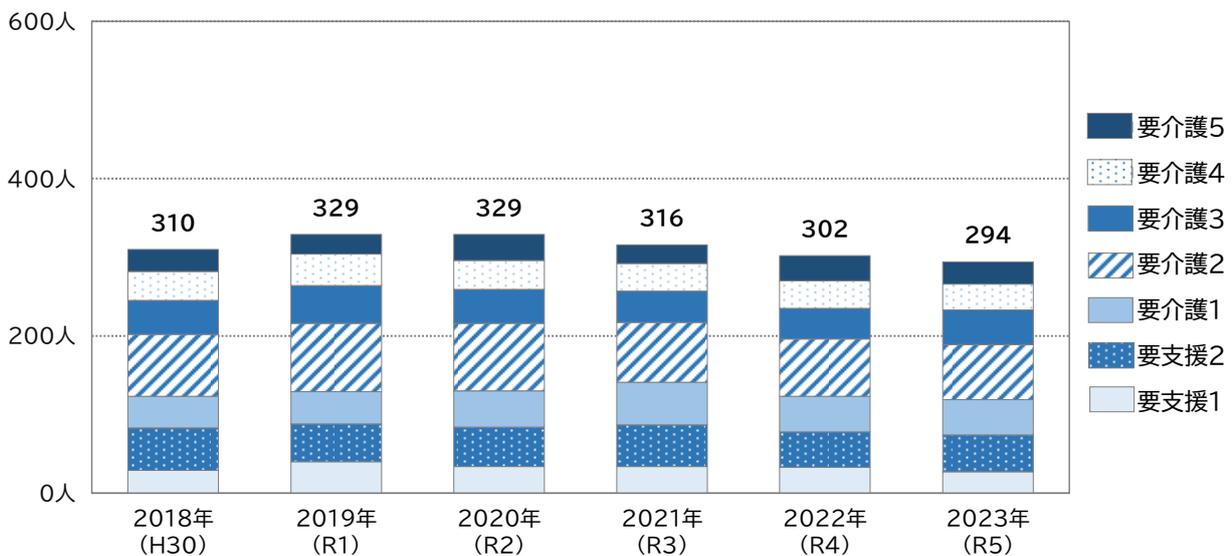


出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

高齢化率、介護保険認定者数

2023年の高齢化率は25.2%で、保土ヶ谷区全体の26.6%と大きく変わりません。介護保険認定者数は2018年から2019年にかけて増加しましたが、2020年以降は減少しています。2020年以降は、特に、要支援1と要介護2の減少が目立っています。

高齢化率 地区:25.2% 保土ヶ谷区全体:26.6%



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)



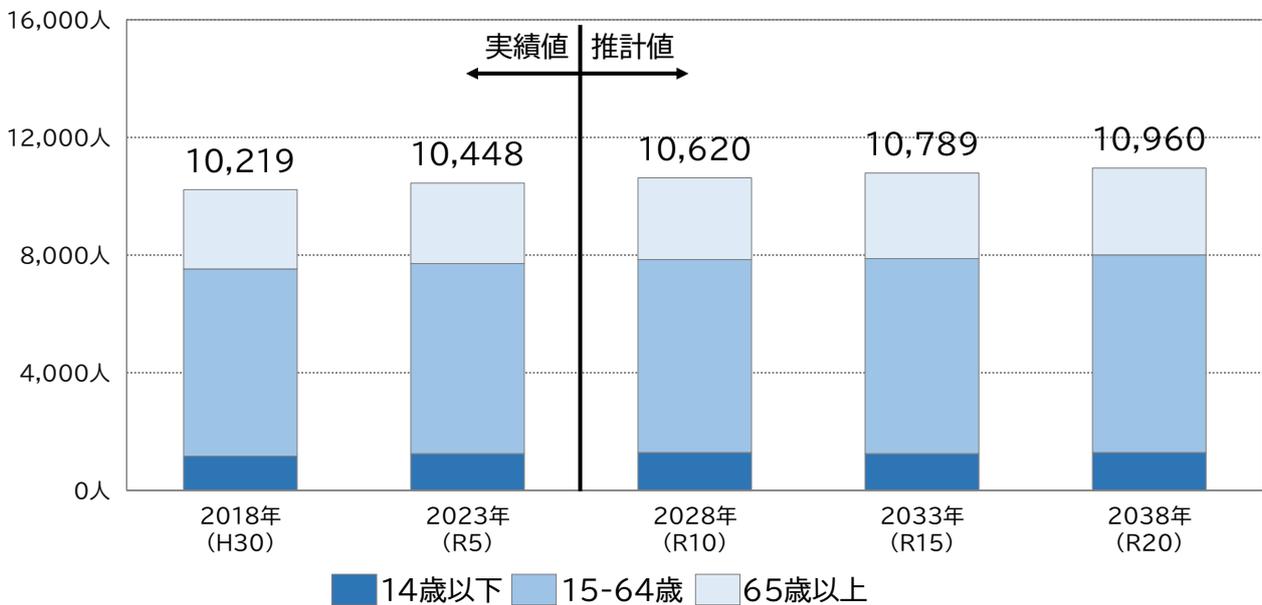
川島東部地区

2023年(令和5年)時点

	世帯数	総人口	0~14歳	15~64歳	65歳~
川島東部地区	5,262世帯	10,448人	1,250人	6,461人	2,737人
保土ヶ谷区	104,538世帯	203,241人	21,408人	127,678人	54,155人

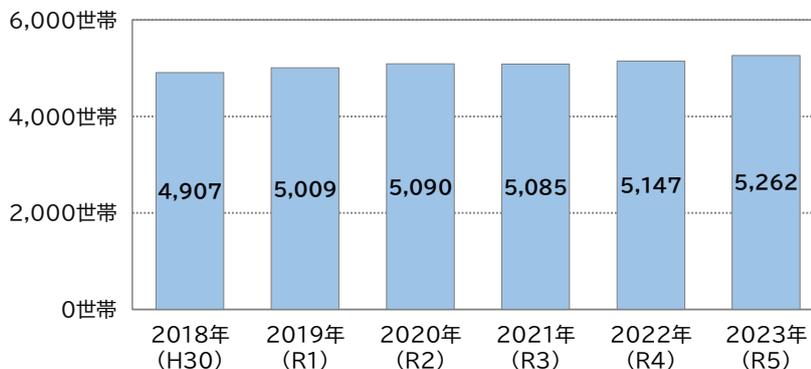
人口推移と将来推計

川島東部地区では、2023年に約10,400人だった総人口が、2038年には約5%増加し、約11,000人になると予測されています。どの年代層も微増傾向が続くと予測されているため、高齢化は進みにくいと考えられます。



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

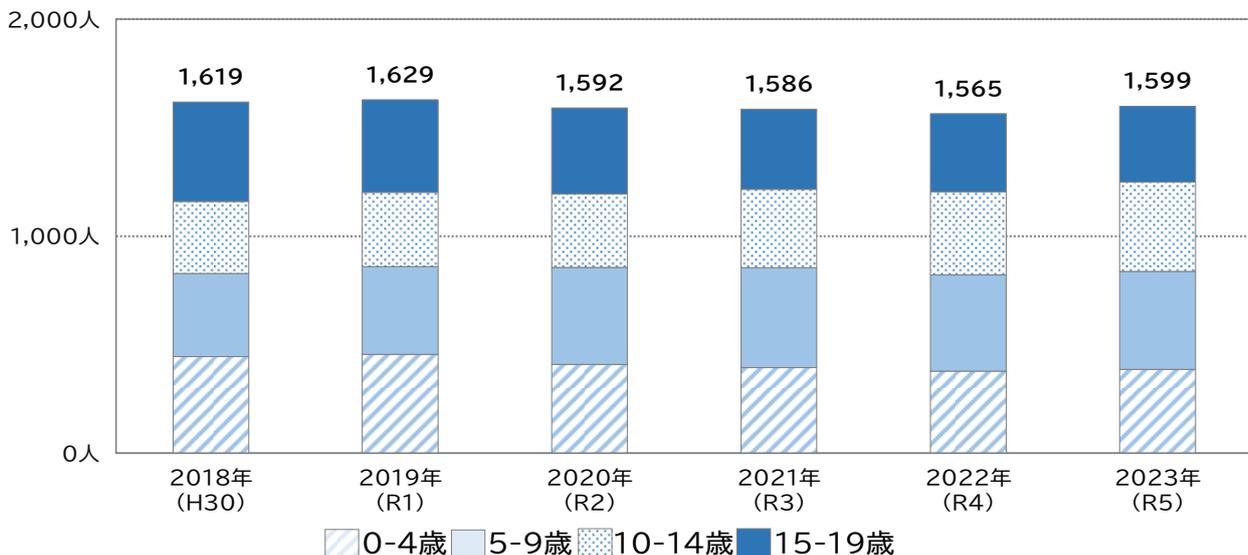
世帯数の推移



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

0～19歳の人口

川島東部地区の若年人口は、2018年から2023年にかけて横ばいで推移しています。0-4歳と15-19歳は減少していますが、5-9歳と10-14歳は2018年以降、増加しています。

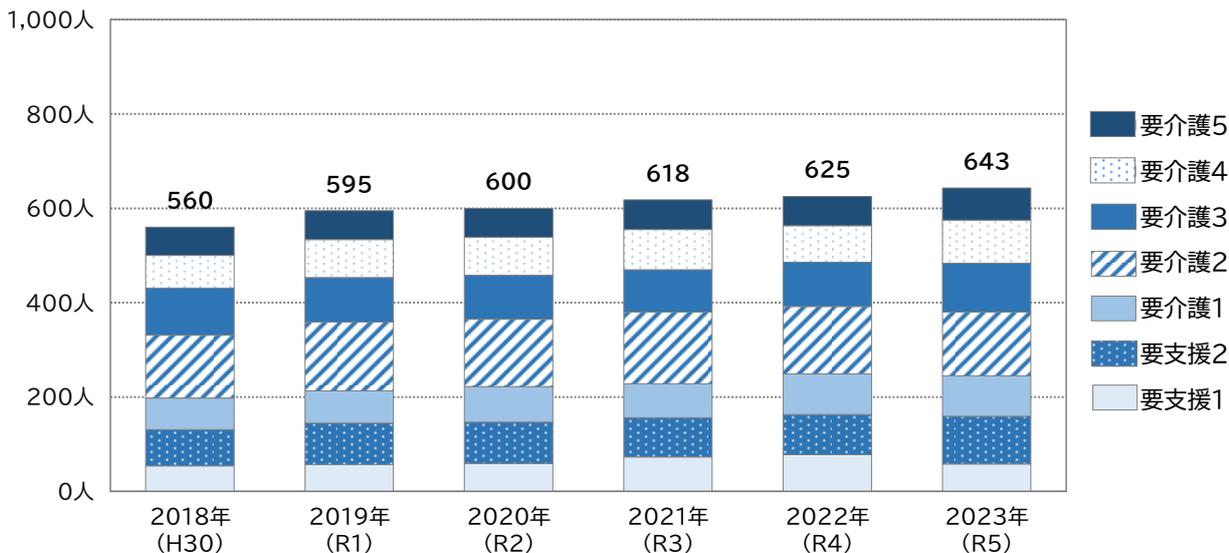


出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

高齢化率、介護保険認定者数

2023年の高齢化率は26.2%で、保土ヶ谷区全体の26.6%と大きく変わりません。介護保険認定者数は2018年から2023年にかけて増加しており、特に、要支援2、要介護1、要介護4の増加が目立っています

高齢化率 地区:25.2% 保土ヶ谷区全体:26.6%



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)



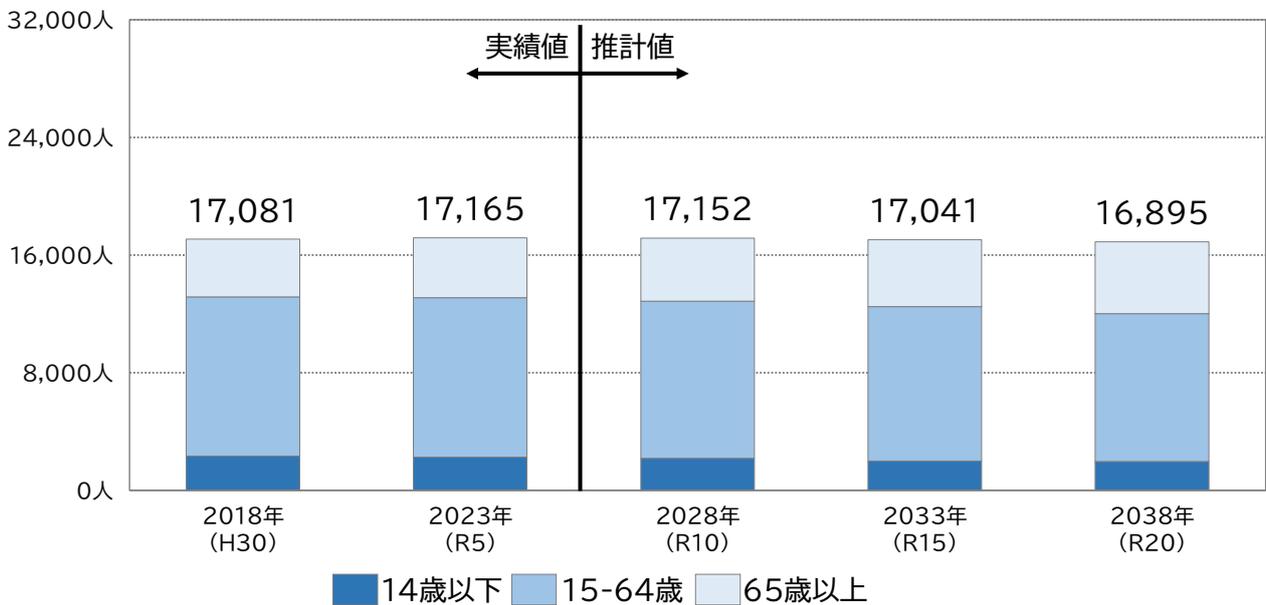
仏向地区

2023年(令和5年)時点

	世帯数	総人口	0~14歳	15~64歳	65歳~
仏向地区	8,473世帯	17,165人	2,252人	10,854人	4,059人
保土ヶ谷区	104,538世帯	203,241人	21,408人	127,678人	54,155人

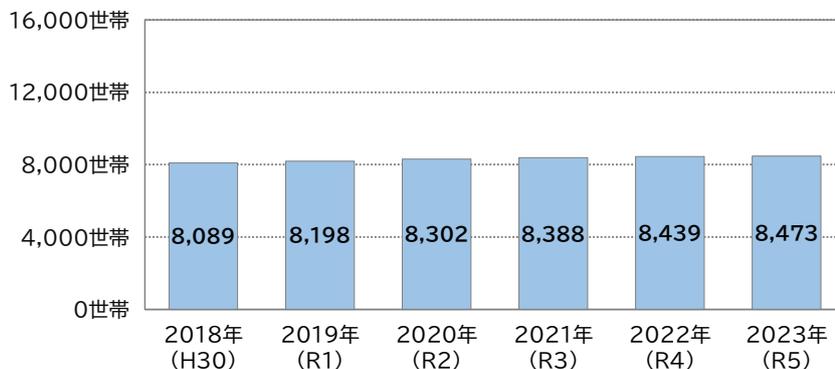
人口推移と将来推計

仏向地区では、2023年に約17,200人だった総人口が、15年後の2038年には約2%減少し、約16,900人になると予測されています。65歳以上の人口が増加傾向にあるうえ、14歳以下と15-64歳の人口がともに減少傾向にあるため、高齢化は進行すると考えられます。



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

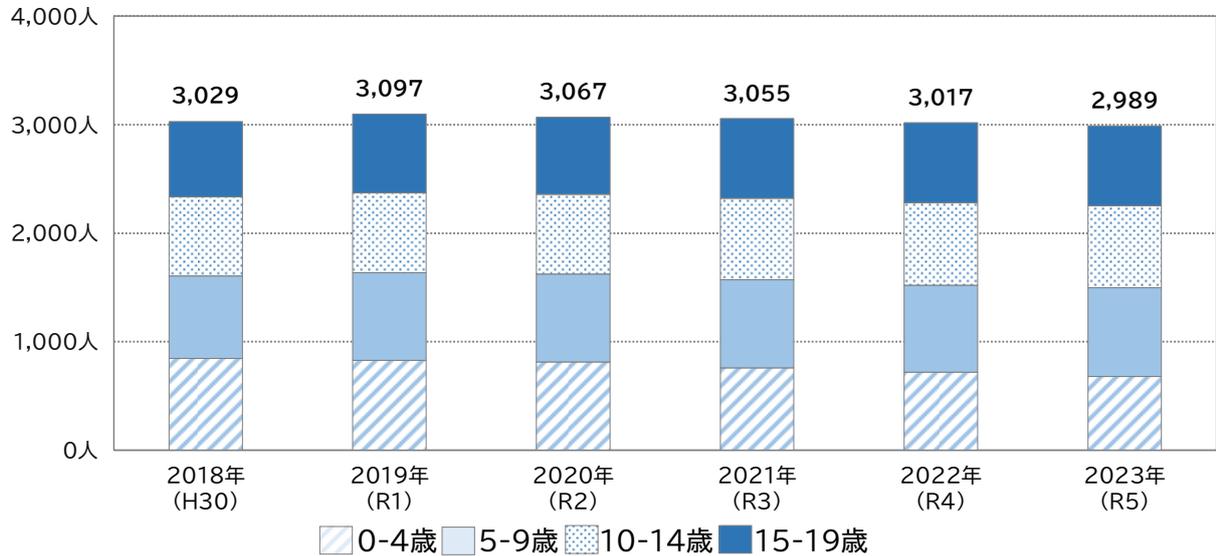
世帯数の推移



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

0～19歳の人口

仏向地区の若年人口は、2018年から2023年にかけて横ばいで推移しています。2018年と比べると、2023年の0-4歳の人口は大幅に減少していますが、5-9歳、10-14歳、15-19歳は増加しています。

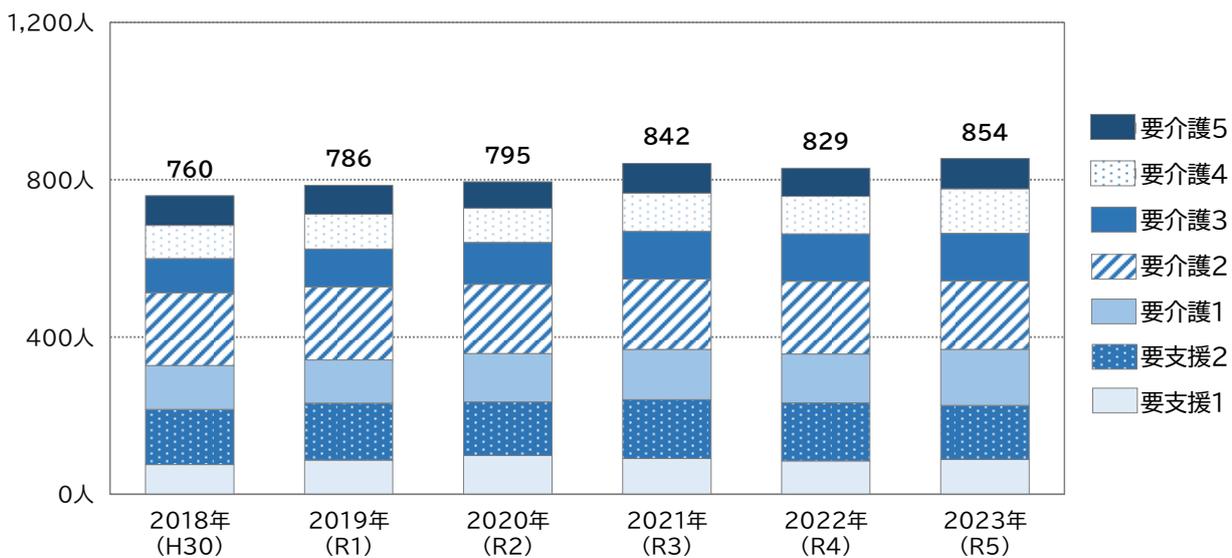


出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

高齢化率、介護保険認定者数

2023年の高齢化率は保土ヶ谷区全体の26.6%を下回る23.6%となっており、比較的高齢化は進んでいません。一方、介護保険認定者数は2018年から2023年にかけて増加傾向にあります。特に、要介護1、要介護3、要介護4の増加が目立っています。

高齢化率 地区:23.6% 保土ヶ谷区全体:26.6%



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)



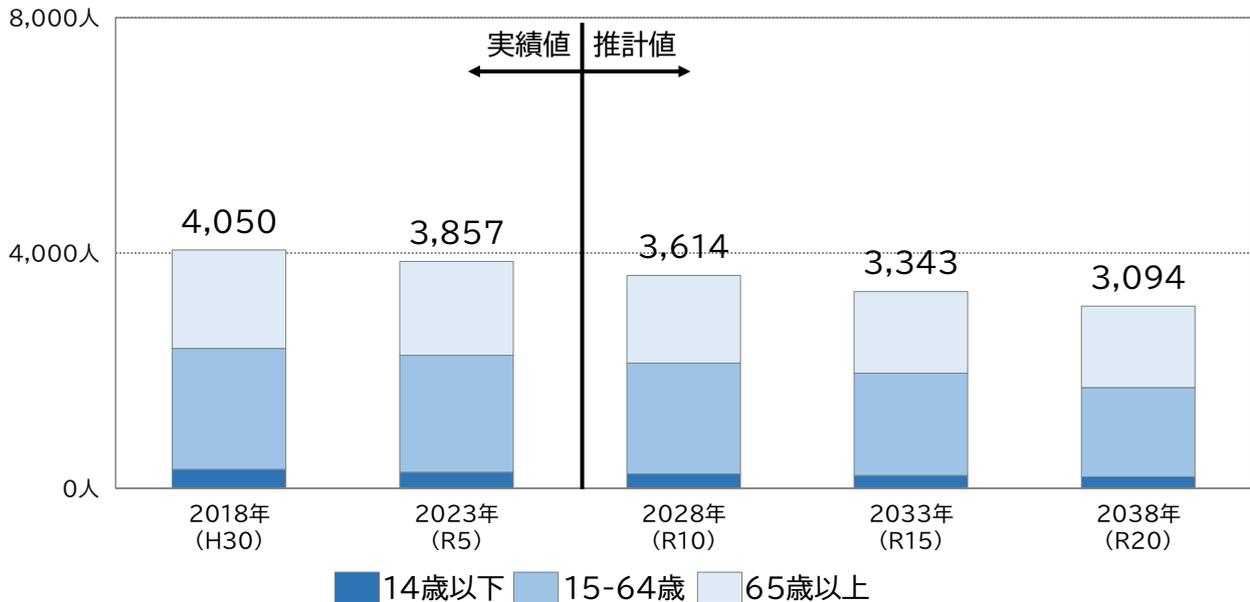
川島原地区

2023年(令和5年)時点

	世帯数	総人口	0~14歳	15~64歳	65歳~
川島原地区	2,219 世帯	3,857 人	270 人	1,990 人	1,597 人
保土ヶ谷区	104,538 世帯	203,241 人	21,408 人	127,678 人	54,155 人

人口推移と将来推計

川島原地区では、2023年に約3,900人だった総人口が、15年後の2038年には約20%減少し、約3,100人になると予測されています。65歳以上の人口は、減少が続くと予測されていますが、14歳以下と15-64歳の減少幅が大きく、人口減少とともに、高齢化も進行すると考えられます。



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

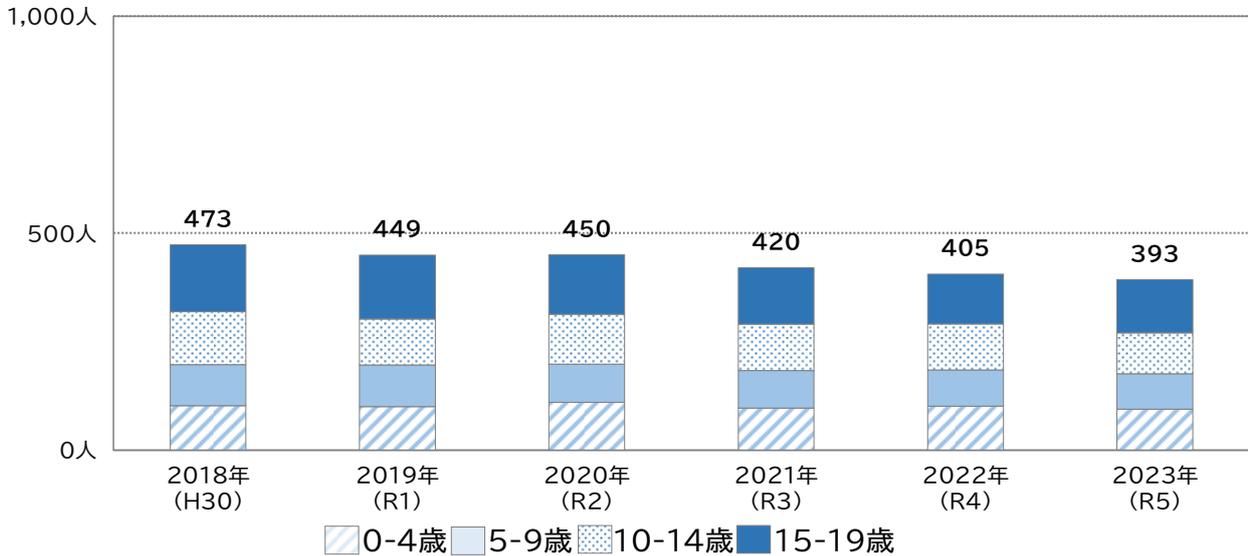
世帯数の推移



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

0～19歳の人口

川島原地区の若年人口は、2018年から2023年にかけて減少しています。2018年に473人だった19歳以下の人口は、2023年にかけて約17%減少し、393人となっています。全体的に減少傾向が見られますが、特に、10-14歳と15-19歳の減少が目立っています。

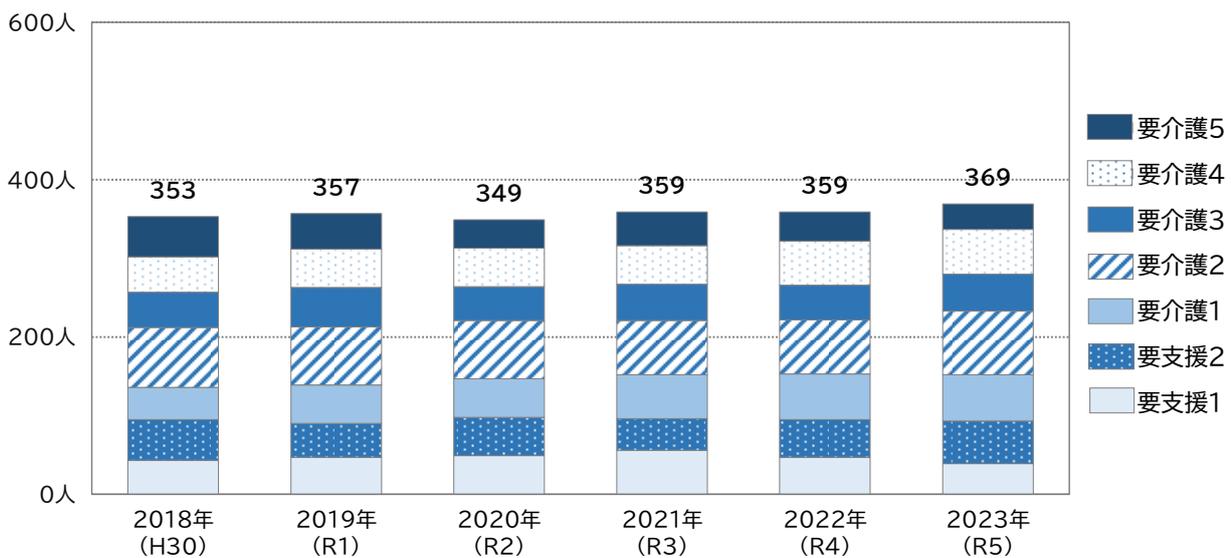


出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

高齢化率、介護保険認定者数

2023年の高齢化率は保土ヶ谷区全体の26.6%を大幅に上回る41.4%となっており、高齢化が進んでいます。介護保険認定者数は2018年から2023年にかけて増加傾向にあり、特に、要介護1と要介護4の増加が目立っています。

高齢化率 地区:41.4% 保土ヶ谷区全体:26.6%



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)



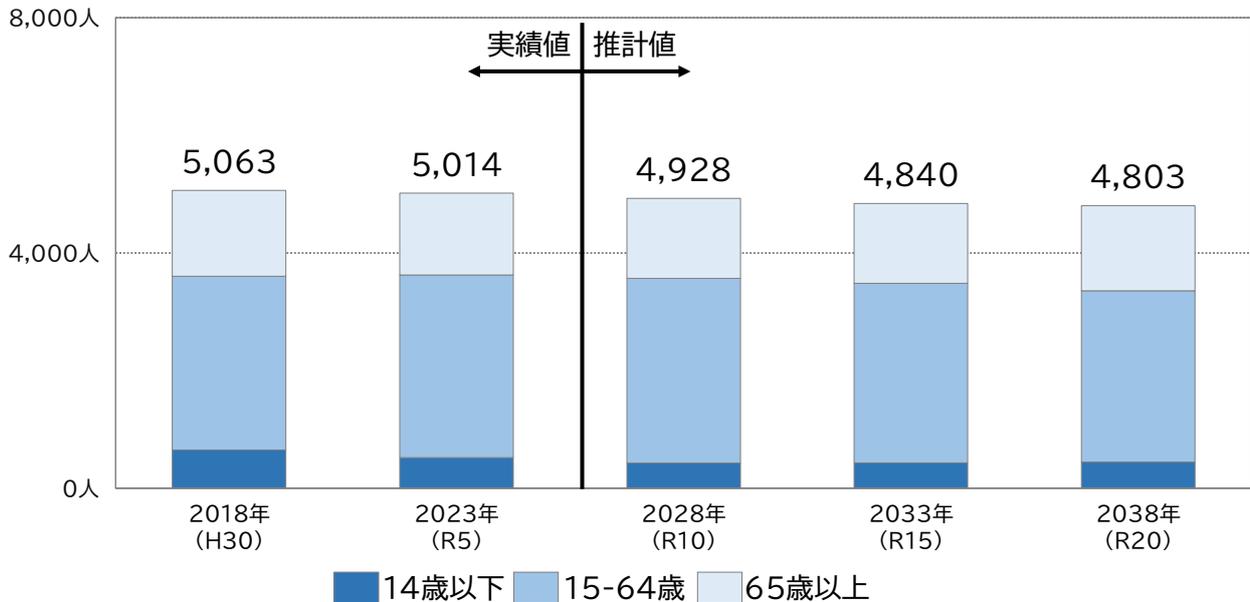
上新地区

2023年(令和5年)時点

	世帯数	総人口	0~14歳	15~64歳	65歳~
上新地区	2,338 世帯	5,014 人	520 人	3,102 人	1,392 人
保土ヶ谷区	104,538 世帯	203,241 人	21,408 人	127,678 人	54,155 人

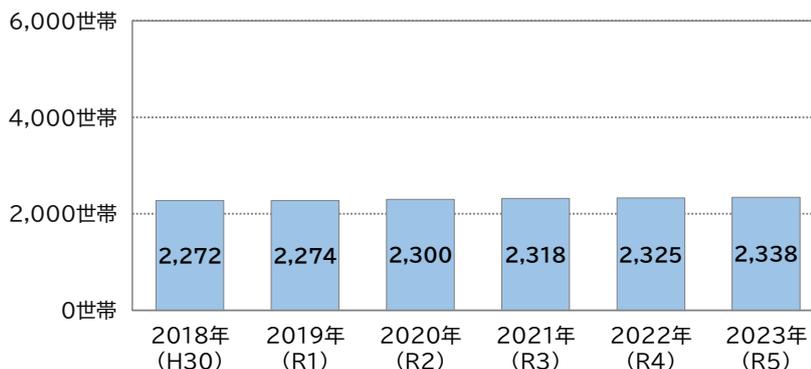
人口推移と将来推計

上新地区では、2023年に約5,000人だった総人口が、15年後の2038年には約4%減少し、約4,800人になると予測されています。また、15-64歳、65歳以上の人口はともに2023年から2038年にかけて横ばいで推移すると予測されており、高齢化は比較的緩やかに進行すると考えられます。



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

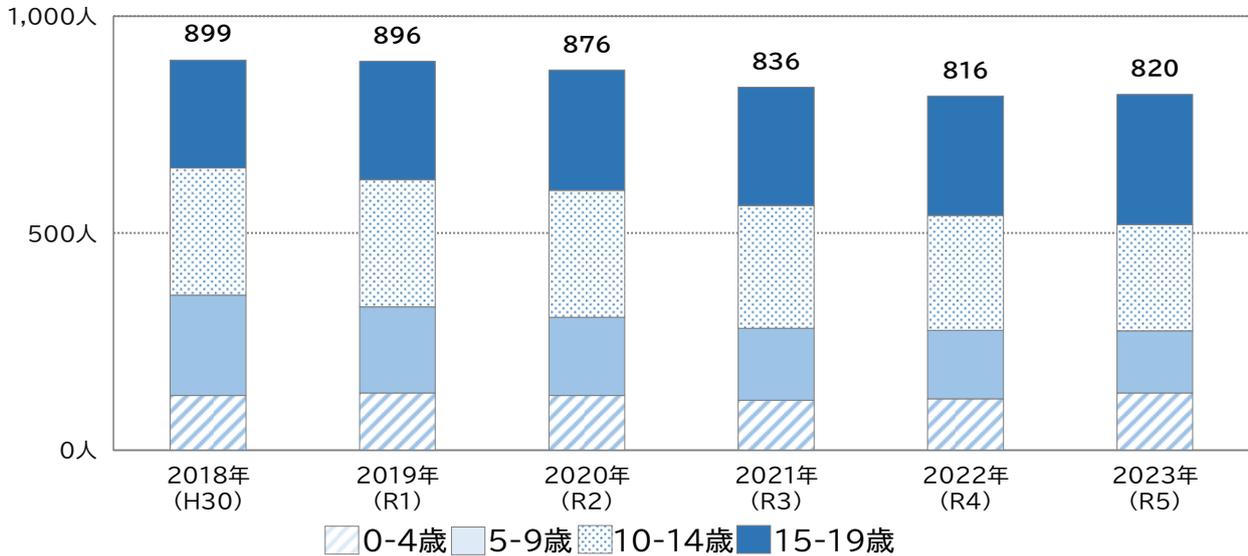
世帯数の推移



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

0～19歳の人口

上新地区の若年人口は、2018年から2023年にかけて緩やかに減少しています。2018年に899人だった19歳以下の人口が、2023年にかけて約9%減少し、820人となっています。2021年以降、0-4歳は増加に転じています。

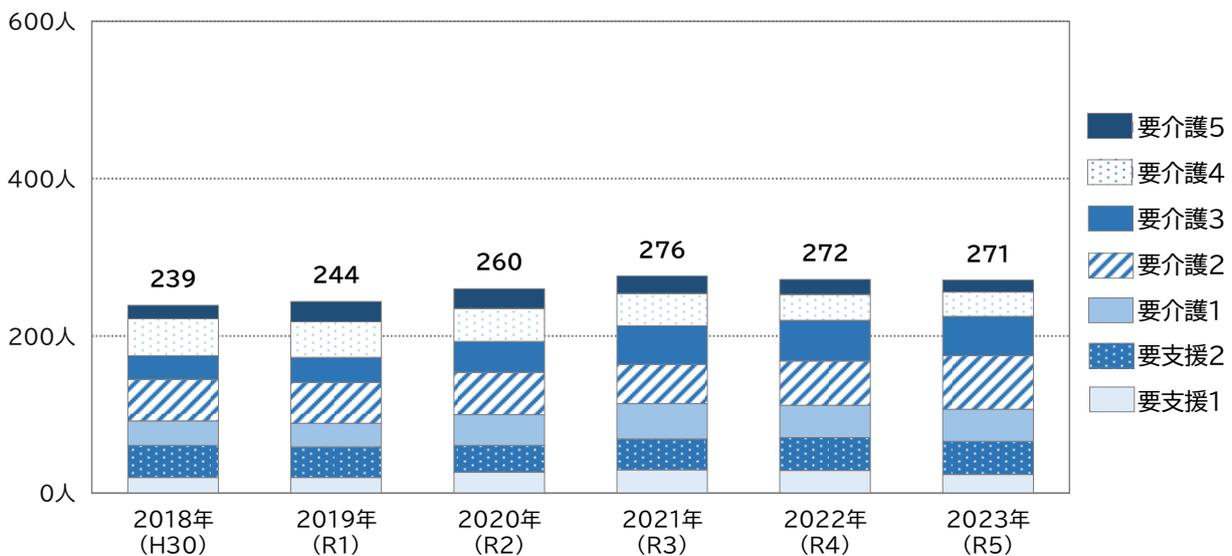


出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

高齢化率、介護保険認定者数

2023年の高齢化率は27.8%で、保土ヶ谷区全体の26.6%と大きく変わりません。介護保険認定者数は2018年から2021年にかけて増加傾向にありましたが、2021年以降は横ばいとなっています。2021年と比べると、2023年では要介護2が増加していますが、その他は減少が多く見られ、中でも要介護5と要介護4の減少が目立っています。

高齢化率 地区:27.8% 保土ヶ谷区全体:26.6%



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)



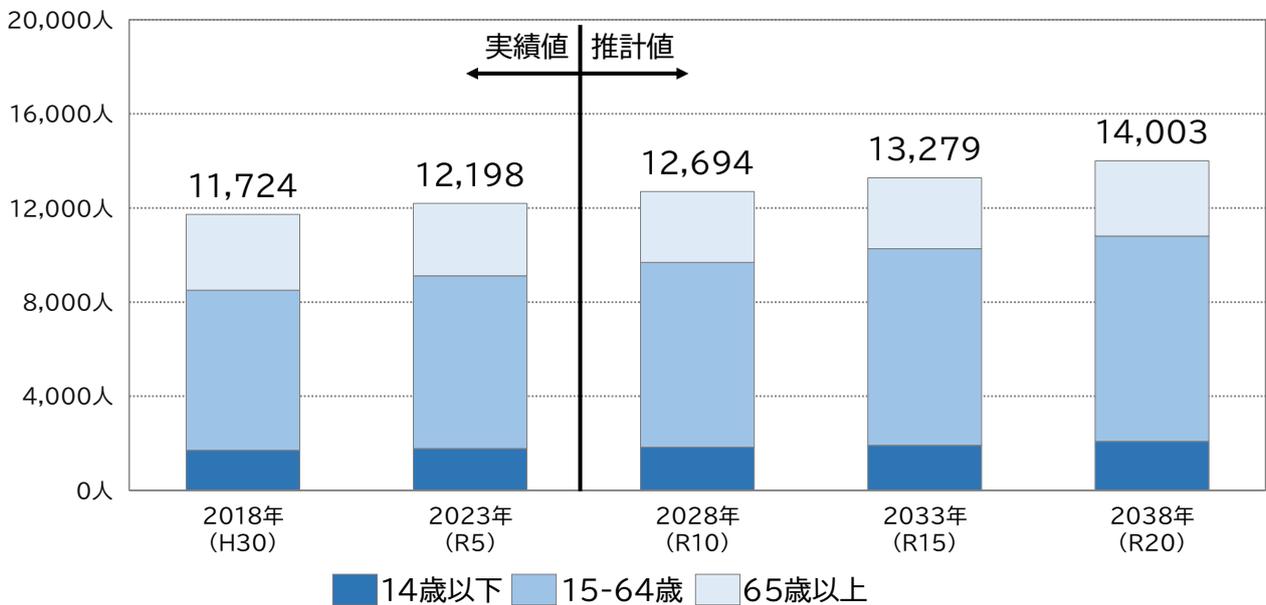
上菅田地区

2023年(令和5年)時点

	世帯数	総人口	0~14歳	15~64歳	65歳~
上菅田地区	5,427世帯	12,198人	1,781人	7,341人	3,076人
保土ヶ谷区	104,538世帯	203,241人	21,408人	127,678人	54,155人

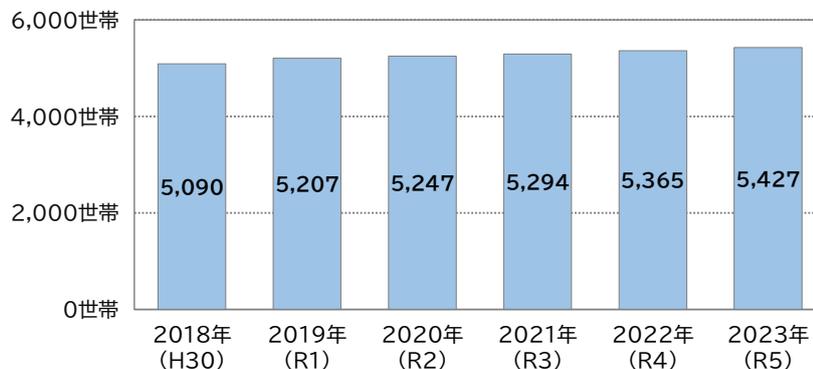
人口推移と将来推計

上菅田地区では、2023年に約12,200人だった総人口が、2038年には約15%増加し、約14,000人になると予測されています。また、14歳以下と15-64歳の人口増加によって、高齢化は進みにくいと考えられます。



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

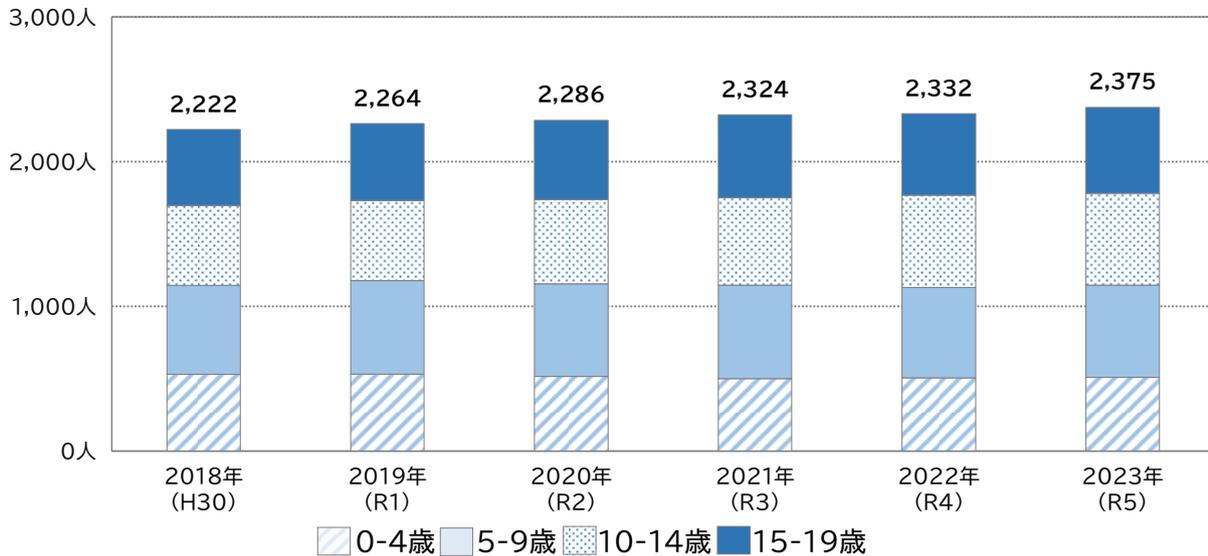
世帯数の推移



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

0～19歳の人口

上菅田地区の若年人口は、2018年から2023年にかけて緩やかに増加しています。2018年に2,222人だった19歳以下の人口は、2023年にかけて約7%増加し、2,375人となっています。2018年以降、0-4歳と5-9歳の人口はほぼ横ばいで推移しましたが、10-14歳と15-19歳の人口には増加傾向が見られています。

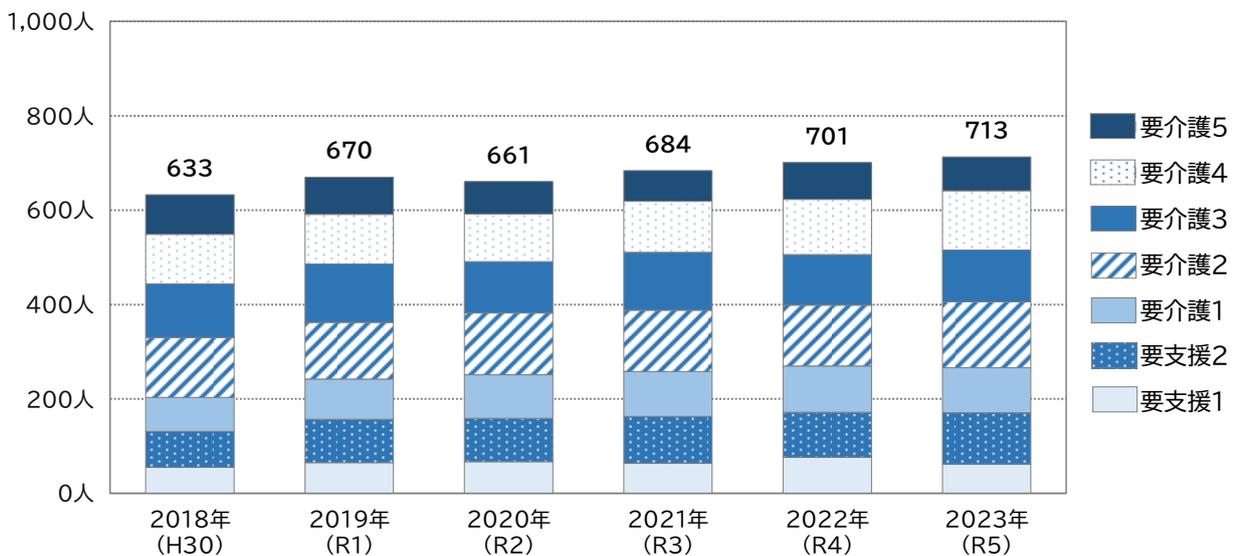


出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

高齢化率、介護保険認定者数

2023年の高齢化率は25.2%で、保土ヶ谷区全体の26.6%と大きく変わりません。介護保険認定者数は2018年から2023年にかけて増加傾向にあり、特に要支援2、要介護1、要介護4の増加が目立っています。

高齢化率 地区:25.2% 保土ヶ谷区全体:26.6%



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)



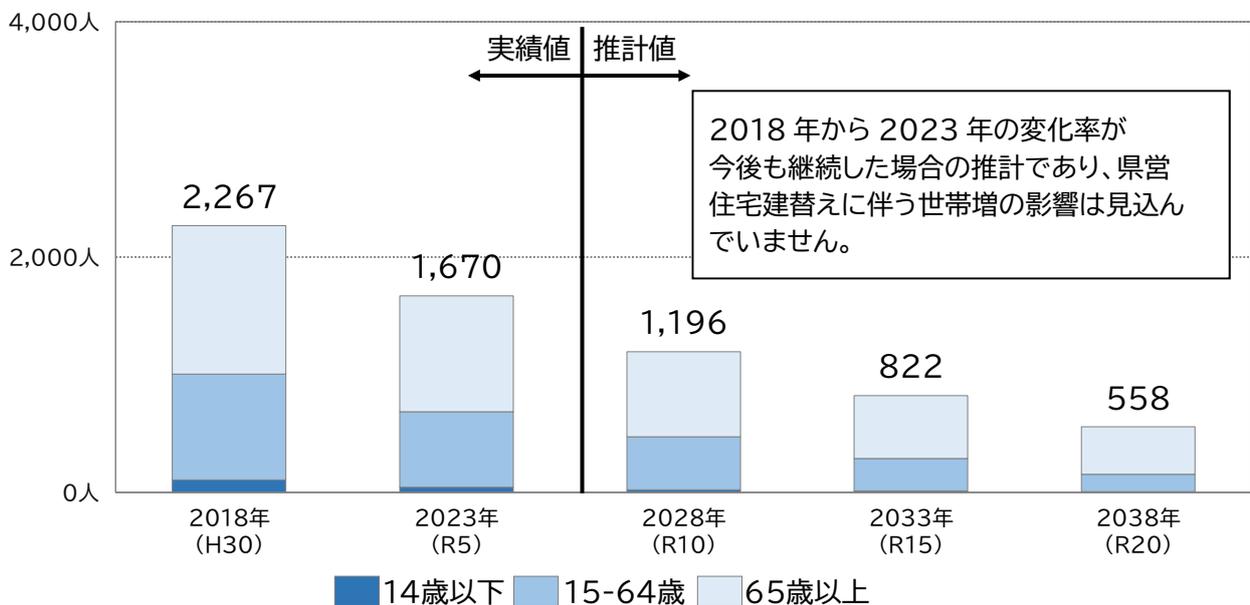
笹山地区

2023年(令和5年)時点

	世帯数	総人口	0~14歳	15~64歳	65歳~
笹山地区	1,151世帯	1,670人	43人	643人	984人
保土ヶ谷区	104,538世帯	203,241人	21,408人	127,678人	54,155人

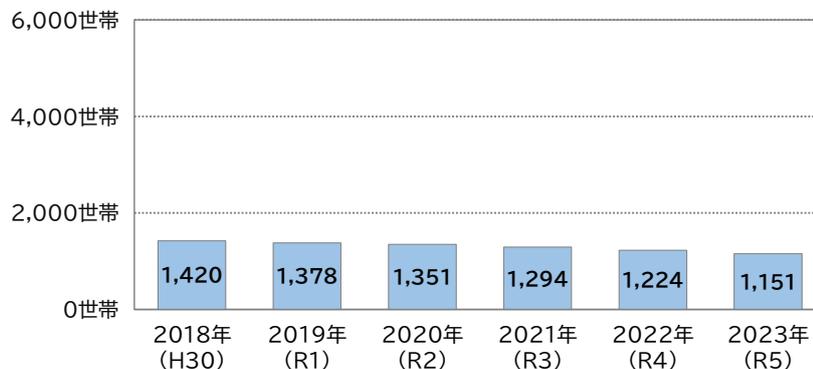
人口推移と将来推計

笹山地区では、2018年から2023年にかけて総人口が約26%減少しており、2028年以降も人口減少が予測されています。2023年までの減少傾向が今後も継続した場合、2038年には約67%減少します。



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

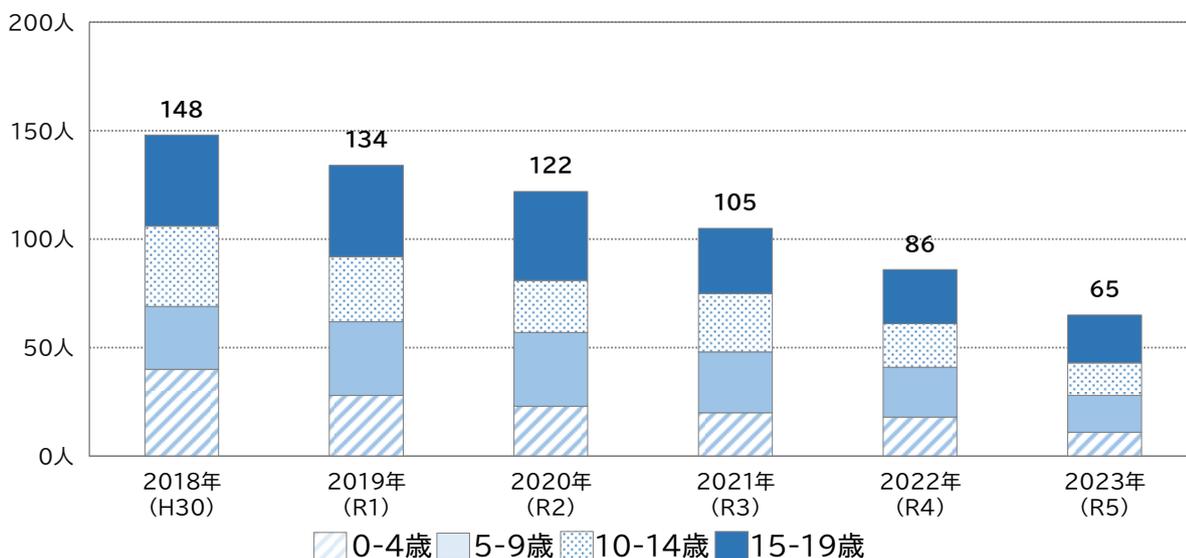
世帯数の推移



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

0～19歳の人口

笹山地区の若年人口は、2018年から2023年にかけて大幅に減少しています。2018年に148人だった19歳以下の人口は、2023年にかけて約56%減少し、65人となっています。

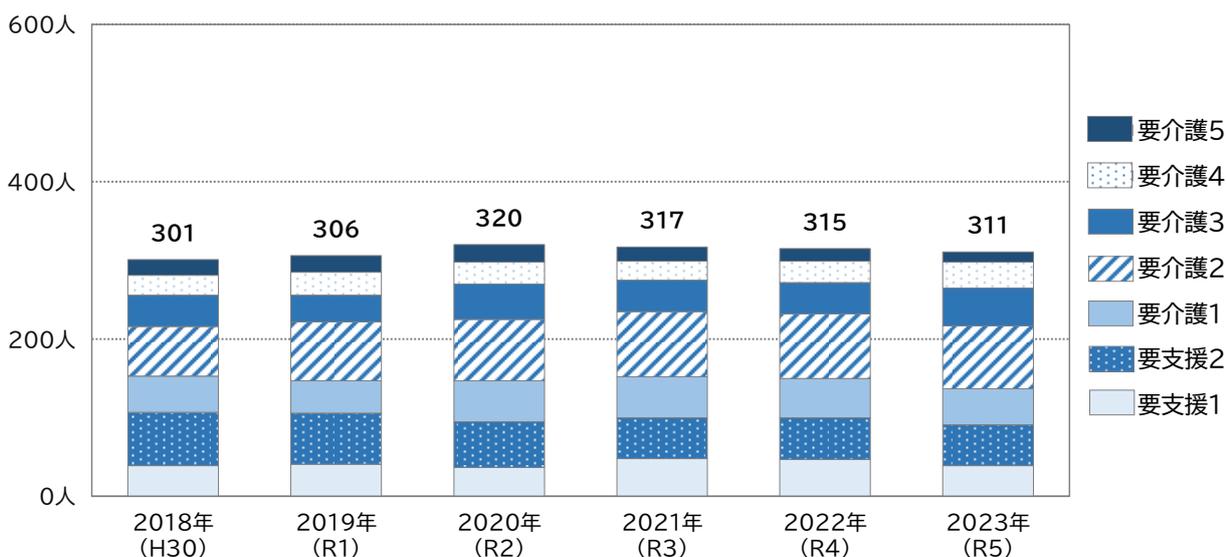


出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

高齢化率、介護保険認定者数

2023年の高齢化率は、保土ヶ谷区全体の26.6%を大幅に上回る58.9%で、高齢化が進んでいます。介護保険認定者数は2018年から2020年にかけて増加傾向でしたが、2020年以降は横ばいとなっています。2018年と比べると減少が目立つのは要支援2、要介護5、反対に増加が目立つのは要介護2、要介護4です。

高齢化率 地区:58.9% 保土ヶ谷区全体:26.6%



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)



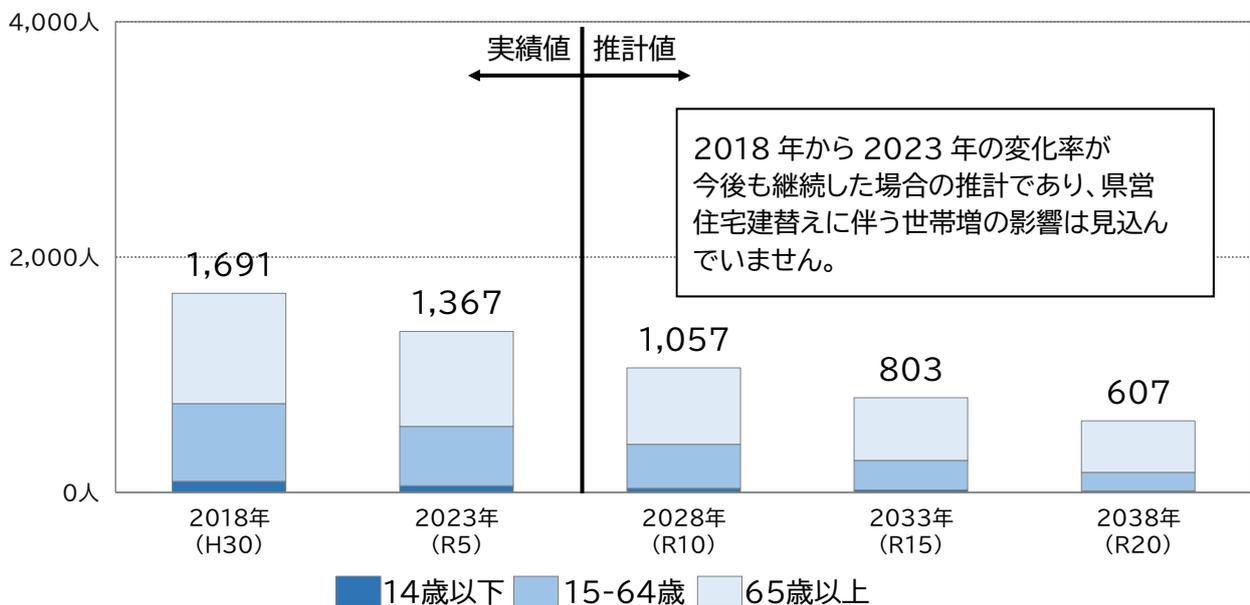
千丸台地区

2023年(令和5年)時点

	世帯数	総人口	0~14歳	15~64歳	65歳~
千丸台地区	880世帯	1,367人	56人	504人	807人
保土ヶ谷区	104,538世帯	203,241人	21,408人	127,678人	54,155人

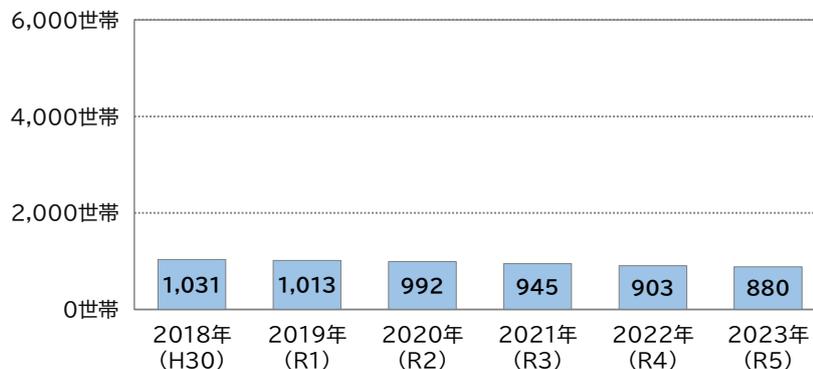
人口推移と将来推計

千丸台地区地区では、2018年から2023年にかけて総人口が約19%減少しており、2028年以降も人口減少が予測されています。2023年までの減少傾向が今後も継続した場合、2038年には約56%減少します。



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

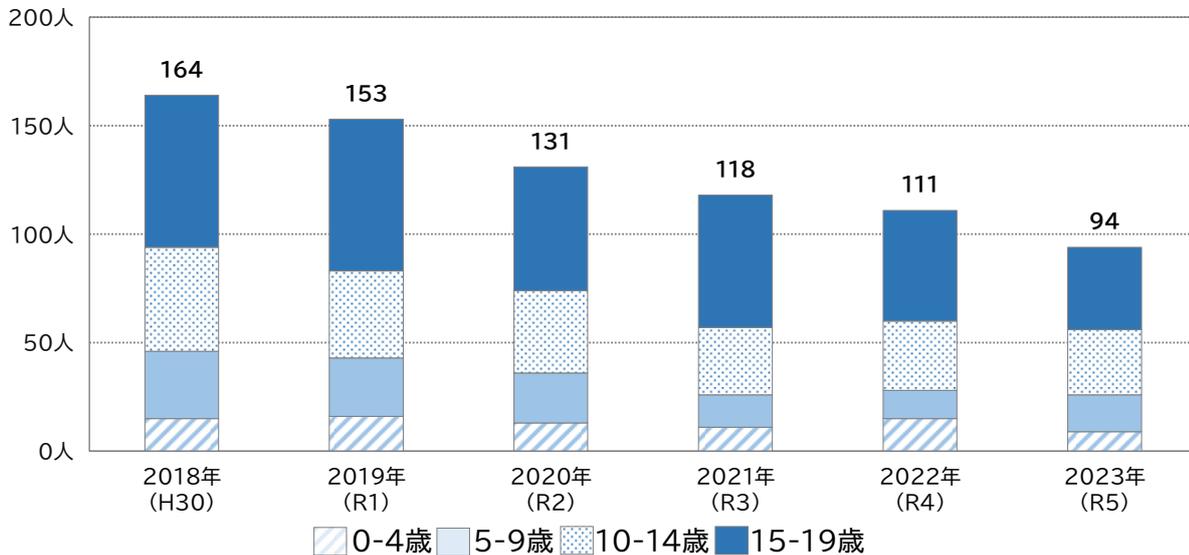
世帯数の推移



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

0～19歳の人口

千丸台地区の若年人口は、2018年から2023年にかけて大幅に減少しています。2018年に164人だった19歳以下の人口は、2023年にかけて約43%減少し、94人となっています。

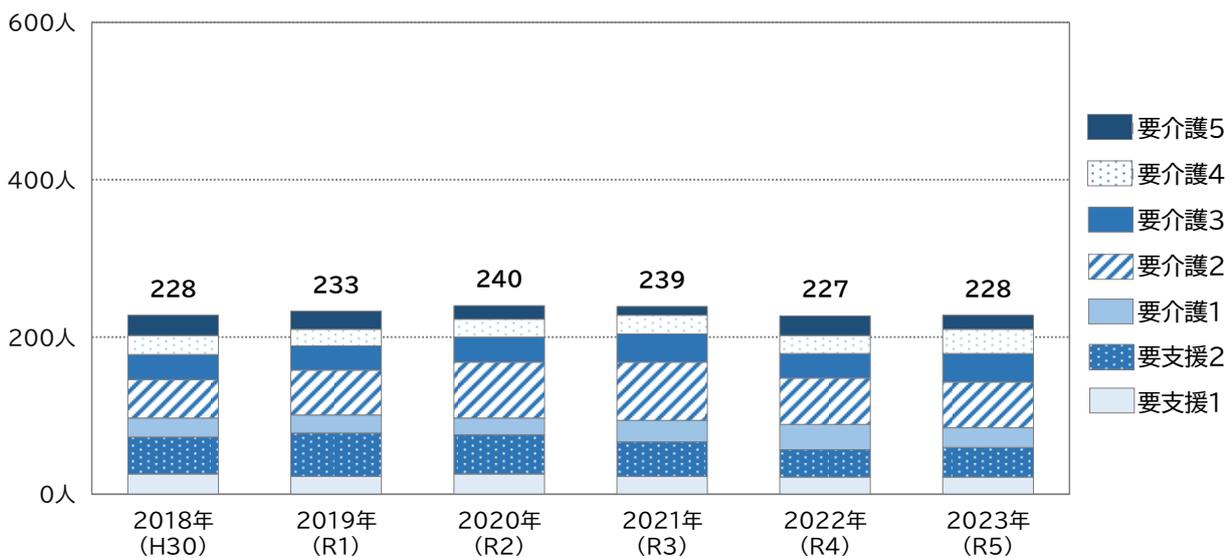


出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

高齢化率、介護保険認定者数

2023年の高齢化率は、保土ヶ谷区全体の26.6%を大幅に上回る59.0%で、高齢化が進んでいます。介護保険認定者数は2018年から2020年にかけて増加傾向でしたが、2020年以降は緩やかに減少しています。2018年と比べると減少が目立つのは要支援2、要介護5、反対に増加が目立つのは要介護2、要介護4です。

高齢化率 地区:59.0% 保土ヶ谷区全体:26.6%



出典)地区概況シート(健康福祉局作成)

ほっとなまちづくり地区別データ集

令和 7 年 3 月

発行:保土ヶ谷区 福祉保健課 事業企画担当
〒240-0001 横浜市保土ヶ谷区川辺町 2 番地 9
電話:045(334)6341 / FAX:045(333)6309

保土ヶ谷
ほっとな
まちづくり

